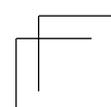
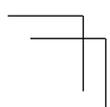


# 日本大学大学院 新聞学研究科 シラバス

令和元(2019)年度

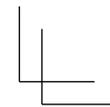
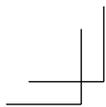




# 科目名索引

この大学院シラバスは、専攻の順に、今年度開講されている授業科目が掲載されている。

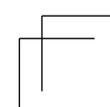
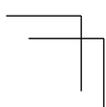
<b>ウ</b>		メディア理論演習Ⅰ	95
	ウェブ・ジャーナリズム論特殊講義	メディア理論演習Ⅱ	99
<b>エ</b>		メディア理論特殊研究	5
	映像ジャーナリズム論特殊講義	メディア倫理特殊講義	35
<b>ケ</b>		<b>ヨ</b>	
	研究指導	世論・政治意識とメディア（外国）特殊講義	27
<b>コ</b>		世論・政治意識とメディア（日本）特殊講義	23
	国際コミュニケーション論特殊講義	<b>リ</b>	
<b>シ</b>		リスクコミュニケーション論特殊講義	51
	ジャーナリズム史（外国）特殊講義		
	ジャーナリズム史（日本）特殊講義		
	ジャーナリズム史特殊演習（思想）		
	ジャーナリズム史特殊研究		
	ジャーナリズム史特殊研究（思想）		
	ジャーナリズム史特殊研究（比較）		
	ジャーナリズム制度（外国）特殊研究		
	ジャーナリズム制度（日本）特殊研究		
	ジャーナリズム制度特殊演習（システム）		
	ジャーナリズム制度特殊演習（政策）		
	ジャーナリズム制度特殊研究（システム）		
	ジャーナリズム制度特殊研究（比較）		
	ジャーナリズム調査演習Ⅰ		
	ジャーナリズム調査演習Ⅱ		
	ジャーナリズム調査演習Ⅲ		
	ジャーナリズム理論演習Ⅰ		
	ジャーナリズム理論演習Ⅱ		
	ジャーナリズム理論特殊演習（規範）		
	ジャーナリズム理論特殊演習（実証）		
	ジャーナリズム理論特殊演習（社会）		
	ジャーナリズム理論特殊研究		
	ジャーナリズム理論特殊研究（規範）		
	ジャーナリズム理論特殊研究（実証）		
<b>セ</b>			
	政治ジャーナリズム論特殊講義		
	専門演習（研究指導）		
<b>チ</b>			
	中国メディア論特殊講義		
<b>ヒ</b>			
	比較コミュニケーション政策論特殊講義		
	比較ジャーナリズム論特殊講義		
<b>フ</b>			
	文献研究（英）		
	文献研究（中）		
	文献研究（日）		
<b>メ</b>			
	メディア史特殊研究		
	メディア社会論特殊講義		
	メディア制度（外国）特殊研究		
	メディア制度（日本）特殊研究		
	メディア調査演習Ⅰ		
	メディア調査演習Ⅱ		
	メディア調査演習Ⅲ		
	メディア法制特殊講義		



新聞学専攻

新聞学研究科

新聞学専攻





科目名	ジャーナリズム理論特殊研究	担当者	小林 義寛	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムは近代社会におけるインフラストラクチャーの構築に貢献する組織である。そこで、まず西欧近代社会の存立基盤である近代思想とその組成および制度的枠組みについて理解をすることから始める。その後、戦後日本社会の形態と歩みを概観しつつ、日本を事例にジャーナリズムの意義を考察する。			
授業目的・到達目標	近代社会とはなにか。また、戦後から現在まで、日本社会はどのように展開したのか。その概観とともに、日本におけるジャーナリズムへの理論的接近のための基礎として社会学的思考を身につける。			
履修条件	社会学の知識を習得していることが望ましい。日本近現代史の基本知識を蓄積していることは必須要件である。			
授業方法	教科書を使用し、指定された担当部分を報告した上で課題を提起する方法をとる。毎回レジュメを配布すること。ただし、使用文献に関しては、状況により受講生の相談に応じる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	基本的に授業内での文献解題と報告、課題レポートの結果を勘案する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	授業時に相談しながら指定する。		
参考書	授業時に指示する			
オフィスアワー	水曜5限、研究室にて			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。(2時間)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	研究テーマとの関係を確認する。(2時間)
2	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	西欧近代社会とはなにか
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
3	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	トクヴィルとフランス社会
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
4	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	デュルケムと社会学
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)

5	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	ベルグソンと持続
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
6	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	戦後日本社会①：理想の時代
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
7	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	戦後日本社会②：虚構の時代
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
8	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	戦後日本社会③：オタクの謎
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
9	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	戦後日本社会④：リスク社会再論
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
10	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	戦後日本社会⑤：不可能性の時代
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
11	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	戦後日本社会⑥：政治的思想空間の現在
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
12	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	ポスト・トゥルースにおけるジャーナリズム①
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
13	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	ポスト・トゥルースにおけるジャーナリズム②
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
14	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	ポスト・トゥルースにおけるジャーナリズム③
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
15	事前学習	これまでの内容を整理し、質問や議論を確認しておく。(2時間)
	授業内容	まとめ
	事後学習	全体としてのレポート作成。(2時間)

科目名	メディア理論特殊研究	担当者	小林 義寛	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	大衆社会状況での社会成員の特徴を考察し、そうした成員たちによって劇場化される諸社会現象とマス・メディアが如何に関わっているのかを論じることで、現代社会におけるマス・メディアの存在意義を問う視座を明らかにする。						
授業目的・到達目標	現代日本社会におけるメディア現象に対して、社会学や文化理論に基づいて、理論的にアプローチする方法を身につける。						
履修条件	メディア現象に対して広く興味をもって接していること。ただし、単なる興味以上に、社会学や文化理論などの理論的な関心をあわせもつ必要がある。						
授業方法	教科書を使用し、指定された担当部分を報告した上で課題を提起する方法をとる。毎回レジュメを配布すること。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	平常の授業における文献解題、報告、課題レポートの成果による。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考	授業時に相談する。					
参考書	授業時に適宜指示する。						
オフィスアワー	水曜5限、研究室にて						

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。(2時間)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	研究テーマとの関係を確認する。(2時間)
2	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	カルチュラル・スタディーズの始まりと関連する思想①
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
3	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	カルチュラル・スタディーズの始まりと関連する思想②
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
4	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	対象とする現象と思考様式①メディア研究
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)

5	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	対象とする現象と思考様式②サブカルチャー研究
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
6	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	対象とする現象と思考様式③フェミニズムとジェンダー
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
7	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	対象とする現象と思考様式④ポストコロニアリズム
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
8	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	対象とする現象と思考様式⑤その他
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
9	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	現代日本のメディア文化にアプローチする①
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
10	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	現代日本のメディア文化にアプローチする②
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
11	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	現代日本のメディア文化にアプローチする③
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
12	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	現代日本のメディア文化にアプローチする④
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
13	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	現代日本のメディア文化にアプローチする⑤
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
14	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。(2時間)
	授業内容	現代日本のメディア文化にアプローチする⑥
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。(2時間)
15	事前学習	これまでの全体の内容を整理し、質問や議論を確認する。(2時間)
	授業内容	まとめ
	事後学習	全体を通じてのレポート作成。(2時間)

科目名	ジャーナリズム制度(日本)特殊研究	担当者	塚本 晴二郎	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	日本のジャーナリズム制度論の代表的な研究者の先行研究を学ぶ。制度論的な研究方法論について学習する。当該年度の学会発表で、適当なものがあつた場合は、積極的に取り入れていく。			
授業目的・到達目標	広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策などに関する諸問題に対して、批判的思考力に基づき分析し、解決する能力の修得を目的とする。 広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策を批判的に捉え、分析し、解決することができる方法論を体得することを目標とする。			
履修条件	大学院の講義である以上、学部レベルの基礎知識があることは大前提である。その上で、ジャーナリズムの制度論的研究の方法論を体得したいと思う者のみが受講すべきと考える。			
授業方法	各回のテーマについて、必要に応じて資料津を配布し、講義を進める。ただし、各回のテーマに沿った先行研究を図書館等で、受講生自らできるだけ多く入手し、読み込んでくること自体が、本講義の主眼である。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	講義に取り組む姿勢や授業内での対話などから、総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参考書	受講者の問題意識に応じて適宜指示する。			
オフィスアワー	原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。 研究室(9号館1階 9101研究室) メールアドレス tsukamoto.seihiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、「メディア法」「情報法」等の学部での制度論的な科目の内容を把握しておく。(2時間)
	授業内容	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、講義の進め方を説明し、受講生が講義の準備を具体的にできるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	「表現の自由論」の先行研究をできるだけ多く入手し、読み込み、疑問点等を積極的に質問できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	「表現の自由論」の先行研究を解説し、その方法論を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「表現の自由論」研究の方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)
3	事前学習	「知る権利」の先行研究をできるだけ多く入手し、読み込み、疑問点等を積極的に質問できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	「知る権利」の先行研究を解説し、その方法論を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「知る権利」研究の方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)
4	事前学習	「取材・報道の自由」の先行研究をできるだけ多く入手し、読み込み、疑問点等を積極的に質問できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	「取材・報道の自由」の先行研究を解説し、その方法論を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「取材・報道の自由」研究の方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)

5	事前学習	「名誉毀損」の先行研究をできるだけ多く入手し、読み込み、疑問点等を積極的に質問できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	「名誉毀損」の先行研究を解説し、その方法論を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「名誉毀損」研究の方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)
6	事前学習	「プライバシー侵害」の先行研究をできるだけ多く入手し、読み込み、疑問点等を積極的に質問できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	「プライバシーの侵害」の先行研究を解説し、その方法論を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「プライバシー侵害」研究の方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)
7	事前学習	「少年犯罪報道」の先行研究をできるだけ多く入手し、読み込み、疑問点等を積極的に質問できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	「少年犯罪報道」の先行研究を解説し、その方法論を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「少年犯罪報道」研究の方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)
8	事前学習	「ヘイト・スピーチ」の先行研究をできるだけ多く入手し、読み込み、疑問点等を積極的に質問できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	「ヘイト・スピーチ」の先行研究を解説し、その方法論を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「ヘイト・スピーチ」研究の方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)
9	事前学習	「性表現の自由」の先行研究をできるだけ多く入手し、読み込み、疑問点等を積極的に質問できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	「性表現の自由」の先行研究を解説し、その方法論を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「性表現の自由」研究の方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)
10	事前学習	「著作権」の先行研究をできるだけ多く入手し、読み込み、疑問点等を積極的に質問できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	「著作権」の先行研究を解説し、その方法論を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「著作権」研究の方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)
11	事前学習	「情報公開」の先行研究をできるだけ多く入手し、読み込み、疑問点等を積極的に質問できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	「情報公開」の先行研究を解説し、その方法論を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「情報公開」研究の方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)
12	事前学習	「広告関連法規」の先行研究をできるだけ多く入手し、読み込み、疑問点等を積極的に質問できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	「広告関連法規」の先行研究を解説し、その方法論を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「広告関連法規」研究の方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)
13	事前学習	「SNS関連法規」の先行研究をできるだけ多く入手し、読み込み、疑問点等を積極的に質問できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	「SNS」の先行研究を解説し、その方法論を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「SNS関連法規」研究の方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)
14	事前学習	自分が体得したいと思った方法論に関する発表のレジュメの作成等、自身の課題発表の準備を行う。(2時間)
	授業内容	自分が体得したいと思った方法論に関する発表を行い、受講生同士の討論と、教員の講評を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分が体得したいと思った方法論に関して説明ができるようにまとめておく。(2時間)
15	事前学習	初回からの講義ノートを見直し、前回の発表を踏まえて、制度論的な研究方法論を体系的に考察する。(2時間)
	授業内容	総括講義
	事後学習	初回からの講義ノートを見直し、制度論的な研究方法論の研究ノートが作成できるようにまとめておく。(2時間)

科目名	メディア制度(日本)特殊研究	担当者	笹田 佳宏	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	日本におけるメディア活動と各種法律の関係を考察していくことが本講義の目的です。特に、表現の自由の確保、権力との関係などに注目していきたいと考えています。			
授業目的・到達目標	日本におけるメディアと各種法律の特徴を理解するとともに、批判的な論評を加えることができる視座をもつことも目的です。			
履修条件	特にありませんが、教科書の当該箇所や指定された参考文献などを事前に読み、毎回、発表レポートを作成してください。			
授業方法	各受講生の発表を基に、受講者全員でテーマについて議論を行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業への参加、提出レポート、報告内容によって評価します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	学陽書房	法とジャーナリズム (第3版)	山田健太
	備考			
参考書				
オフィスアワー	月曜日の13:00~14:00 (事前にメールでアポイントメントを取ること) 研究室 (本館9階1914) メールアドレス: sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	教科書のテーマの中で興味をもった箇所を読んでください。(2時間)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスを受けて、教科書のテーマの中で興味をもった箇所を読んでください。(2時間)
2	事前学習	教科書の「民主主義社会と表現の自由」を読み、発表レポートを作成してください。(2時間)
	授業内容	民主主義社会と表現の自由
	事後学習	日本における表現の自由の捉え方についてまとめてください。(2時間)
3	事前学習	教科書の「検閲の禁止と表現規制類型」を読み、発表レポートを作成してください。(2時間)
	授業内容	検閲の禁止と表現規制類型
	事後学習	授業で議論となったテーマに関する自分の意見をまとめてください。(2時間)
4	事前学習	教科書の「取材・報道の自由と報道定義」を読み、発表レポートを作成してください。(2時間)
	授業内容	取材・報道の自由と報道定義
	事後学習	判例による、報道の自由と取材の自由の違いについてまとめてください。(2時間)

5	事前学習	教科書の「プレスの公共性と特恵的待遇」を読み、発表レポートを作成してください。（2時間）
	授業内容	プレスの公共性と特恵的待遇
	事後学習	プレスの特恵的待遇を分類し、まとめてください。（2時間）
6	事前学習	教科書の「開かれた政府の実現」を読み、発表レポートを作成してください。（2時間）
	授業内容	開かれた政府の実現
	事後学習	情報公開制度の概要をまとめてください。（2時間）
7	事前学習	教科書の「立法・司法情報へのアクセス」を読み、発表レポートを作成してください。（2時間）
	授業内容	立法・司法情報へのアクセス
	事後学習	裁判員制度の課題についてまとめてください。（2時間）
8	事前学習	教科書の「放送の自由と放送政策」を読み、発表レポートを作成してください。（2時間）
	授業内容	放送の自由と放送政策Ⅰ
	事後学習	授業で議論となったテーマに関する自分の意見をまとめてください。（2時間）
9	事前学習	教科書の「放送の自由と放送政策」を読み、発表レポートを作成してください。（2時間）
	授業内容	放送の自由と放送政策Ⅱ
	事後学習	授業で議論となったテーマに関する自分の意見をまとめてください。（2時間）
10	事前学習	教科書の「国家安全保障と知る権利」を読み、発表レポートを作成してください。（2時間）
	授業内容	国家安全保障と知る権利
	事後学習	特定秘密保護法の問題点をまとめてください。（2時間）
11	事前学習	教科書の「選挙と表現の自由」を読み、発表レポートを作成してください。（2時間）
	授業内容	選挙と表現の自由
	事後学習	政治的公平について自分の意見をまとめてください。（2時間）
12	事前学習	教科書の「政治をめぐる表現の自由」を読み、発表レポートを作成してください。（2時間）
	授業内容	政治をめぐる表現の自由
	事後学習	国民投票法の課題をまとめてください。（2時間）
13	事前学習	教科書の「名誉毀損と批判の自由」を読み、発表レポートを作成してください。（2時間）
	授業内容	名誉毀損と批判の自由
	事後学習	免責要件についてまとめてください。（2時間）
14	事前学習	教科書の「プライバシー侵害」を読み、発表レポートを作成してください。（2時間）
	授業内容	プライバシー侵害
	事後学習	違法性阻却事由についてまとめてください。（2時間）
15	事前学習	これまでの発表レポート、事後学習でまとめたものを読んでください。（2時間）
	授業内容	課題レポート及び総括
	事後学習	総括を踏まえ、再度、これまでの発表レポート、事後学習でまとめたものを読んでください。（2時間）

科目名	ジャーナリズム制度(外国)特殊研究	担当者	山本 賢二	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	世界各国のジャーナリズムはそれぞれの国情が反映される。ここでいう国情とは権力の所在であり、それぞれの国家権力との関係の中でジャーナリズムが制度化される。本講義は日本と中国のジャーナリズム制度を比較するため、日本の中国報道と中国の日本報道を比較対照し、それぞれのジャーナリズムを概観するとともに、日中戦争にも触れ、国家とジャーナリズムについて考える。						
授業目的・到達目標	日本と中国のジャーナリズム制度を通時的、共時的に理解する方法を修得することを目標とする。日中のジャーナリズム理解のための一環として、今年度は戦後の日中関係の「起点」となった「日中戦争」(抗日戦争)に関する国共の立場も提示する。						
履修条件	特になし。						
授業方法	関連資料の輪読が中心になるが、NHKなどで放映された関連番組なども視聴し、問題意識を啓発し、授業を展開する。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	50%：レポート(テーマ「国家主権とジャーナリズム」期末提出) 50%：授業参加度。				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	2019年度	教員学生共有サイト掲載	2019ジャーナリズム制度(外国)特殊研究	山本編			
	2019年	教員学生共有サイト掲載	日中関係資料(山本編)Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	山本編			
	備考						
参考書	適宜指示する。						
オフィスアワー	月曜日と水曜日の12時30分から13時まで2号館9階講師室。時間が必要な場合は、別の時間を設定するので、事前に下記のアドレスに連絡すること。 yamamoto.kenji@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	プレスの自由の概念を確認する。(2時間)
	授業内容	プレスの自由をめぐる日中の理念
	事後学習	日中の異なる理念をまとめる。(2時間)
2	事前学習	日中間の新聞記者交換の歴史を調べる。(2時間)
	授業内容	日中新聞記者交換
	事後学習	日中記者交換の問題点をまとめる。(2時間)
3	事前学習	民族問題の報道に関する知識を得ておく。(2時間)
	授業内容	ウルムチ7.5事件に関する日本新聞の社説
	事後学習	ウルムチ事件に関する社説から日本の新聞の中国報道の問題点をまとめる。(2時間)
4	事前学習	広報外交の概念を理解しておく。(2時間)
	授業内容	中国日国斗争析
	事後学習	中国の対日広報外交をまとめる。(2時間)

5	事前学習	国家と外交に関する知識を得ておく。(2時間)
	授業内容	日本媒体と中日関係
	事後学習	中国が見る日本メディアの日中関係に関する報道をまとめる。(2時間)
6	事前学習	日本の新聞の中国報道を概観しておく。(2時間)
	授業内容	産経新聞の中国報道
	事後学習	産経新聞の中国報道を評価する。(2時間)
7	事前学習	満州事変(9.18)について調べる。(2時間)
	授業内容	“九一八”：当年的日本媒体是徹的
	事後学習	日本のメディアの満州事変報道をまとめる。(2時間)
8	事前学習	戦争報道について調べる。(2時間)
	授業内容	日本媒体的争任：不底的清算
	事後学習	日本のメディアの「戦争責任」をまとめる。(2時間)
9	事前学習	国際報道とは何かを調べる。(2時間)
	授業内容	国道管理定
	事後学習	中国の国際報道の「規定」をまとめる。(2時間)
10	事前学習	日中国交正常化後の歴史を調べる。(2時間)
	授業内容	中日邦交正常化30年来日本人中国看法的・中国人日本的化
	事後学習	日本人の対中観と中国人の対日観の変遷をまとめる。(2時間)
11	事前学習	日中戦争(抗日戦争)の歴史を調べる。(2時間)
	授業内容	抗戦勝利告全国军民及全世界人士書・抗日争利后的局和我的方
	事後学習	中国国民党と中国共産党の日中戦争終結時における立場をまとめる。(2時間)
12	事前学習	毛沢東について調べる。(2時間)
	授業内容	毛“感日本”言集
	事後学習	毛沢東の発言背景をまとめる。(2時間)
13	事前学習	中国国民党について調べる。(2時間)
	授業内容	共赴国宣言・蒋介石中共宣言的
	事後学習	蒋介石の「宣言」の背景をまとめる。(2時間)
14	事前学習	メディアリテラシーの基礎知識を得ておく。(2時間)
	授業内容	日中相互理解とメディアリテラシー
	事後学習	人とメディアの関係を考える。(2時間)
15	事前学習	これまでの議論をまとめておく。(2時間)
	授業内容	まとめ(話し合い)中国と日本のメディアの相違と戦後における日中関係の基礎にある日中戦争をかんがえる
	事後学習	日中関係を通時的に見るためにメディアをどのように活用するかを考える。(2時間)

科目名	メディア制度(外国)特殊研究	担当者	米倉 律	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	世界各国の政治・社会・文化・歴史等のコンテキストに応じて多様なメディア制度が存在し、そのうえで様々なメディア・ジャーナリズム活動・事業が展開されている。本授業では、日本のメディア制度と各国のメディア制度を新聞、通信、放送など各分野ごとに比較しながら、その特徴や傾向、課題等について講義する。						
授業目的・到達目標	日本のメディア制度と各国のメディア制度の特徴、傾向に関する基礎理論を養成することを目的とする。日本および各国のメディア制度の現状および課題について理解し、説明できるようにすることを到達目標とする。						
履修条件	特になし。						
授業方法	各国のメディア事情、メディア制度に関する論文、書籍等を輪読しながら進める。レポートの結果は授業内で講評する。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	50%：レポート（期末に上記テーマのレポートを提出） 50%：常に問題意識をもって授業に参加すること。授業での発言などが平常評価の対象となる。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考	使用しない					
参考書	NHK放送文化研究所『データブック 世界の放送』（NHK出版、2018） その他、適宜指示する。						
オフィスアワー	毎週火曜日の昼休み。研究室は本館7階（1719） できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。 メールアドレスは、yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	入手した参考文献に目を通しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（「メディアとは、メディア制度とは」）
	事後学習	配布した資料、ノートなどを用いて振り返り。（2時間）
2	事前学習	参考文献や関連資料などを読んでおく。（2時間）
	授業内容	各国の主要なメディア制度の概況①
	事後学習	配布資料やノートを用いて復習する。（2時間）
3	事前学習	関連のデータを収集し、目を通しておく。（2時間）
	授業内容	各国の主要なメディア制度の概況②
	事後学習	講義およびディスカッションの内容を整理しまとめておく。（2時間）
4	事前学習	参考文献や関連資料などを読んでおく。（2時間）
	授業内容	米国におけるメディア制度の特質と課題①
	事後学習	配布資料やノートを用いて復習する。（2時間）

5	事前学習	関連のデータを収集し、目を通しておく。(2時間)
	授業内容	米国におけるメディア制度の特質と課題②
	事後学習	講義およびディスカッションの内容を整理しまとめておく。(2時間)
6	事前学習	参考文献に目を通しておく。(2時間)
	授業内容	米国におけるメディア制度の特質と課題③
	事後学習	参考文献の該当パートを読んで復習しておく。(2時間)
7	事前学習	関連のデータを収集し、目を通しておく。(2時間)
	授業内容	ヨーロッパのメディア制度・政策①
	事後学習	配布資料やノートを用いて復習する。(2時間)
8	事前学習	関連のデータを収集し、目を通しておく。(2時間)
	授業内容	ヨーロッパのメディア制度・政策②
	事後学習	講義およびディスカッションの内容を整理しまとめておく。(2時間)
9	事前学習	参考文献や関連資料などを読んでおく。(2時間)
	授業内容	ヨーロッパのメディア制度・政策③
	事後学習	配布資料やノートを用いて復習する。(2時間)
10	事前学習	関連のデータを収集し、目を通しておく。(2時間)
	授業内容	アジアのメディア事情とメディア制度①
	事後学習	講義およびディスカッションの内容を整理しまとめておく。(2時間)
11	事前学習	参考文献や関連資料などを読んでおく。(2時間)
	授業内容	アジアのメディア制度とメディア政策②
	事後学習	配布資料やノートを用いて復習する。(2時間)
12	事前学習	参考文献や関連資料などを読んでおく。(2時間)
	授業内容	アジアのメディア制度とメディア政策③
	事後学習	参考文献の該当パートを読んで復習しておく。(2時間)
13	事前学習	関連のデータを収集し、目を通しておく。(2時間)
	授業内容	国際報道の比較①
	事後学習	講義およびディスカッションの内容を整理しまとめておく。(2時間)
14	事前学習	参考文献や関連資料などを読んでおく。(2時間)
	授業内容	国際報道の比較②
	事後学習	配布資料やノートを用いて復習する。(2時間)
15	事前学習	第1回～14回の内容をまとめて整理しておく。(2時間)
	授業内容	総括
	事後学習	参考文献や資料を整理しまとめる。(2時間)

科目名	ジャーナリズム史特殊研究	担当者	大井 眞二	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	社会制度としてのジャーナリズムが近代社会の固有の空間に誕生した経緯を歴史的に把握する。						
授業目的・到達目標	ジャーナリズムの変遷を歴史的に考究するためのアプローチ、方法論を学ぶ。特に様々な歴史解釈の学派、研究のパラダイムの対立と抗争などについて、さまざまなトピックの研究例を通して、歴史実証の研究法を具体的に学ぶ。 ①ジャーナリズム史の方法論の基本的な理解 ②ジャーナリズム史解釈の諸学派の特徴の把握						
履修条件	前期、後期を連続受講すること						
授業方法	テキスト『ジャーナリズム・スタディーズのフィールド』（学文社）の輪読と批判的レビュー						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	50%：研究報告 50%：課題報告				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考						
参考書	『アメリカ報道史』（2016年、松柏社）、大井眞二他訳、その他、各講義の折に適宜紹介する。						
オフィスアワー	水曜日の午後1時半から2時半 あらかじめメールで用件の概要を伝えアポをとること。						

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの熟読（2時間）
	授業内容	はじめに：受講上の諸注意、教科書・参考文献紹介
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
2	事前学習	授業資料フォルダー（1）の熟読（2時間）
	授業内容	ジャーナリズム史の誕生① 「印刷史」
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
3	事前学習	授業フォルダー資料（2）の熟読（2時間）
	授業内容	ジャーナリズム史の誕生② ペニープレスの神話
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
4	事前学習	授業フォルダー資料（3）の熟読（2時間）
	授業内容	ジャーナリズム史の誕生③ 「偉人」理論の問題 研究報告（1）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）

5	事前学習	授業フォルダー資料（4）の熟読（2時間）
	授業内容	ジャーナリズム史の方法論を巡って① 「興亡・盛衰史観」の問題
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
6	事前学習	授業フォルダー資料（5）の熟読（2時間）
	授業内容	ジャーナリズム史の方法論を巡って② ホイッグ史観
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
7	事前学習	授業フォルダー資料（6）の熟読（2時間）
	授業内容	ジャーナリズム史の方法論を巡って③ 革新主義ジャーナリズム
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
8	事前学習	授業資料フォルダー（7）の熟読（2時間）
	授業内容	歴史研究のパラダイム変化 科学的歴史研究 研究報告（2）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
9	事前学習	授業資料フォルダー（8）の熟読（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムスクールの伝統 エメリーの「米報道史」
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
10	事前学習	授業資料フォルダー（9）の熟読（2時間）
	授業内容	新しいパラダイム① コンセンサス学派
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
11	事前学習	授業資料フォルダー（10）の熟読（2時間）
	授業内容	新しいパラダイム② 修正主義
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
12	事前学習	授業資料フォルダー（11）の熟読（2時間）
	授業内容	新しいパラダイム③ 社会史 研究報告（3）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
13	事前学習	授業資料フォルダー（12）の熟読（2時間）
	授業内容	研究事例① 客観性の起源
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
14	事前学習	授業資料フォルダー（13）の熟読（2時間）
	授業内容	研究事例② 客観性の起源
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
15	事前学習	授業資料フォルダー（1）から（13）の復習（2時間）
	授業内容	まとめと課題報告 研究報告（4）
	事後学習	授業総括リアクションペーパーの作成（2時間）

科目名	メディア史特殊研究	担当者	大井 眞二	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	近代社会という固有の空間に成立した社会制度としてのメディアを、社会との関係性において歴史的に考察する研究の、アプローチおよび方法論を学修する。			
授業目的・到達目標	主として、アメリカ史学の伝統に依拠するアプローチおよび方法論に基づき、諸学派の特徴を理解する。1970年代以降の批判的史学、とりわけコミュニケーション史、メディアの社会史、文化史などの新しい歴史研究のパラダイムを理解する。具体的には、 ①メディア史の方法論の基本的な理解 ②メディア史解釈の諸学派の特徴の把握 を目標とする。			
履修条件	前期、後期を連続受講すること			
授業方法	テキスト『ジャーナリズム・スタディーズのフィールド』（学文社）の輪読と批判的レビュー			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	50%：研究報告 50%：課題報告	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参考書	『アメリカ報道史』（2016年、松柏社）、大井眞二他訳、その他、各講義の折に適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜日の午後1時半から2時半 あらかじめメールで用件の概要を伝えアポをとること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの熟読（2時間）
	授業内容	はじめに：受講上の諸注意、教科書・参考文献紹介
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
2	事前学習	授業資料フォルダー（1）の熟読（2時間）
	授業内容	メディア史・コミュニケーション史研究の誕生
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
3	事前学習	授業資料フォルダー（2）の熟読（2時間）
	授業内容	「コミュニケーション史」と全体論的アプローチ
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）
4	事前学習	授業資料フォルダー（3）の熟読（2時間）
	授業内容	社会学的メディア史 研究報告（1）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（2時間）

5	事前学習	授業資料フォルダー（４）の熟読（２時間）
	授業内容	メディアの社会史
	事後学習	リアクションペーパーの作成（２時間）
6	事前学習	授業資料フォルダー（５）の熟読（２時間）
	授業内容	メディアの歴史研究のパラダイム変化
	事後学習	リアクションペーパーの作成（２時間）
7	事前学習	授業資料フォルダー（６）の熟読（２時間）
	授業内容	文化としてのコミュニケーション、コミュニケーションの文化史
	事後学習	リアクションペーパーの作成（２時間）
8	事前学習	授業資料フォルダー（７）の熟読（２時間）
	授業内容	儀式的コミュニケーションの問題構制 研究報告（２）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（２時間）
9	事前学習	授業フォルダ資料（８）の熟読（２時間）
	授業内容	革新主義の支配：エメリーの「米報道史」
	事後学習	リアクションペーパーの作成（２時間）
10	事前学習	授業資料フォルダー（９）の熟読（２時間）
	授業内容	新しいパラダイム(1)：エイゼンシュティンの「変化の動因としての印刷機」
	事後学習	リアクションペーパーの作成（２時間）
11	事前学習	授業資料フォルダー（１０）の熟読（２時間）
	授業内容	新しいパラダイム(2)：マルタンと「書物の歴史」
	事後学習	リアクションペーパーの作成（２時間）
12	事前学習	授業資料フォルダー（１１）の熟読（２時間）
	授業内容	新しいパラダイム(3)：ホールと「記録と記憶」 研究報告（３）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（２時間）
13	事前学習	授業資料フォルダー（１２）の熟読（２時間）
	授業内容	新しいパラダイム(4)：「ニュースの社会学」と社会史的アプローチ
	事後学習	リアクションペーパーの作成（２時間）
14	事前学習	授業資料フォルダー（１３）の熟読（２時間）
	授業内容	新しいパラダイム(5)：比較コミュニケーション史的視点
	事後学習	リアクションペーパーの作成（２時間）
15	事前学習	授業資料フォルダー（１）から（１３）の復習（２時間）
	授業内容	まとめと課題研究 研究報告（４）
	事後学習	授業総括リアクションペーパーの作成（２時間）

科目名	政治ジャーナリズム論特殊講義	担当者	岩井 奉信	期間	通年	単位数	4
-----	----------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、現代日本における政治とメディアの相互関係について、その実態について実証的に研究していく。日本政治とメディアの関連性について概観した上で、近年、問題になっているテレビと政治との関係について、番組の「送り手」を中心に、重点的に分析、研究を行っていく。詳細な授業内容については、履修者と相談の上で、決めていきたい。						
授業目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアと政治に関する実態を理解し説明できるようになる</li> <li>・政治とテレビに関する分析視角についての問題意識の醸成</li> </ul>						
履修条件	履修にあたっては、単なるメディアやジャーナリズムへの関心だけでなく、現代日本政治への関心を持ち、日本政治の現状について、一定の知識と理解をしていることが前提となる。						
授業方法	関連文献の輪読及び履修者による研究発表を基本とする。必要に応じて、学外での検修を行う場合がある。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	授業への参加状況、輪読や研究発表の内容などの状況を評価の対象とする。				
教科書	年	出版社	書名				著者名
	2014年	中央公論社	日本政治とメディア				逢坂巖
	2017年	東京大学出版会	政治を動かすメディア				
	備考						
参考書	星浩・逢坂巖『テレビ政治』2006年、朝日新聞社						
オフィスアワー	月曜及び金曜昼休み、研究室にて						

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	現代日本政治とメディアとの関係について、明確な問題意識を持つこと。（2時間）
	授業内容	授業概要についての説明と履修者の関心領域の確認
	事後学習	問題意識の再確認と授業での自分の研究方向を再確認すること。（2時間）
2	事前学習	現代日本政治とメディアとの関係について、明確な問題意識を持つこと。（2時間）
	授業内容	メディアと政治についての現状について概観的な講義を行う。
	事後学習	問題意識の再確認と授業での自分の研究方向を再確認すること。（2時間）
3	事前学習	『日本政治とメディア』を事前に熟読すること。（2時間）
	授業内容	『日本政治とメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。（2時間）
4	事前学習	『日本政治とメディア』を事前に熟読すること。（2時間）
	授業内容	『日本政治とメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。（2時間）

5	事前学習	『日本政治とメディア』を事前に熟読すること。(2時間)
	授業内容	『日本政治とメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(2時間)
6	事前学習	『日本政治とメディア』を事前に熟読すること。(2時間)
	授業内容	『日本政治とメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(2時間)
7	事前学習	『日本政治とメディア』を事前に熟読すること。(2時間)
	授業内容	『日本政治とメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(2時間)
8	事前学習	『日本政治とメディア』を事前に熟読すること。(2時間)
	授業内容	『日本政治とメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(2時間)
9	事前学習	『政治を動かすメディア』を事前に熟読すること。(2時間)
	授業内容	『政治を動かすメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(2時間)
10	事前学習	『政治を動かすメディア』を事前に熟読すること。(2時間)
	授業内容	『政治を動かすメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(2時間)
11	事前学習	『政治を動かすメディア』を事前に熟読すること。(2時間)
	授業内容	『政治を動かすメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(2時間)
12	事前学習	日本政治とメディアに関する各自の発表テーマを定めて分析すること。(2時間)
	授業内容	現代日本政治とメディアに関する個別研究報告
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(2時間)
13	事前学習	『政治を動かすメディア』を事前に熟読すること。(2時間)
	授業内容	『政治を動かすメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(2時間)
14	事前学習	これまでの輪読に現代日本政治とメディアとの関係について、明確な問題意識を持つこと。(2時間)
	授業内容	日本政治におけるメディアについて、討議を行う。
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(2時間)
15	事前学習	これまでの輪読に現代日本政治とメディアとの関係について、明確な問題意識を持つこと。(2時間)
	授業内容	前期まとめの議論
	事後学習	問題意識の再確認と授業での自分の研究方向を再確認すること。(2時間)
16	事前学習	現代のテレビの政治報道について関心を高めておくこと。(2時間)
	授業内容	テレビと政治に関する現代的課題についての概観
	事後学習	テレビと政治に関する自らの問題意識を醸成させること。(2時間)

17	事前学習	戦後日本政治の流れについて、基礎的な知識を得ておくこと。(2時間)
	授業内容	日本におけるテレビ政治の関係史 1
	事後学習	それぞれの時代における政治状況とテレビとの関係について再確認すること。(2時間)
18	事前学習	戦後日本政治の流れについて、基礎的な知識を得ておくこと。(2時間)
	授業内容	日本におけるテレビ政治の関係史 2
	事後学習	それぞれの時代における政治状況とテレビとの関係について再確認すること。(2時間)
19	事前学習	戦後日本政治の流れについて、基礎的な知識を得ておくこと。(2時間)
	授業内容	日本におけるテレビ政治の関係史 3
	事後学習	それぞれの時代における政治状況とテレビとの関係について再確認すること。(2時間)
20	事前学習	小泉純一郎内閣の特質について、基礎的な知識を得ておくこと。(2時間)
	授業内容	小泉純一郎内閣におけるメディア戦略研究 1
	事後学習	それぞれの時代における政治状況とテレビとの関係について再確認すること。(2時間)
21	事前学習	小泉純一郎内閣の特質について、基礎的な知識を得ておくこと。(2時間)
	授業内容	小泉純一郎内閣におけるメディア戦略研究 2
	事後学習	テレビと政治に関する自らの問題意識を醸成させること。(2時間)
22	事前学習	小泉純一郎内閣の特質について、基礎的な知識を得ておくこと。(2時間)
	授業内容	小泉純一郎内閣におけるメディア戦略研究 3
	事後学習	テレビと政治に関する自らの問題意識を醸成させること。(2時間)
23	事前学習	安倍晋三内閣の特質について、基礎的な知識を得ておくこと。(2時間)
	授業内容	安倍晋三内閣におけるメディア戦略研究 1
	事後学習	テレビと政治に関する自らの問題意識を醸成させること。(2時間)
24	事前学習	安倍晋三内閣の特質について、基礎的な知識を得ておくこと。(2時間)
	授業内容	安倍晋三内閣におけるメディア戦略研究 2
	事後学習	テレビと政治に関する自らの問題意識を醸成させること。(2時間)
25	事前学習	安倍晋三内閣の特質について、基礎的な知識を得ておくこと。(2時間)
	授業内容	安倍晋三内閣におけるメディア戦略研究 3
	事後学習	テレビと政治に関する自らの問題意識を醸成させること。(2時間)
26	事前学習	自らの研究テーマを定め、実証的な研究を行うこと。(2時間)
	授業内容	政治とメディアに関するインデペンデント・リサーチ 1
	事後学習	各自の研究発表を受けて、自ら研究発表を再確認すること。(2時間)
27	事前学習	自らの研究テーマを定め、実証的な研究を行うこと。(2時間)
	授業内容	政治とメディアに関するインデペンデント・リサーチ 2
	事後学習	各自の研究発表を受けて、自ら研究発表を再確認すること。(2時間)
28	事前学習	自らの研究テーマを定め、実証的な研究を行うこと。(2時間)
	授業内容	政治とメディアに関するインデペンデント・リサーチ 3
	事後学習	各自の研究発表を受けて、自ら研究発表を再確認すること。(2時間)

29	事前学習	自らの研究テーマを定め、実証的な研究を行うこと。(2時間)
	授業内容	政治とメディアに関するインデペンデント・リサーチ4
	事後学習	各自の研究発表を受けて、自ら研究発表を再確認すること。(2時間)
30	事前学習	これまでの授業を振り返り、自らの問題意識を醸成すること。(2時間)
	授業内容	政治とメディアに関するまとめの議論
	事後学習	政治とメディアに関する今後の研究について考えること。(2時間)

科目名	世論・政治意識とメディア(日本) 特殊講義	担当者	井田 正道	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	この講座では日本におけるメディア世論調査の実態と世論・政治意識の分析を行う。まず、世論や政治意識といった概念に関する解説から始め、社会調査の手法に関する説明を行う。その後、日本人の世論や政治意識などについて調査結果や分析結果に基づき考察を加えていく。また、最新の世論調査結果なども参照し、世論の動向について考える。			
授業目的・到達目標	本授業では、世論、政治意識といった概念の整理から始まり、世論・政治意識をどのようにして把握するか、という点について考察を深めるとともに、世論調査や意識調査に関する問題点も明らかにする。また、最新の世論調査結果から読み取れる日本人の世論および日本政治の展開についても考え、説明できるようになることを目標とする。			
履修条件	特に前提となる知識水準を定めるものではないが、授業に対して熱意ある取り組みをすることを求める。			
授業方法	講義方式と発表方式を混在させて行う。はじめの数回は講義方式によって行う。その後は、テキストの各部分を受講者に割り当て、整理して報告してもらう。その上で、講師による講義および質疑・応答を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業中の態度、発表およびレポート。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013	明治大学出版会	世論調査を読む—Q&Aからみる日本人の<意識>—	井田正道
	2018	北樹出版	日本政治の展開	井田正道
	備考			
参考書	『政治・社会意識の現在』井田正道 著 北樹出版			
オフィスアワー	電子メールによる (ac00050@meiji.ac.jp)。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んでおく。(2時間)
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	復習(2時間)
2	事前学習	社会調査とは何か、について調べる。(2時間)
	授業内容	社会調査の歴史と方法 社会調査とは何か、社会調査の方法について説明する
	事後学習	復習(2時間)
3	事前学習	世論、政治意識の概念について調べておく。(2時間)
	授業内容	世論調査の展開と現状 メディア世論調査の展開、定例調査と選挙調査
	事後学習	復習(2時間)
4	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	調査結果と実態 世論調査結果と実態とのズレについて考える
	事後学習	復習(2時間)

5	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	世論調査の現況 世論調査の主体
	事後学習	復習(2時間)
6	事前学習	標本調査の誤差について調べる。(2時間)
	授業内容	世論調査における統計的・非統計的誤差
	事後学習	復習(2時間)
7	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	世論調査批判 世論調査に対する批判や懐疑について考える
	事後学習	復習(2時間)
8	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	世論調査の分析 クロス分析と統計的検定を中心に論じる
	事後学習	復習(2時間)
9	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	世論調査批判(1)
	事後学習	復習(2時間)
10	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	世論調査批判(2)
	事後学習	復習(2時間)
11	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	日本人の世論(1) 階層意識の分析
	事後学習	復習(2時間)
12	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	日本人の世論(2) 生活意識の分析
	事後学習	復習(2時間)
13	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	日本人の世論(3) 社会意識の分析
	事後学習	復習(2時間)
14	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	日本人の世論(4) 司法に関する意識の分析
	事後学習	復習(2時間)
15	事前学習	この半期の知識を整理する。(2時間)
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	復習(2時間)
16	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	政治的態度の概念
	事後学習	復習(2時間)

17	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	政治と文化
	事後学習	復習(2時間)
18	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	日本人の政治意識(1) 内閣支持率の変遷
	事後学習	復習(2時間)
19	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	日本人の政治意識(2) 政権評価の分析
	事後学習	復習(2時間)
20	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	日本人の政治意識(3) 政党支持の分析
	事後学習	復習(2時間)
21	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	日本人の政治意識(4) 無党派層の分析
	事後学習	復習(2時間)
22	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	日本人の政治意識(5) 政治的関心の分析
	事後学習	復習(2時間)
23	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	日本人の政治意識(6) 経済政策に対する有権者評価の分析
	事後学習	復習(2時間)
24	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	国政選挙の分析(1) 近年の国政選挙の計量分析
	事後学習	復習(2時間)
25	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	国政選挙の分析(2) 近年の国政選挙の計量分析
	事後学習	復習(2時間)
26	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	若者の政治参加 大学生の投票参加に関する分析
	事後学習	復習(2時間)
27	事前学習	テキストの該当部分を読む。(2時間)
	授業内容	地方選挙の計量分析
	事後学習	復習(2時間)
28	事前学習	発表準備(2時間)
	授業内容	受講者の問題意識に基づく発表(1)
	事後学習	復習(2時間)

29	事前学習	発表準備（2時間）
	授業内容	受講者の問題意識に基づく発表（2）
	事後学習	復習（2時間）
30	事前学習	後期の講座を整理する。（2時間）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	復習（2時間）

科目名	世論・政治意識とメディア(外国) 特殊講義	担当者	伊藤 英一	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	学生諸君の問題意識や関心を尊重し、また時々刻々の世界の動向を踏まえながら、世論形成におけるジャーナリズムとメディアの役割と機能について、皆さんと一緒に考えて行きたいと思えます。国際的な世論(輿論)と政治意識の動きと、世界の人々の期待と信頼に応えられるジャーナリズムの未来を考察してみましょう。			
授業目的・到達目標	新聞学、ジャーナリズムの研究および実務において最も基礎となる世論(輿論)と政治意識に関する最新の学識を紹介しながら、世界的な視野に立ったジャーナリズムの未来を考察し、学生諸君の将来におけるキャリア開拓に役立つことを目的とします。一年間の授業を通じて、世論(輿論)と政治意識を適切に把握し分析する技術と能力の基本を身につけることを目標とします。			
履修条件	新聞・雑誌、広報・広告、情報通信ビジネス等、ジャーナリズムとメディアにかかわる問題を探求したい諸君を歓迎します。			
授業方法	世界的またグローバルな視点から、その時々において興味深いと考えられるトピックを取り上げ、ネット、新聞、テレビ等の多様なメディアを介して流通する情報について、活発なブレインストーミングにより、検証を試みましょう。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業への寄与度と参加度を各々30%、計60%とします。また、講義中での、集中力、学習力、洞察力、ならびに発想力を各10%配分により、計40%との評価点とします。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2007	慶應義塾大学出版	文化の国際流通と市民意識	伊藤陽一編
	1999	東京大学出版会	社会情報学 II メディア	東京大学社会情報研究所
	備考	必要性や時宜に応じ、勉学に必要な資料・教材等は、その都度、案内します。		
参考書	大石 裕；批判する/批判されるジャーナリズム、慶應義塾大学出版会、2017年。			
オフィスアワー	授業時間内、およびその前後の時間も含め、活発な質疑応答を歓迎します。また、メールでの質問、相談等は ito.eiichil1@nihon-u.ac.jpにお寄せください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	皆さんに自己紹介をしていただきますので、ご自分とお好きなメディアとのかかわりについてのプレゼンテーションの心積もりをお願いします。(2時間)
	授業内容	ガイダンス&オリエンテーション ブレインストーミングの目的と方法
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出して下さい。(2時間)
2	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立てて下さい。(2時間)
	授業内容	新聞・雑誌から観察するジャーナリズム
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出して下さい。(2時間)
3	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立てて下さい。
	授業内容	広報・広告を通じて観察したジャーナリズム
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出して下さい。(2時間)
4	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中への質疑応答に役立てて下さい。(2時間)
	授業内容	ネットの世界から窺うジャーナリズム
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出して下さい。(2時間)

5	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。
	授業内容	<b>世論とジャーナリズム</b>
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
6	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中への質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	<b>世論とラジオ</b>
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
7	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	<b>世論とテレビ</b>
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。
8	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中質のブレインストーミングおよび疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	<b>世論と新聞</b>
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
9	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	<b>世論と雑誌</b>
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
10	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	<b>世論とネット</b>
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
11	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	<b>世論とは何だろうか??</b>
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
12	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	<b>世論形成とメディアの役割</b>
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
13	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	<b>世論形成とメディアの機能</b>
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
14	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	<b>米国と世論①</b>
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
15	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	<b>米国のジャーナリズムとメディアの可能性</b>
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
16	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	<b>米国と世論②</b>
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)

17	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	ヨーロッパと世論①
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
18	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	世論・政治意識とネットワークの中立性①
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
19	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中への質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	世論・政治意識とネットワークの中立性②
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
20	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	ヨーロッパと世論②
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
21	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	世論・政治意識の理論
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
22	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中質のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	公共放送BBCと市民意識
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
23	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	新聞の経営形態と市民意識①
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
24	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	新聞の経営形態と市民意識②
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
25	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	フランスの世論とメディア・ビジネス①
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
26	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	フランスの世論とメディア・ビジネス②
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
27	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	世論とネット・ビジネス
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)
28	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立ててください。(2時間)
	授業内容	世論・政治意識と未来のメディア①
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出してください。(2時間)

29	事前学習	その時々トピックに関心を持ち、授業中のブレインストーミングおよび質疑応答に役立てて下さい。(2時間)
	授業内容	世論・政治意識と未来のメディア②
	事後学習	興味を持たれる資料を、その都度配布しますので、問題点や疑問点を抽出して下さい。(2時間)
30	事前学習	一年間の時事と世論の変遷を振り返り、未来へのインパクトを考察して下さい。(2時間)
	授業内容	世論・政治意識とジャーナリズム
	事後学習	一年間を通じての学習成果を、今後に生かして下さい。(2時間+∞)

科目名	メディア社会論特殊講義	担当者	佐幸 信介	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディアと社会あるいはコミュニティとの関連について、テキスト・クリティークを中心に行う。前期は、現在のメディア状況を中心テーマにし、後期は移動と空間をテーマにする。						
授業目的・到達目標	メディアやコミュニケーション環境の変容を、社会学や思想史的論点を踏まえて分析する力を習得することを目標とする。テキスト・クリティークから、社会的想像力へステップできること、具体的には研究上の問題設定を行うことができることを目標とする。						
履修条件	テキストを読み、レジュメを作成し、議論を行うため、毎回の出席が必須						
授業方法	テキスト・クリティークと講義・ディスカッション形式を基本とする						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験	0%					
	平常評価	100%	レジュメ、議論、授業参加度をとおして総合的に評価する				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	2003年	世界思想社	メディアテキストの冒険	小林直毅			
	2018年	晃洋社	フローと再帰性の社会学	S. ラッシュ J. アーリー			
	備考						
参考書	伊藤守、毛利嘉孝編『アフター・テレビジョン・スタディーズ』せりか書房 その他、講義で適宜紹介する						
オフィスアワー	水曜3限（13：00～14：30）						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認すること（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	テキストの概要を確認すること（2時間）
2	事前学習	『メディアテキストの冒険』第1章を読んてくること。レジュメの作成（2時間）
	授業内容	メディアとオーディエンス①
	事後学習	提示した課題について解いてくること（2時間）
3	事前学習	『メディアテキストの冒険』第1章を読んてくること。（2時間）
	授業内容	メディアとオーディエンス②
	事後学習	提示した課題について解いてくること（2時間）
4	事前学習	『メディアテキストの冒険』第2章を読んてくること。レジュメの作成（2時間）
	授業内容	言説とメディア①
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること（2時間）

5	事前学習	『メディアテキストの冒険』第2章を読んでくること。(2時間)
	授業内容	言説とメディア②
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること。(2時間)
6	事前学習	『メディアテキストの冒険』第3章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	報道の言説と表象
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること。(2時間)
7	事前学習	『メディアテキストの冒険』第4章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	戦後メディアとメディア環境
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること。(2時間)
8	事前学習	『メディアテキストの冒険』第2章を読んでくること。(2時間)
	授業内容	メディアとオーディエンスの変容
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること。(2時間)
9	事前学習	『メディアテキストの冒険』第5章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	ドキュメンタリーと表象①
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること。(2時間)
10	事前学習	『メディアテキストの冒険』第4章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	ドキュメンタリー番組の視聴と分析・ディスカッション①
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること。(2時間)
11	事前学習	レジュメの作成(第8章)(2時間)
	授業内容	ドキュメンタリー番組の視聴と分析・ディスカッション②
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること。(2時間)
12	事前学習	第11回までの講義の内容を復習すること(2時間)
	授業内容	第11回までの講義のまとめ
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること。(2時間)
13	事前学習	前回の講義で提示した課題＝文献収集を準備してくること(2時間)
	授業内容	収集した文献の整理と先行研究のマッピング
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること。(2時間)
14	事前学習	『フローと再帰性の社会学』の概要を確認すること(2時間)
	授業内容	フロー概念と情報化
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること。(2時間)
15	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第1章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	資本主義と情報
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること。(2時間)
16	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第2章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	移動と空間/時間
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること。(2時間)

17	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第3章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	再帰性と近代
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること(2時間)
18	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第3章を読んでくること。(2時間)
	授業内容	再帰性と時間/空間
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること(2時間)
19	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第4章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	情報と産業構造
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること(2時間)
20	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第5章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	文化産業とグローバル化
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること(2時間)
21	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第6章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	階級/階層と空間①
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること(2時間)
22	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第6章を読んでくること。(2時間)
	授業内容	階級/階層と空間②
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること(2時間)
23	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第7章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	移動と社会変容
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること(2時間)
24	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第8章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	工業化社会以後の社会像
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること(2時間)
25	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第9章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	時間と情報産業
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること(2時間)
26	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第10章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	近代と移動、観光
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること(2時間)
27	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第11章を読んでくること。レジュメの作成(2時間)
	授業内容	グローバル化とローカル化①
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること(2時間)
28	事前学習	『フローと再帰性の社会学』第6章を読んでくること。(2時間)
	授業内容	グローバル化とローカル化①
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること(2時間)

29	事前学習	『フローと再帰性の社会学』終章を読んてくること。レジユメの作成（2時間）
	授業内容	ポスト工業化社会の未来
	事後学習	講義の議論の内容を確認すること（2時間）
30	事前学習	これまでの議論を整理すること（2時間）
	授業内容	後期まとめ
	事後学習	後期のテキストと議論をまとめなおすこと（2時間）

科目名	メディア倫理特殊講義	担当者	塚本 晴二郎	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	本講義は情報発信者のための倫理学を学ぶ講義である。日本ではメディア関係の倫理学の場合に、法で規制しきれない部分を補うためのもののように倫理学を扱う。それがどれだけ間違っただけか明確にするのが本講義の主な内容である。つまり自身の行為に関する法を守ることと、倫理的な行為を行う事の相違について講義する。						
授業目的・到達目標	本講義は、広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策などに関する諸問題に対する、ジャーナリスト等の情報発信者として必要な高度な倫理観を育むことを目的とする。それゆえ、広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策を批判的に捉える、ジャーナリスト等の情報発信者として必要な高度な倫理観を育むことを目標とする。						
履修条件	大学院の講義である以上、学部レベルの基礎知識があることは大前提である。						
授業方法	テキストに沿って講義を進める。必要に応じて、レポート提出を求める。レポートの書き方は、予め指導する。提出されたレポートに関する講評は、講義内で行うとともに、希望者には、個人指導の時間を設ける。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験	0%					
	平常評価	100%	準備学習の程度50%、授業時に行う議論の内容等50%。				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	2018	印刷学会出版部	「極化」現象と報道の倫理学的研究	塚本晴二郎・上村崇編			
	備考						
参考書	受講者の関心に応じて、柔軟に対応していくので、適宜に指示する。						
オフィスアワー	原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。 研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、学部での「ジャーナリズム倫理」等の科目の内容を把握しておく。（2時間）
	授業内容	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、講義の進め方を説明し、受講生が講義の準備を具体的にできるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	テキストの第1章の1を読み、客観報道と偏向報道との相違を考察する。（2時間）
	授業内容	客観報道と偏向報道の相違と問題点を提示する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
3	事前学習	テキストの第1章の2を読み、根本的に客観報道等は何かを考察する。（2時間）
	授業内容	客観報道は成立可能か、を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
4	事前学習	テキストの第1章の3を読み、客観報道の限界性を考察する。（2時間）
	授業内容	客観報道の限界性と報道の倫理について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）

5	事前学習	テキストの第1章の4を読み、報道倫理と偏向報道の問題点を考察する。(2時間)
	授業内容	偏向報道の分析と新たな報道の倫理に関して論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
6	事前学習	テキストの第2章の1を読み客観報道研究に関して考察する。(2時間)
	授業内容	客観報道研究の研究史を概観する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
7	事前学習	テキストの第2章の2を読み、「偏向」「極化」と客観報道との関係を考察する。(2時間)
	授業内容	「偏向」「極化」と客観報道に関する問題の所在を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
8	事前学習	テキストの第2章の3を読み、客観報道成立の背景を考察する。(2時間)
	授業内容	客観報道成立の背景と社会的責任論について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
9	事前学習	テキストの第2章の4〔1〕を読み、客観報道「到達不可能」論を考察する。(2時間)
	授業内容	客観報道「到達不可能」論について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
10	事前学習	テキストの第2章の4〔2〕を読み、「作られた客観報道」論を考察する。(2時間)
	授業内容	「作られた客観報道」論について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
11	事前学習	テキストの第2章の4〔3〕を読み、「見せかけの客観性」論を考察する。(2時間)
	授業内容	「見せかけの客観性」論について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
12	事前学習	テキストの第2章の4〔4〕を読み、「客観性はそもそも存在しない」論を考察する。
	授業内容	「客観性はそもそも存在しない」論について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
13	事前学習	テキストの第2章の5〔1〕と〔2〕を読み、客観報道「到達不可能」論と「作られた客観報道」論への反論を考察する。(2時間)
	授業内容	客観報道「到達不可能」論と「作られた客観報道」論への反論について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
14	事前学習	テキストの第2章の5〔3〕と〔4〕を読み、「見せかけの客観性」論と「客観性はそもそも存在しない」論への反論を考察する。(2時間)
	授業内容	「見せかけの客観性」論と「客観性はそもそも存在しない」論への反論について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
15	事前学習	テキストの第2章の6を読み、客観報道論と「極化」の問題を再検討する。(2時間)
	授業内容	客観報道論を整理し、報道の倫理学的研究にとって重要な点は何かを、検討し合う。
	事後学習	前期のすべての講義ノートを確認し、これまで学んできたことを整理する。(2時間)
16	事前学習	前期に学んだ客観報道論をどのように応用するかを考察するとともに、その具体例として、まず第3章の1を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	「極化」現象とジャーナリズムの倫理—ヘイトスピーチを手がかりとして—①国連人種差別撤廃委員会とヘイト・スピーチの法規制：前期の講義を踏まえて、具体的な事例研究を法的な側面から論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)

17	事前学習	第3章の2の徳倫理学に関する記述を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	「極化」現象とジャーナリズムの倫理—ヘイトスピーチを手がかりとして—②ヘイト・スピーチと倫理学理論①徳倫理学を中心に論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
18	事前学習	第3章の2の義務倫理学に関する記述を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	「極化」現象とジャーナリズムの倫理—ヘイトスピーチを手がかりとして—②ヘイト・スピーチと倫理学理論②義務倫理学を中心に論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
19	事前学習	第3章の2の功利主義倫理学に関する記述を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	「極化」現象とジャーナリズムの倫理—ヘイトスピーチを手がかりとして—②ヘイト・スピーチと倫理学理論③功利主義倫理学を中心に論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
20	事前学習	第3章の2の権利の倫理学に関する記述を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	「極化」現象とジャーナリズムの倫理—ヘイトスピーチを手がかりとして—②ヘイト・スピーチと倫理学理論④権利の倫理学を中心に論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
21	事前学習	第3章の2の愛の倫理学に関する記述を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	「極化」現象とジャーナリズムの倫理—ヘイトスピーチを手がかりとして—②ヘイト・スピーチと倫理学理論⑤愛の倫理学を中心に論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
22	事前学習	第3章の3を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	極化」現象とジャーナリズムの倫理—ヘイトスピーチを手がかりとして—③ヘイト・スピーチ報道のジレンマ：具体的な報道の問題点を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
23	事前学習	第3章の4を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	極化」現象とジャーナリズムの倫理—ヘイトスピーチを手がかりとして—④コミュニタリアン・ジャーナリズムのアプローチ：具体的な事例をコミュニタリアニズム倫理学の側面から論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
24	事前学習	第3章の5を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	極化」現象とジャーナリズムの倫理—ヘイトスピーチを手がかりとして—⑤後期のこれまでの講義を踏まえ具体的な事例研究のまとめを行う。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
25	事前学習	第4章の1、2を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	「極化」報道の実証研究（マクロ）①仮説の設定：具体的な事例の実証的な研究をマクロな分析の仕方を見る。その最初として、仮説の設定について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
26	事前学習	第4章の3、4、5、6を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	「極化」報道の実証研究（マクロ）②考察：具体的な事例の実証的な研究のマクロ・データの分析を学ぶ。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
27	事前学習	第5章の1、2を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	「極化」報道の実証研究（ミクロ）①：具体的な事例研究で理論的な枠組み作りを学ぶ。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
28	事前学習	第5章の2〔1〕〔2〕〔3〕を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	「極化」報道の実証研究（ミクロ）②：具体的な事例研究で内容分析の方法論を学ぶ。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)

29	事前学習	第5章の3を読み、具体的な事例を学ぶ準備をする。(2時間)
	授業内容	「極化」報道の実証研究(マイクロ)③:具体的な事例研究で内容分析の結果を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
30	事前学習	初回からの講義ノートを見直し、前回の発表を踏まえて、制度論的な研究方法論を体系的に考察する。(2時間)
	授業内容	総括講義
	事後学習	初回からの講義ノートを見直し、倫理的な研究方法論の研究ノートが作成できるようにまとめておく。(2時間)

科目名	メディア法制特殊講義	担当者	小向 太郎	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	コンピュータとインターネットの急速な普及によって伝達される情報はことごとくデジタル化され、デジタル・ネットワークは、メディアを支えるだけでなくメディアそのものと位置付けられるようになってきている。その一方で、以前にはあまり見られなかった問題も深刻になっている。この講義では、情報のデジタル化やネットワーク化に起因する法制度上の問題に関して、それが生じる背景、対応・議論の動向を取り上げる。			
授業目的・到達目標	この講義では、デジタル・ネットワークに関する法律・制度について、基本的な知識と体系的な理解を習得することを目的とする。情報と法についての基本的な知識と問題点に関する知識を身につけ、情報のデジタル化やネットワーク化に起因する問題について主要な法制度上の論点や課題を理解し、これらの論点や具体的な事例について、自分なりの視点から論じることができるようになることを目標とする。			
履修条件	特になし。			
授業方法	まず、基本的事項や最近のトピックについて毎回ごとにテーマを決めて議論を行う。その後、裁判例や問題事例について、報告担当の受講者が事前に調査分析を行った内容を報告し、その報告について全員で議論する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業への参加、提出レポート、報告の内容によって評価する	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	NTT出版	情報法入門（第4版）デジタル・ネットワークの法律	小向太郎
	備考			
参考書	長谷部恭男・山口いつ子・宍戸常授編『別冊ジュリスト メディア判例百選』 有斐閣、第2版、2018年			
オフィスアワー	電子メールによる質問を随時受け付ける			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、教科書を入手して「はじめに」と各章冒頭にある導入説明（各1ページ）を読む。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（全体テーマおよび進め方の説明）
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書の「1-1-1 情報法とデジタル・ネットワーク」「1-1-2 デジタル情報の特徴」を読み、デジタル情報の特徴について考察する。（2時間）
	授業内容	デジタル化の特徴と法制度への影響
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書の「1-1-3 インターネットの特徴」「1-1-4 インターネットと匿名性」を読み、そこに含まれる論点について考察する。（2時間）
	授業内容	ネットワーク化の特徴と法制度への影響
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書の「1-2-2 表現の自由とインターネット規制」を読み、そこに含まれる論点について考察する。（2時間）
	授業内容	表現の自由とインターネット規制
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書の「1-2-3 通信の秘密」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	通信の秘密
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
6	事前学習	教科書の「1-2-4 国境を超える情報」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	国境を超える情報
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
7	事前学習	教科書の「1-3 情報化関連政策」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	情報化関連政策
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
8	事前学習	教科書の「2-1-1 電気通信事業」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	電気通信事業
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
9	事前学習	教科書の「2-1-2 放送事業」「2-1-3 通信と放送の融合」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	放送事業
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
10	事前学習	教科書の「2-2 ネットワーク上の媒介者」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	ネットワーク上の媒介者
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
11	事前学習	「国境を超える情報と法的規制」の事例研究について、報告者は報告準備を、その他の受講者はディスカッションのための考察を行う。(2時間)
	授業内容	【事例研究】国境を超える情報と法的規制
	事後学習	ディスカッションに関するノートを確認して、テーマと論点について、自分なりに総括する。(2時間)
12	事前学習	「忘れられる権利」の事例研究について、報告者は報告準備を、その他の受講者はディスカッションのための考察を行う。(2時間)
	授業内容	【事例研究】忘れられる権利
	事後学習	ディスカッションに関するノートを確認して、テーマと論点について、自分なりに総括する。(2時間)
13	事前学習	「通信の秘密とセキュリティ」の事例研究について、報告者は報告準備を、その他の受講者はディスカッションのための考察を行う。(2時間)
	授業内容	【事例研究】通信の秘密とセキュリティ
	事後学習	ディスカッションに関するノートを確認して、テーマと論点について、自分なりに総括する。(2時間)
14	事前学習	「名誉毀損と媒介者責任」の事例研究について、報告者は報告準備を、その他の受講者はディスカッションのための考察を行う。(2時間)
	授業内容	【事例研究】名誉毀損と媒介者責任
	事後学習	ディスカッションに関するノートを確認して、テーマと論点について、自分なりに総括する。(2時間)
15	事前学習	「プログラム開発者の責任」の事例研究について、報告者は報告準備を、その他の受講者はディスカッションのための考察を行う。(2時間)
	授業内容	【事例研究】プログラム開発者の責任
	事後学習	ディスカッションに関するノートを確認して、テーマと論点について、自分なりに総括する。(2時間)
16	事前学習	教科書の「2-3 プラットフォーム事業者」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	プラットフォーム事業者
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)

17	事前学習	教科書の「3-1-1 情報取得と法的責任」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	情報取得と法的責任
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
18	事前学習	教科書の「3-1-2 情報保有と法的責任」「3-1-3 情報漏えい等に関する係争例」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	情報保有と法的責任
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
19	事前学習	教科書の「3-1-4 情報発信と法的責任」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	情報発信と法的責任
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
20	事前学習	教科書の「3-2 サイバー犯罪と青少年保護」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	サイバー犯罪と青少年保護
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
21	事前学習	教科書の「3-3-1 情報化と知的座員さん制度」「3-3-2 著作権制度の概要」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	情報化と知的財産制度
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
22	事前学習	教科書の「3-3-3 デジタル・ネットワークと著作権」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	デジタル・ネットワークと著作権
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
23	事前学習	教科書の「3-4-1 プライバシーと個人情報保護」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	プライバシーと個人情報保護
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
24	事前学習	教科書の「3-4-2 個人情報保護法」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	個人情報保護法
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
25	事前学習	教科書の「3-4-3 行政機関と個人情報保護」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	行政機関と個人情報保護
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
26	事前学習	教科書の「3-4-4 諸外国の個人情報保護制度」「3-4-5 今後の課題」を読み、そこに含まれる論点について考察する。(2時間)
	授業内容	諸外国の個人情報保護制度と今後の課題
	事後学習	講義ノートを確認して、テーマと論点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
27	事前学習	「個人情報漏洩」の事例研究について、報告者は報告準備を、その他の受講者はディスカッションのための考察を行う。(2時間)
	授業内容	【事例研究】個人情報漏洩
	事後学習	ディスカッションに関するノートを確認して、テーマと論点について、自分なりに総括する。(2時間)
28	事前学習	「プライバシー侵害」の事例研究について、報告者は報告準備を、その他の受講者はディスカッションのための考察を行う。(2時間)
	授業内容	【事例研究】プライバシー侵害
	事後学習	ディスカッションに関するノートを確認して、テーマと論点について、自分なりに総括する。(2時間)

29	事前学習	「デジタルコンテンツと著作権侵害」の事例研究について、報告者は報告準備を、その他の受講者はディスカッションのための考察を行う。(2時間)
	授業内容	<b>【事例研究】デジタルコンテンツと著作権侵害</b>
	事後学習	ディスカッションに関するノートを確認して、テーマと論点について、自分なりに総括する。(2時間)
30	事前学習	「住基ネット・マイナンバーとプライバシー」の事例研究について、報告者は報告準備を、その他の受講者はディスカッションのための考察を行う。(2時間)
	授業内容	<b>【事例研究】住基ネット・マイナンバーとプライバシー</b>
	事後学習	ディスカッションに関するノートを確認して、テーマと論点について、自分なりに総括する。(2時間)

科目名	ジャーナリズム史(日本)特殊講義	担当者	石川 徳幸	期間	通年	単位数	4
-----	------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディアを批判的に読み解くためには、その歴史を具体的に知ることが重要である。本講義では、日本のジャーナリズムの歴史の中から、その社会的意義について考察する。現代日本では「言論の自由」が保障されているが、「言論の自由」の獲得をめぐるのは、先人の努力の歴史が存在する。本講義では、近代日本の政治史と新聞史をベースにして、幕末維新から昭和前期に活躍してきた優れたジャーナリストたちの軌跡を辿り、日本のジャーナリズムを再考する。			
授業目的・到達目標	本講義では、近代日本において重要な役割を果たしたジャーナリストの活動を通して、日本の近代化の過程におけるジャーナリズムの役割について考察する。講義を通じて、史料実証主義にもとづいた歴史的事象の考察の方法を養うことを目的とする。上記の目的を達成するため、「日本におけるジャーナリズムの歴史的過程について、系統立てて説明することができるようになる」、「歴史的出来事におけるジャーナリズムの役割について、具体例をあげて説明することができるようになる」ことを到達目標とする。			
履修条件	特になし。			
授業方法	課題図書とディスカッション。少人数クラスで対話式を行うため、フィードバックの機会は常に設けられている。履修者との相談のうえで、課題図書を変更する場合もある。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	毎回のレジュメと発表(60%)、レポート(40%) 講義総数の3分の1以上の欠席がある者は評価対象にならないため注意すること。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	ミネルヴァ書房	近代日本メディア人物誌 ジャーナリスト編	土屋礼子ほか編
	備考	同じ書名で「創始者・経営者編」も存在するので、購入する際に間違わないように気をつけること。		
参考書	黒川貢三郎・石川徳幸『日本のジャーナリズム』櫻門書房 黒川貢三郎・瀧川修吾『近代日本政治史Ⅰ・Ⅱ』南窓社			
オフィスアワー	【2019年度オフィスアワー】 前学期中・・・土曜日10:45～11:45 / 後学期中・・・月曜日14:45～15:45 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んでから参加すること。(2時間)
	授業内容	ガイダンス メディア史およびジャーナリズム史の射程
	事後学習	シラバスとガイダンスの内容をよく理解し、指導教授と相談の上、履修登録を行うこと。(2時間)
2	事前学習	テキスト第Ⅰ部第1章 レジュメ作成(2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅰ部第1章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
3	事前学習	テキスト第Ⅰ部第2章 レジュメ作成(2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅰ部第2章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
4	事前学習	テキスト第Ⅰ部第3章 レジュメ作成(2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅰ部第3章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)

5	事前学習	テキスト第Ⅰ部第4章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅰ部第4章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
6	事前学習	テキスト第Ⅰ部第5章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅰ部第5章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
7	事前学習	テキスト第Ⅰ部第6章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅰ部第6章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
8	事前学習	テキスト第Ⅰ部第7章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅰ部第7章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
9	事前学習	テキスト第Ⅰ部第8章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅰ部第8章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
10	事前学習	テキスト第Ⅱ部第1章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅱ部第1章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
11	事前学習	テキスト第Ⅱ部第2章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅱ部第2章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
12	事前学習	テキスト第Ⅱ部第3章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅱ部第3章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
13	事前学習	テキスト第Ⅱ部第4章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅱ部第4章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
14	事前学習	テキスト第Ⅱ部第5章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅱ部第5章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
15	事前学習	テキスト第Ⅱ部第6章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅱ部第6章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
16	事前学習	テキスト第Ⅱ部第7章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅱ部第7章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。

17	事前学習	テキスト第Ⅲ部第1章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅲ部第1章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
18	事前学習	テキスト第Ⅲ部第2章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅲ部第2章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
19	事前学習	テキスト第Ⅲ部第3章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅲ部第3章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
20	事前学習	テキスト第Ⅲ部第4章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅲ部第4章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
21	事前学習	テキスト第Ⅲ部第5章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅲ部第5章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
22	事前学習	テキスト第Ⅲ部第6章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅲ部第6章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
23	事前学習	テキスト第Ⅲ部第7章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅲ部第7章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
24	事前学習	テキスト第Ⅲ部第8章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅲ部第8章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
25	事前学習	テキスト第Ⅲ部第9章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅲ部第9章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
26	事前学習	テキスト第Ⅳ部第1章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅳ部第1章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
27	事前学習	テキスト第Ⅳ部第2章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅳ部第2章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
28	事前学習	テキスト第Ⅳ部第3章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第Ⅳ部第3章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)

29	事前学習	テキスト第IV部第4章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第IV部第4章 輪読発表とディスカッション
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)
30	事前学習	テキスト第IV部第5章 レジュメ作成 (2時間)
	授業内容	テキスト第IV部第5章 輪読発表とディスカッション 総括
	事後学習	講義やディスカッションを通じて得られた知識をノート等に整理しておくこと。(2時間)

科目名	ジャーナリズム史(外国)特殊講義	担当者	別府 三奈子	期間	通年	単位数	4
-----	------------------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムとは何かについて、歴史的なアプローチから理解を促す。ジャーナリズムの根本をなす理念・思想の形成過程と、現実社会における歩みについて、時系列で事例を俯瞰する。						
授業目的・到達目標	ジャーナリズムの社会的機能と、民主主義社会におけるジャーナリズムのありようをプロフェッション論の意義を学ぶ。主な事例として、戦争ジャーナリズムの写真表現を取り上げる。具体的には、フォト・ジャーナリズムのさまざまな受賞作品やジャーナリズムと似て非なるさまざまな写真表現に触れ、比較考察を重ねる。ジャーナリズム・プロフェッションの立場から、ジャーナリズムの送り手のグローバルスタンダードを理解し説明できるようになることが、本講座の授業目的である。						
履修条件	ジャーナリズムの実践について、専門的に学ぶ意志が明確であること。社会問題の改善と現代史に関心が深いこと。知識が不足している場合には、自習にて積極的に補う努力をすること。						
授業方法	扱う事例ごとに、ジャーナリズムの通史におけるその事例の意味について概説し、理解すべきテーマを提示し、履修者と討議する。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	毎回のレジュメ準備と発表内容、討論の深まりから総合評価する。				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	2013年	早稲田大学出版会	レクチャー 現代ジャーナリズム	早稲田大学ジャーナリス教育研究所			
	2016年	旬報社	調査報道ジャーナリズムの挑戦ー市民社会と国際支援戦略	早稲田大学ジャーナリス研究所			
	備考						
参考書	「ピュリツァー賞 受賞写真全記録」ハル・ビュエル著、日経ナショナルジオグラフィック社、2011年他						
オフィスアワー	授業内容に関しては、授業中、あるいは、授業後に直接教壇で声をかけてください。その際、さらに時間が必要と判断すれば面談時間を設定します。授業以外のことについては、メールにてアポの事前問い合わせをしてください。						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	日々ニュースに触れる。(2時間)
	授業内容	オリエンテーション、アンケート
	事後学習	指定テキストの購入、概要の把握(2時間)
2	事前学習	テキストの予習(2時間)
	授業内容	20世紀フォト・ジャーナリズムの解題
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習(2時間)
3	事前学習	テキストの予習(2時間)
	授業内容	写真技術のあゆみ
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習(2時間)
4	事前学習	テキストの予習(2時間)
	授業内容	19世紀・写真の誕生(欧州)
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習(2時間)

5	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	19世紀・写真が記録する戦争（米国）
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
6	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	19世紀・写真文化の黎明（中国）
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習、写真が社会にもたらした影響に関するレポート作成（2時間）
7	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	社会改良主義とジャーナリズム（1）
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
8	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	社会改良主義とジャーナリズム（2）
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
9	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	社会改良主義とジャーナリズム（3）
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
10	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	社会改良主義とジョゼフ・ピューリツァー
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
11	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	センセーショナリズムと写真
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
12	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	市民革命と写真（1）
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
13	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	市民革命と写真（2）
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習、19世紀の新聞メディアの特徴に関するレポート作成（2時間）
14	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	第一次世界大戦とマスメディア
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
15	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	ジャーナリズム・プロフェッション論
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
16	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	ピューリツァー賞にみる写真表現の意義
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）

17	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	第一次世界大戦、ジャーナリズムと広報
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
18	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	第二次世界大戦：ジャーナリズムとプロパガンダ
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習、戦時プロパガンダの特徴に関するレポート作成（2時間）
19	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	朝鮮戦争とフォト・ジャーナリズム
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
20	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	『LIFE』とフォト・ジャーナリズム
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
21	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	原爆と写真
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
22	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	日本の報道写真
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習、第2次世界大戦と日本のメディアに関するレポート作成（2時間）
23	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	ベトナム戦争：冷戦下のジャーナリズム
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
24	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	反戦運動と公民権運動とジャーナリズム
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
25	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	フォト・ジャーナリズムの立ち位置
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
26	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	フォト・ジャーナリズムと編集者の役割
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
27	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	イラク戦争とフォト・ジャーナリスト
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
28	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	イラク戦争と映像・ジャーナリスト
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習、欧米型ジャーナリズムの特徴に関するレポート作成（2時間）

29	事前学習	テキストの予習（2時間）
	授業内容	欧米型、日本型、中国型の特徴
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）
30	事前学習	テキストの予習、ジャーナリズム・プロフェッション論に関する専門知の復習（2時間）
	授業内容	ジャーナリズム・プロフェッション論を熟考する
	事後学習	授業内で解説された事例と用語の補習（2時間）

科目名	リスクコミュニケーション論特殊講義	担当者	福田 充	期間	通年	単位数	4
-----	-------------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	現代社会はあらゆる事象がリスク化したリスク社会である。戦争、テロ、自然災害、原発事故のような危機事態に際して、メディアにはどのような役割や効果があるか、政府や自治体などの広報活動はいかにあるべきか、コミュニケーションの観点から考察する。現代社会におけるリスクに関する諸問題について理解し、研究のための計画を立てる。			
授業目的・到達目標	【授業目的】 現代におけるさまざまなリスクに対して、リスクマネジメントの手法とリスクコミュニケーションを実践することができる能力を養成することを目的とする。 【到達目標】 現代社会におけるリスクを理解し、それぞれのリスクの具体的な諸問題を分析し、その研究を行うための計画を立てることができるようになることを目標とする。			
履修条件	特になし。			
授業方法	リスクに関する具体的な事例や理論を講義し、コンピュータやビデオを使用しながら、同時に出席者との活発な議論を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	50%：前期末に1回、後期末に1回、レポート試験を実施する。 50%：授業への参加度を重視する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	北樹出版	『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』	福田充
	2010	慶應義塾大学出版会	『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』	福田充
	2012	北樹出版	『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』	福田充編
備考				
参考書	福田充編(2012)『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』北樹出版。福田充(2009)『メディアとテロリズム』新潮新書。講義の参考図書やレポート課題として使用する。			
オフィスアワー	水曜日1限。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	指定教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前学習。(120分)
	授業内容	リスクコミュニケーションとは何か
	事後学習	研究ノートとレジュメ作成。(120分)
2	事前学習	指定教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前学習。(120分)
	授業内容	リスク社会学の誕生
	事後学習	研究ノートとレジュメ作成。(120分)
3	事前学習	指定教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前学習。(120分)
	授業内容	グローバル・リスク時代(金融・環境・テロ)
	事後学習	研究ノートとレジュメ作成。(120分)
4	事前学習	指定教科書『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』の事前学習。(120分)
	授業内容	テロリズムの時代とメディア①： 事例分析(911やオウム真理教地下鉄サリン事件など)
	事後学習	研究ノートとレジュメ作成。(120分)

5	事前学習	指定教科書『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』の事前学習。(120分)
	授業内容	テロリズムの時代とメディア②: 社会的影響
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
6	事前学習	指定教科書『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』の事前学習。(120分)
	授業内容	テロリズムの時代とメディア③: 欧米の制度
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
7	事前学習	指定教科書『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』の事前学習。(120分)
	授業内容	戦争とメディア①: 第2次世界大戦
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
8	事前学習	指定教科書『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』の事前学習。(120分)
	授業内容	戦争とメディア②: ベトナム戦争
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
9	事前学習	指定教科書『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』の事前学習。(120分)
	授業内容	戦争とメディア③: 湾岸戦争
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
10	事前学習	指定教科書『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』の事前学習。(120分)
	授業内容	戦争とメディア④: イラク戦争
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
11	事前学習	指定教科書『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』の事前学習。(120分)
	授業内容	インテリジェンス活動と情報機関
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
12	事前学習	指定教科書『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』の事前学習。(120分)
	授業内容	メディア技術と監視社会論
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
13	事前学習	指定教科書『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』の事前学習。(120分)
	授業内容	安全・安心 vs 自由・人権の価値対立とメディア
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
14	事前学習	指定教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前学習。(120分)
	授業内容	クライシス・リテラシー
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
15	事前学習	指定教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前学習。(120分)
	授業内容	議論の総括
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
16	事前学習	指定教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前学習。(120分)
	授業内容	危機事態における広報: 危機管理とメディア
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)

17	事前学習	指定教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』の事前学習。(120分)
	授業内容	自然災害とメディア①： 東日本大震災の事例分析
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
18	事前学習	指定教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』の事前学習。(120分)
	授業内容	自然災害とメディア②： 警報と避難行動
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
19	事前学習	指定教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』の事前学習。(120分)
	授業内容	自然災害とメディア③： 被害情報と災害報道
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
20	事前学習	指定教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』の事前学習。(120分)
	授業内容	自然災害とメディア④： 被災者の情報ニーズ
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
21	事前学習	指定教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』の事前学習。(120分)
	授業内容	大規模事故とメディア①： 福島第一原発事故の事例分析
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
22	事前学習	指定教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』の事前学習。(120分)
	授業内容	大規模事故とメディア②： ライフライン事故
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
23	事前学習	指定教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』の事前学習。(120分)
	授業内容	環境問題とメディア
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
24	事前学習	指定教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』の事前学習。(120分)
	授業内容	新型ウィルスとパンデミック
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
25	事前学習	指定教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』の事前学習。(120分)
	授業内容	食品の安全・安心： 風評被害の社会心理
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
26	事前学習	指定教科書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』の事前学習。(120分)
	授業内容	リスク消費社会の誕生： リスクの社会認知と世論
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
27	事前学習	指定教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前学習。(120分)
	授業内容	企業・組織の危機管理とリスクコミュニケーション
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
28	事前学習	指定教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前学習。(120分)
	授業内容	リスクコミュニケーションの社会教育
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)

29	事前学習	指定教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前学習。(120分)
	授業内容	メディア活動の危機管理
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)
30	事前学習	指定教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前学習。(120分)
	授業内容	議論の総括
	事後学習	研究ノートとレジюме作成。(120分)

科目名	比較ジャーナリズム論特殊講義	担当者	小林 聡明	期間	通年	単位数	4
-----	----------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、アメリカが、冷戦期（特に1960年代後半から70年代初頭）に北朝鮮に対して行った心理戦の実態について、一次史料をもちいて実証的に解明しようとするものである。それは、冷戦期のアメリカが、どのようにメディアを用いて、人々を煽動・動員しようとしていたかというメディア・コミュニケーション研究の俎上で議論できるだけでなく、国際政治史や冷戦史研究にも新たな知見をつけ加えることのできる課題として位置づけられる。			
授業目的・到達目標	本授業で扱う課題は、外交文書や軍事文書などの一次史料に基づいたメディア、ジャーナリズムに関する歴史実証研究である。こうした研究は、アーカイバル・リサーチとよばれ、歴史学のみならず、政治学や社会学、さらには人類学などの分野でも大きな広がりを見せている。こうした研究の潮流は、新聞学、メディア・ジャーナリズム研究でも見てとれる。それでは、アーカイバル・リサーチとは、どのように行えばよいのか。これを学ぶことが、本授業の目的である。そして、自らの研究トピックを設定し、必要なアーカイブズを探し当て、実証的な研究を行い、国際的な研究の潮流に、少しでもインパクトを与えるような成果をだせるようになることが、本授業の到達目標として設定される。			
履修条件	毎回、相当量の英語文献を読み、その内容をまとめてくるという課題が課せられる。したがって、相応の覚悟をもって学問を志す学生を歓迎するが、そうでない学生には、本授業の受講はお勧めできない。			
授業方法	授業担当者がアメリカで情報公開申請を行い、2018年9月と本年2月に機密解除され、入手した米陸軍文書を分析し、対北朝鮮心理戦の実態解明を行う。受講者は担当部分の分析結果を報告し、その後全員で議論する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	課題発表：50% 課題レポート：50%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	なし		
参考書	機密公開されたばかりの米陸軍文書および関連する国務省などの米公文書 メディア史、国際政治史、冷戦史に関する参考（課題）文献は、授業内で紹介する。			
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業で行うトピックについて、自分なりに調べ、考えておくこと（2時間）
	授業内容	イントロダクション 受講者と相談のうえ、担当部分を決定する。
	事後学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解（5時間）
2	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解（2時間）
	授業内容	心理戦研究の動向：メディア史、国際政治史、冷戦史の文脈からの展望
	事後学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 参考文献の読解（5時間）
3	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 マルチ・アーカイバル・リサーチに関する参考文献の読解（5時間）
	授業内容	マルチ・アーカイバル・リサーチとは何か：研究手法を学ぶ
	事後学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 参考文献の読解（5時間）
4	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 課題文献の読解作業（5時間）
	授業内容	アーカイバル・リサーチに基づく研究成果（英語論文）について受講者の発表と授業参加者による議論
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。（3時間）

5	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 課題文献の解説作業 (5時間)
	授業内容	アーカイバル・リサーチに基づく研究成果 (英語論文) について受講者の発表と授業参加者による議論
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)
6	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 課題文献の解説作業 (5時間)
	授業内容	アーカイバル・リサーチに基づく研究成果 (英語論文) について受講者の発表と授業参加者による議論
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)
7	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 担当部分の解説作業 (5時間)
	授業内容	受講者による担当部分の報告と授業参加者全員による討論
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)
8	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 担当部分の解説作業 (5時間)
	授業内容	受講者による担当部分の報告と授業参加者全員による討論
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)
9	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 担当部分の解説作業 (5時間)
	授業内容	受講者による担当部分の報告と授業参加者全員による討論
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)
10	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 担当部分の解説作業 (5時間)
	授業内容	受講者による担当部分の報告と授業参加者全員による討論
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)
11	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 担当部分の解説作業 (5時間)
	授業内容	受講者による担当部分の報告と授業参加者全員による討論
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)
12	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 担当部分の解説作業 (5時間)
	授業内容	受講者による担当部分の報告と授業参加者全員による討論
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)
13	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 担当部分の解説作業 (5時間)
	授業内容	受講者による担当部分の報告と授業参加者全員による討論
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)
14	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 担当部分の解説作業 (5時間)
	授業内容	受講者による担当部分の報告と授業参加者全員による討論
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)
15	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 (2時間)
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)
16	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 担当部分の解説作業 (5時間)
	授業内容	受講者による担当部分の報告と授業参加者全員による討論
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)



29	事前学習	東アジア現代史、冷戦史に関する文献読解 担当部分の解説作業 (5時間)
	授業内容	受講者が設定した研究課題に関する発表
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理しておくこと。(3時間)
30	事前学習	1年を通じて学んできたことを自分なりに整理し、感想やコメントを用意しておくこと (2時間)
	授業内容	まとめ
	事後学習	何が理解でき、何が理解できなかったのか。そして、得られた知見が、どのように自らの研究に結びつくのかについて、自らの考えを整理すること。(2時間)

科目名	国際コミュニケーション論特殊講義	担当者	鈴木 雄雅	期間	通年	単位数	4
-----	------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本講義はグローバル社会におけるメディアの影響を多角度から学ぶために、前学期は国際コミュニケーションの基礎と現代に至る進展を、後学期は各論（テーマ別）＝ニュース論、戦争、グローバル化するメディア文化などの諸問題をとりあげる。授業に関係するシンポジウムなど（大学内、大学外）があれば授業の一助として活用する。両学期とも受講生との対話を重視する。						
授業目的・到達目標	本講義はマス・メディアやインターネットを介した国際間の情報流通の諸問題を手がかりにして、国際間のコミュニケーションの諸問題を考える。異なる政治経済体制国々、歴史や文化を異にする国々のなかで南北問題や開発問題など、さまざまな局面にみられる国際間のコミュニケーションの問題を扱う。そのなかで、国際間のコミュニケーションのあり方を主軸に国際報道、ジャーナリズム、マス・メディアのあり方、マス・メディアへの接し方を学ぶ場とする。コミュニケーション、マス・コミュニケーションの基礎的な知識を修得し、国際間におけるマス・メディア/メディアの役割（機能）を考察することができること。ジャーナリズムの果たすべき役割は何かを問うことができるようにする。						
履修条件	今日のグローバル社会に身を置き、マス・メディア/インターネットに主体的に接することが日常に行えること。国際間のニュースの流れ、ジャーナリズムの役割、マス・メディアの現在に関心のある学生						
授業方法	テキスト、参考書をきちんと読んでいることを前提に、講義形式で進める。クイズやインターネットを使ったリアクション、ビデオ映像、新聞記事などから、多面的にアクセスする。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	授業参加度、リアクションペーパー、アサイメントの提出及び国際コミュニケーション、グローバル・コミュニケーションの基礎を理解しているかどうかを評価の一助とする				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	2003	ミネルヴァ書房	グローバル社会とメディア	武市英雄・原寿雄（責任編集）			
	2018	世界思想社	現代ジャーナリズムを学ぶ人のために【第2版】	大井眞二・田村紀雄・鈴木雄雅			
	2018	春風社	世界のメディア	小寺敦之（編）			
	備考	その他指定文献、論文などは講義時に適宜紹介する。					
参考書	講義中に紹介するほか、H. H. フレデリック、武市英雄ほか（訳）『グローバル・コミュニケーション』（松柏社、1996、2,700円）は必読書。						
オフィスアワー	授業時間後、授業講堂にて。その他Email(HAF00025@nifty.ne.jp)で質問・相談を受け付けます。						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	当該科目の履修確認。また、事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション
	事後学習	当該科目の履修届。また、これまでの復習を行っておくこと（2時間）
2	事前学習	前回授業内容、資料の確認 各回レジュメ（サイトアクセスを含む）を配布する。授業計画中の文献には書籍、論文、新聞・ネット記事（ニュース）、映像、URLなどを含む。（2時間）
	授業内容	概念、定義(1) コミュニケーション、マス・コミュニケーション
	事後学習	指定文献・論文の精読（2時間）
3	事前学習	前回授業内容と資料の読解（2時間）
	授業内容	概念、定義(2) 国際コミュニケーション、グローバリゼーション
	事後学習	指定文献の精読（2時間）
4	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	グローバリゼーションとメディアの進展(1)
	事後学習	グローバル社会とメディア 1章（2時間）

5	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	グローバル化とメディアの進展(2)
	事後学習	グローバル社会とメディア 2章（2時間）
6	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	グローバル化とメディアの進展(3)
	事後学習	グローバル社会とメディア 3章（2時間）
7	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	新世界情報コミュニケーション秩序（NWICO）論争(1)
	事後学習	アサイメント（1）（2時間）
8	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	新世界情報コミュニケーション秩序（NWICO）論争(2)
	事後学習	指定文献の精読（2時間）
9	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	冷戦崩壊と国境を越えるテレビ(1)東欧の崩壊（VTR鑑賞）
	事後学習	指定文献の精読（2時間）
10	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	冷戦崩壊と国境を越えるテレビ(2)
	事後学習	指定文献の精読（2時間）
11	事前学習	前回授業内容、資料の確認 グローバル社会とメディア8章（2時間）
	授業内容	マス・メディアからメガ・メディアの時代(1)
	事後学習	指定文献の精読（2時間）
12	事前学習	前回授業内容、資料の確認 グローバル社会とメディア8章（2時間）
	授業内容	メガ・メディアからギガ・メディアの時代(2)
	事後学習	指定文献の精読（2時間）
13	事前学習	前回授業内容、資料の確認 グローバル社会とメディア6章（2時間）
	授業内容	文化摩擦、情報格差とメディア(1)
	事後学習	指定文献の精読（2時間）
14	事前学習	前回授業内容、資料の確認 グローバル社会とメディア6章（2時間）
	授業内容	文化摩擦、情報格差とメディア(2)
	事後学習	指定文献の精読（2時間）
15	事前学習	2～14回目講義ノートの通読 レポートの作成（2時間）
	授業内容	総括 グローバルコミュニケーションを規定する要因
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（2時間）
16	事前学習	前学期履修した内容の復習（2時間）
	授業内容	後学期のオリエンテーション・進め方について
	事後学習	指定資料などの精読（2時間）

17	事前学習	教科書5章「グローバル社会とメディア」 (2時間)
	授業内容	ジャーナリズム機能と国際報道に期待される役割(1)
	事後学習	配布資料の精読 (2時間)
18	事前学習	前回資料の確認 (2時間)
	授業内容	ジャーナリズム機能と国際報道に期待される役割(2)
	事後学習	配布資料の精読 (2時間)
19	事前学習	グローバル社会とメディア 7章 (2時間)
	授業内容	国際報道、政治報道の諸問題(1) 日米報道
	事後学習	配布資料の精読 (2時間)
20	事前学習	グローバル社会とメディア 5章 (2時間)
	授業内容	国際報道、政治報道の諸問題(2) 客観報道主義
	事後学習	配布資料の精読 (2時間)
21	事前学習	日露戦争を調べる (2時間)
	授業内容	戦争とメディア：日露戦争 (VTR)
	事後学習	アサイメント (リアペ) (2時間)
22	事前学習	ベトナム戦争を調べる (2時間)
	授業内容	プロパガンダ、戦争(紛争)と国際報道をめぐる諸問題(1) ベトナム戦争 VTR
	事後学習	アサイメント (リアペ) (2時間)
23	事前学習	湾岸戦争、イラク戦争を調べる (2時間)
	授業内容	プロパガンダ、戦争(紛争)と国際報道をめぐる諸問題(2) 湾岸戦争、イラク戦争 VTR
	事後学習	アサイメント (リアペ) (2時間)
24	事前学習	グローバル社会とメディア 6章 (2時間)
	授業内容	グローバル化するメディア文化の諸問題(1)-韓流
	事後学習	関係サイトの閲覧、トピックの検出 (2時間)
25	事前学習	前回事後学習の確認 (2時間)
	授業内容	グローバル化するメディア文化の諸問題(2)-ジャパニメーション
	事後学習	実態の把握 (2時間)
26	事前学習	指定論文を読む (2時間)
	授業内容	グローバル化するメディア文化の諸問題(3)
	事後学習	指定論文の精読 (2時間)
27	事前学習	前回講義の復習 (2時間)
	授業内容	インターネット時代の国際報道(1) フェイクニュースの登場とポピュリズムの台頭
	事後学習	国際報道の検証 (2時間)
28	事前学習	指定論文 (2時間)
	授業内容	インターネット時代の国際報道(2) 国際メディア監視組織
	事後学習	国際報道の検証 (2時間)

29	事前学習	2回の国際報道講義の復習（2時間）
	授業内容	インターネット時代の国際報道(3) テロ・ポピュリズム
	事後学習	まとめ（2時間）
30	事前学習	17～29回講義ノートの通読 レポートの作成（2時間）
	授業内容	総 括
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（2時間）

科目名	比較コミュニケーション政策論特殊講義	担当者	本多 周爾	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	情報通信技術の発展に伴う情報化、世界的なレベルで相互依存関係の緊密化をもたらしているグローバル化という状況を踏まえ、国家、ならびに国際社会を取り巻くコミュニケーション環境に関わる問題について、比較研究の視点に立って分析、検討する。具体的には、国家・国民統合、開発と発展、国家間の情報流通に影響を及ぼすコミュニケーション政策、メディア政策、情報政策について理論的考察と事例研究を行う。			
授業目的・到達目標	コミュニケーション政策をめぐる諸問題に比較研究の視点からアプローチし、そこに横たわる課題を理論と実践の両面から考察し、解決の糸口を見つけ出すことができるようになることを目的とする。 国際コミュニケーション、開発コミュニケーションに関する専門知識を修得し、情報化とグローバル化という今日的な状況において、コミュニケーション政策が、国家の統合と開発、ナショナル・アイデンティティやナショナリズム等に及ぼす影響、ならびに南北間に横たわる情報流通の格差と不均衡、国際的な情報環境の変容等の問題について説明できるようになる。			
履修条件	特になし			
授業方法	配布するレジメ・プリント、教科書、参考書に即して、講義形式と演習形式を交えて授業を進める。 質疑応答、ディスカッションを通じて、授業内でフィードバックする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	講読と発表、報告 (70%)、ディスカッション (30%)	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	春風社	国際コミュニケーションの政治学	本多周爾
	備考			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本多周爾『台湾 メディア・政治・アイデンティティ』春風社、2010年</li> <li>・本多周爾『発展と開発のコミュニケーション政策』武蔵野大学出版会、2007年</li> </ul>			
オフィスアワー	火曜日16:10～16:30。なお、事前にメールでアポイントメントをとること			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	前期で講ずるテーマを念頭に、シラバスで教科書、参考書としてあげた文献に目を通しておくこと (2時間)
	授業内容	「授業をはじめににあたって」 比較コミュニケーション政策論の授業の概要、テーマ、スケジュールと進め方、参考文献の紹介、研究の方法、成績評価等について説明する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
2	事前学習	第1回目の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「比較コミュニケーション政策論の視座」 比較コミュニケーション政策論とは、コミュニケーション研究においてどのような位置づけにあるのか、どのような学問領域を構成しているのかについて考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
3	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「比較コミュニケーション政策論のテーマの設定」 比較コミュニケーション政策論についての理論を修得するために、関連する研究テーマとしてどのようなものがあるのかを選定し、それらの研究上の有意性について検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
4	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「コミュニケーション政策の分野と概要」 コミュニケーション政策の理論的視点を押さえる一方、日本、アメリカ、EU、ならびにいくつかの東南アジア諸国の実際のコミュニケーション政策の一部を分析する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)

5	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「メディア政策、情報化政策の範囲と概要」 メディア政策、情報化政策について、政策の理論的視点を押さえる一方、日本、アメリカ、EUの実際のメディア政策、情報化政策について分析する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
6	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「国家統合、国民統合の理論と過程」 国家を統合し、国民を形成する過程について論じている理論と研究について、現実の国家建設に照らして検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
7	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「国家統合におけるコミュニケーションの機能」 西洋の歴史における国家統合においてコミュニケーションが果たしてきた役割を参照しつつ、新興国家における国家建設におけるコミュニケーションの機能について考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
8	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「国民統合におけるメディアの役割」 西洋の国民統合において新聞等のマス・メディアが担ってきた役割を紹介しつつ、新興国家の国民形成におけるマス・メディアの役割は何かを検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
9	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「国家統合、国民統合とコミュニケーション政策」 発展途上諸国が国家統合と国民形成にあたって、実施している実際のコミュニケーション政策をいくつかの事例を比較しながら検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
10	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「開発、発展の理論とパラダイム転換」 発展途上諸国が進める開発と発展に関する理論研究と、その思想的背景であるパラダイムについて考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
11	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「開発、発展におけるコミュニケーションの機能と役割」 発展途上国が開発と発展を進める中で、マス・メディア、コミュニケーションはどのような役割が課せられ、どのような機能を果たすと考えられるかを分析する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
12	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「開発コミュニケーションの理論とパラダイム転換」 発展途上諸国がコミュニケーションを活用した開発と発展を実施する、開発コミュニケーションについての理論とパラダイムが、大きく転換してきた過程と意味を考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
13	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「開発コミュニケーション政策の実践」 発展途上諸国が実際に試行している開発コミュニケーションの政策の事例を取り上げ、その実態を検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
14	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「比較コミュニケーション政策論の論点の分析、再検討」 国家統合、国民形成という視点からコミュニケーション政策の理論と実践を改めて比較研究という面から検討、考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
15	事前学習	第1回から14回までに配布したレジメ・プリントに目を通し、それぞれのテーマ毎に提示したポイントと課題、ディスカッションのテーマについて整理しておくこと (2時間)
	授業内容	「前期講義の小括」 前期の授業において分析、検討、考察してきた比較コミュニケーション政策論について、そこで浮上した課題も含めて、小括する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)

16	事前学習	後期で取り上げるテーマを念頭に、シラバスで教科書、参考書としてあげた文献に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	「後期の授業をはじめるにあたって」 後期の授業の概要、テーマ、スケジュールと進め方を説明し、参考文献を紹介する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）
17	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと（2時間）
	授業内容	「国際的な情報流通の不均衡、情報格差の是正に向けた政策」 南北間のコミュニケーションの流れの不均衡、情報格差の実態とその背景にある歴史的な遺産と経済構造に焦点を当てて考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）
18	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと（2時間）
	授業内容	「新世界情報コミュニケーション秩序の構築を求める動き」 南北間に横たわる情報とコミュニケーションの流れの不均衡を是正しようという動きと、それをめぐる先進諸国と発展途上諸国間の対立について考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）
19	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと（2時間）
	授業内容	「マス・メディア宣言以後の情報コミュニケーション秩序」 マス・メディア宣言によって新しい世界的な情報コミュニケーション秩序が構築された経緯と、その後の国際的な情報環境の実情について分析する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）
20	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと（2時間）
	授業内容	「情報化の進展と政策的な展開」 先進諸国、発展途上諸国を問わず世界的なレベルで進展する情報化について、自然経過的に進んできた現象と政策的に進められてきた面について検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）
21	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと（2時間）
	授業内容	「グローバル化と情報化政策の課題」 不可避的、不可逆的な現象であるグローバル化において、情報化政策によって情報化が進展することで生ずる問題点を発展途上諸国の開発に即して検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）
22	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと（2時間）
	授業内容	「情報化、グローバル化の開発コミュニケーション政策への影響」 現在進行している情報化とグローバル化は、果たして発展途上諸国の開発とコミュニケーション政策にどのような影響をもたらしているかについて検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）
23	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと（2時間）
	授業内容	「東アジア、東南アジアにおける開発政治」 発展が著しい台湾、ならびにインドネシア、マレーシア、タイにおける開発政治のあり様と特徴について、比較検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）
24	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと（2時間）
	授業内容	「東アジア、東南アジアにおける開発コミュニケーション政策」 台湾、ならびにインドネシア、マレーシア、タイにおける開発コミュニケーション政策のあり様と特徴について、比較検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）
25	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと（2時間）
	授業内容	「台湾の発展と情報化政策」 経済発展を遂げ、先進国の仲間入りを果たそうとしている台湾について、その開発政治とそれを支える情報化政策について分析する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）
26	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと（2時間）
	授業内容	「インドネシアの開発コミュニケーション政策」 ASEANの盟主であるインドネシアの発展の基礎を築いたスハルト政権の開発政治とコミュニケーション政策、その後の動きについて考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）

27	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「マレーシアの開発コミュニケーション政策」 2020年に先進国入りを目指すマレーシアの発展の基礎を築いたマハティール政権の開発政治とコミュニケーション政策、その後の動きについて考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
28	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマと参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと (2時間)
	授業内容	「タイの開発コミュニケーション政策」 経済発展が著しいタイについて、半民主主義体制といわれる政体における開発政治とコミュニケーション政策の実情と課題について検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
29	事前学習	第16回から28回までに配布したレジメ・プリントに目を通し、それぞれのテーマ毎に提示したポイントと課題、ディスカッションのテーマについて整理しておくこと (2時間)
	授業内容	「後期講義の小括」 情報流通の不均衡と格差、情報化とグローバル化について整理する一方、台湾、インドネシア、マレーシア、タイにおける開発コミュニケーション政策を比較検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業のポイントと課題、ディスカッションのテーマについて参考文献に沿って復習しておくこと (2時間)
30	事前学習	前後期授業のレジメ・プリントに沿って、比較コミュニケーション政策論について概括し、そこから見えてくる研究課題を抽出しておくこと (2時間)
	授業内容	「比較コミュニケーション政策論に残された研究課題と展望」 国家建設、国民統合、開発においてコミュニケーション政策が果たす役割を事例研究に基づいて分析、再検討し、知見を得る一方、そこから見えてくる課題について考察する。
	事後学習	授業で議論した研究課題、研究テーマについて検討し、それらに対する自らの知見を整理すること (2時間)

科目名	中国メディア論特殊講義	担当者	山本 賢二	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	「武」（武力）と「文」（宣伝）によって中国国民党から政権を奪取した中国共産党にとっては、メディアは中国を経営するための耳目と喉舌である。耳目とは情報の収集を指し、喉舌とは情報の提供を意味している。本講義は中国共産党のメディアコントロールの実態を検証するものである。			
授業目的・到達目標	中国共産党の指導による中国のメディア・ジャーナリズムの動向を分析するための方法を修得すると同時に、日中相互理解に対する中国メディアの機能を考察し説明できるようになることを目標とする。			
履修条件	特になし。			
授業方法	参考書を熟読していることを前提とし、担当者(山本)の研究論文を一週一編読み、その内容について話し合いながら講義を進める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	50%：レポート（学年末に「中国の国情とメディア」というテーマでレポートを提出） 50%：授業中における話し合いに積極的に参与する。これを平常評価とする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年度	教員学生共有サイト掲載	中国メディア・ジャーナリズム論考(1)(2)(3)	山本賢二
	2019年度	教員学生共有サイト掲載	中国メディア・ジャーナリズム論考-習近平の時代	山本賢二
	備考	上記「論考」の中から、任意に論文を選択し、報告、議論する。下記「授業計画」の「授業内容」は例示。		
参考書	何 清漣（著）、中川 友（翻訳）『中国のの嘘—恐るべきメディア・コントロールの実態』扶桑社 2005/2			
オフィスアワー	月曜日と水曜日の12時30分から13時まで2号館9階講師室。時間が必要な場合は、別の時間を設定するので、事前に下記のアドレスに連絡すること。 yamamoto.kenji@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「情報主権」について調べる。（2時間）
	授業内容	ガイダンス(情報主権)
	事後学習	中国の「情報主権」観をまとめる。（2時間）
2	事前学習	関連文献を読む。（2時間）
	授業内容	中国における「中国共産党の指導」（「論考」（1）p. 4－12）
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。（2時間）
3	事前学習	関連文献を読む。（2時間）
	授業内容	中国の「四大自由」再考（「論考」（1）p. 28－52）
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。（2時間）
4	事前学習	関連文献を読む。（2時間）
	授業内容	中国における「四権」の消長（「論考」（3）p. 45－79）
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。（2時間）

5	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	一言堂-中国共産党一党独裁と「08憲章」をめぐる(「論考」(1)p. 53-73)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
6	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	習近平と中国の言論空間(「論考」(3)p. 21-44)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
7	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	メディアとしての太極拳(「論考」(1)p. 308-322)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
8	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	中国の「四大自由」(「論考」(1)p. 28-52)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
9	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	「中国新聞工作者職業道德準則」について(「論考」(2)p. 127-128)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
10	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	中国「新聞記者証管理弁法」について(「論考」(2)p. 270-334)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
11	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	中国におけるオンラインニュース管理規定(「論考」(2)p. 335-401)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
12	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	中華人民共和国サイバーセキュリティ法(「論考」(3)p. 132-182)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
13	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	胡績偉のジャーナリズム論(「論考」(2)p. 46-66)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
14	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	中国のジャーナリズム・イデオロギー・憲政運動(「論考」(2)p. 67-76)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
15	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	「炎黄春秋」と出版の自由(「論考」(2)p. 401-412)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
16	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	一国両制と新聞の自由(「論考」(1)p. 119-142)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)

17	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	少数民族問題についての輿論誘導(「論考」(1)p. 143-162)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
18	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	9.11事件と中国メディア(「論考」(1)p. 83-98)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
19	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	中国の国際コミュニケーション戦略(「論考」(1)p. 111-118)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
20	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	中国にとっての情報としての知財(「論考」(1)p. 296-307)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
21	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	「新聞法」について(「論考」(2)p. 179-269)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
22	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	中華人民共和国情報公開条例(「論考」(1)p. 323-338)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
23	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	新疆「7.5」事件とインターネット規制(「論考」(1)p. 163-183)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
24	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	林語堂のジャーナリズム論(「論考」(1)p. 74-82)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
25	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	「抗日戦争勝利70周年」のスローガン(「論考」(2)p. 99-126)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
26	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	東芝ノートパソコン事件報道(「論考」(1)p. 184-208)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
27	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	西安留学生寸劇事件報道(「論考」(1)p. 209-228)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
28	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	日中の言論空間(「論考」(1)p. 244-255)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)

29	事前学習	関連文献を読む。(2時間)
	授業内容	日中相互理解とメディアリテラシー(「論考」(1)p.256-295)
	事後学習	上記内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)
30	事前学習	これまで報告・議論してきた内容を再検証する。(2時間)
	授業内容	話し合いメディアと日中相互理解
	事後学習	話し合った内容について自分の意見を含めてまとめる。(2時間)

科目名	ウェブ・ジャーナリズム論特殊講義	担当者	水野 泰志	期間	通年	単位数	4
-----	------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	ネット社会の進展に伴い、メディア環境が激変する中、ネットメディアを活用したジャーナリズムについて、さまざまな角度から実証的な研究を行う。内外の最新の事例にもとづき、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど既存メディアにおけるジャーナリズムとの比較を通じ、ウェブジャーナリズムの本質、信頼性、影響力、功罪、可能性、課題などを明らかにしていく。			
授業目的・到達目標	ネット時代のジャーナリズムについて、専門的な知識を蓄え、実践することで、高度情報化された民主的社会の知見を深めることを目的とする。 急速に変容・深化するウェブジャーナリズムについて、基礎的知識を修得するとともに、院生がネット社会のあるべき姿を表現できることを目標とする。			
履修条件	とくになし。			
授業方法	ウェブジャーナリズムの動向について個々の院生が興味を持つテーマを設定して調査研究を行い、論文（レポート）を作成し、それに基づき受講者全員で討議する。論文（レポート）は、中間報告を含め発表の都度、講評や解説を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	院生ごとに設定した研究テーマにおける成果、講義への取り組み、討議の内容などにより、総合判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		
参考書	必要に応じて提示する。			
オフィスアワー	火曜日18:00～19:00（事前にメールでアポイントメントをとること） 図書館L302 メールアドレス：aei03021@nifty.com			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認し、ウェブジャーナリズムについて考える。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション：授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。
	事後学習	ウェブジャーナリズムについて整理する。（2時間）
2	事前学習	ウェブジャーナリズムの具体事例について考える。（2時間）
	授業内容	ウェブジャーナリズムの概要について考察する。
	事後学習	ウェブジャーナリズムの具体事例について整理する。（2時間）
3	事前学習	コミュニケーションとメディアの関係について考える。（2時間）
	授業内容	コミュニケーションとメディアの関係について考察する。
	事後学習	コミュニケーションとメディアの関係について整理する。（2時間）
4	事前学習	自らが研究するウェブジャーナリズムに関する研究テーマを絞り込む。（2時間）
	授業内容	ウェブジャーナリズムに関する研究テーマの事例について考察する。
	事後学習	自らが研究するウェブジャーナリズムに関するテーマを整理する。（2時間）

5	事前学習	自らが研究するウェブジャーナリズムに関するテーマを設定する。(2時間)
	授業内容	個々の院生がウェブジャーナリズムに関する個々の研究テーマを設定する。
	事後学習	次回以降、受講者はそれぞれ決定した研究テーマについて、順番にプレゼンするので、それぞれ準備にとりかかる。(2時間)
6	事前学習	プレゼン担当者は、事前に、自らの研究テーマについてレポート(中間報告等)を提出して受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。(2時間)
	授業内容	情報革命とジャーナリズムについて考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し、受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについてのプレゼンや討議を受け、知見を深める。(2時間)
7	事前学習	プレゼン担当者は、事前に、自らの研究テーマについてレポート(中間報告等)を提出して受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。(2時間)
	授業内容	ネットメディアの特性について考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し、受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについてのプレゼンや討議を受け、知見を深める。(2時間)
8	事前学習	プレゼン担当者は、事前に、自らの研究テーマについてレポート(中間報告等)を提出して受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。(2時間)
	授業内容	マスメディアとソーシャルメディアについて考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し、受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについてのプレゼンや討議を受け、知見を深める。(2時間)
9	事前学習	プレゼン担当者は、事前に、自らの研究テーマについてレポート(中間報告等)を提出して受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。(2時間)
	授業内容	ソーシャルメディアの深化について考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し、受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについてのプレゼンや討議を受け、知見を深める。(2時間)
10	事前学習	プレゼン担当者は、事前に、自らの研究テーマについてレポート(中間報告等)を提出して受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。(2時間)
	授業内容	フェイクニュースについて考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し、受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについてのプレゼンや討議を受け、知見を深める。(2時間)
11	事前学習	プレゼン担当者は、事前に、自らの研究テーマについてレポート(中間報告等)を提出して受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。(2時間)
	授業内容	日本のウェブジャーナリズム事情について考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し、受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについてのプレゼンや討議を受け、知見を深める。(2時間)
12	事前学習	プレゼン担当者は、事前に、自らの研究テーマについてレポート(中間報告等)を提出して受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。(2時間)
	授業内容	米国のウェブジャーナリズム事情について考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し、受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについてのプレゼンや討議を受け、知見を深める。(2時間)
13	事前学習	プレゼン担当者は、事前に、自らの研究テーマについてレポート(中間報告等)を提出して受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。(2時間)
	授業内容	欧州のウェブジャーナリズム事情について考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し、受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについてのプレゼンや討議を受け、知見を深める。(2時間)
14	事前学習	参議院議員通常選挙(参院選)について基本的知識を修得する。(2時間)
	授業内容	参院選の開票報道に接し、新聞・放送メディアとネットメディアの違いを体感する。
	事後学習	参院選の開票報道の体験を踏まえ、ウェブジャーナリズムへの知見を深める。(2時間)
15	事前学習	ウェブジャーナリズムに関する自らの研究テーマについて、前期のまとめのレポートを作成する。(2時間)
	授業内容	前期まとめ
	事後学習	講義や、さまざまな研究テーマについて知見を深め、後期に向けて自らの研究テーマの課題や進め方について整理する。(2時間)
16	事前学習	前期の自らの調査研究を踏まえ、後期の調査研究について計画を立てる。(2時間)
	授業内容	ウェブジャーナリズムに関する個々の院生の調査研究の後期の進め方について考察する。
	事後学習	後期の自らの調査研究の進め方について整理する。(2時間)



29	事前学習	ウェブジャーナリズムに関する自らの研究テーマについて、まとめの論文（レポート）を準備する。（2時間）
	授業内容	個々の院生の論文（レポート）について、最終案（まとめ）を調整する。
	事後学習	ウェブジャーナリズムに関する自らの研究テーマについて、まとめの論文（レポート）を整理する。（2時間）
30	事前学習	ウェブジャーナリズムに関する自らの研究テーマについて、最終論文（レポート）を作成する。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	講座全般の内容について、知見を深める。（2時間）

科目名	映像ジャーナリズム論特殊講義	担当者	米倉 律	期間	通年	単位数	4
-----	----------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	テレビを中心とした映像ジャーナリズムは、グローバル時代において外国・外国人に対する認識やイメージの形成に大きな影響力を持つ。本授業では日本・中国・韓国を中心とした東アジアにおける放送メディアのグローバルな流通に着目しながら、日中戦争や従軍慰安婦などをめぐる「歴史和解」の問題に放送メディアがどのように関わるのか、ドキュメンタリーやニュース報道、韓流ドラマなど、幾つかのジャンルに即して考える。			
授業目的・到達目標	東アジアにおける放送、ジャーナリズムを通じた文化的対話や歴史和解に関する理論の修得を目的とする。放送メディアと歴史和解の関わりについて理解し考察を深めるとともに、説明できるようにすることを目標とする。			
履修条件	ドキュメンタリー番組、報道番組、韓流ドラマなどについて関心を持ち、視聴できる環境にあること			
授業方法	文献講読と、番組の映像素材を用いた分析、発表、ディスカッションを組み合わせる。評価の対象とする発表については、授業内で随時講評を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	数回の発表と日常の発言などで総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	石田佐恵子・木村幹ほか『ポスト韓流のメディア社会学』（ミネルヴァ書房、2007） その他、適宜指示する。			
オフィスアワー	毎週火曜日の昼休み。研究室は本館7階（1719） できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。 メールアドレスは、yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	入手した参考書などを用いて準備する。（2時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	配布資料を用いて振り返り（2時間）
2	事前学習	参考文献の該当章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	日本における韓流の台頭と展開①
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する（2時間）
3	事前学習	参考文献の該当章を読み、関連の情報を収集・整理しておく。（2時間）
	授業内容	日本における韓流の台頭と展開②
	事後学習	講義およびディスカッションの内容に沿って振り返り。（2時間）
4	事前学習	参考文献の該当章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	日本における韓流の台頭と展開③
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する（2時間）

5	事前学習	参考文献の該当章を読み、関連の情報を収集・整理しておく。(2時間)
	授業内容	日本における韓流の台頭と展開④
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
6	事前学習	ヘイトスピーチに関連する資料を収集、分析する。(2時間)
	授業内容	事例研空①：ヘイトスピーチ
	事後学習	関連の書籍を読んでおく(2時間)
7	事前学習	ヘイトスピーチに関連する資料を収集、分析する。(2時間)
	授業内容	事例研究②：ヘイトスピーチ
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
8	事前学習	参考文献の該当章を読み、関連の情報を収集・整理しておく。(2時間)
	授業内容	日本における韓流の台頭と展開⑤
	事後学習	関連の書籍を読んでおく(2時間)
9	事前学習	参考文献の該当章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	日本における韓流の台頭と展開⑥
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
10	事前学習	参考文献の該当章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	従軍慰安婦問題と日韓関係①
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
11	事前学習	参考文献の該当章を読み、関連の情報を収集・整理しておく。(2時間)
	授業内容	従軍慰安婦問題と日韓関係②
	事後学習	配布資料を用いて振り返り(2時間)
12	事前学習	従軍慰安婦問題に関連する資料を収集、分析する。(2時間)
	授業内容	従軍慰安婦問題と日韓関係③
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
13	事前学習	参考文献の該当章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	従軍慰安婦問題と日韓関係④
	事後学習	関連の書籍を読んでおく(2時間)
14	事前学習	従軍慰安婦問題に関連する資料を収集、分析する。(2時間)
	授業内容	従軍慰安婦問題と日韓関係⑤
	事後学習	配布資料を用いて振り返り(2時間)
15	事前学習	前期の授業内容についてノートその他でまとめる。
	授業内容	前期まとめ
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
16	事前学習	日中戦争について関連する資料を収集、分析する。(2時間)
	授業内容	テレビの中の日中戦争の表象①(2時間)
	事後学習	配布資料を用いて振り返り

17	事前学習	日中戦争について関連する資料を収集、分析する。(2時間)
	授業内容	テレビの中の日中戦争の表象②
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
18	事前学習	参考文献の該当章を読み、関連の情報を収集・整理しておく。(2時間)
	授業内容	テレビの中の日中戦争の表象③
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
19	事前学習	靖国神社についての基本的情報を収集、整理しておく。(2時間)
	授業内容	事例研究：映画「靖国」①
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
20	事前学習	映画「靖国」の上映問題について情報収集、分析する。(2時間)
	授業内容	事例研究：映画「靖国」②
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
21	事前学習	参考文献の該当章を読み、関連の情報を収集・整理しておく。(2時間)
	授業内容	テレビの中の日中戦争の表象④
	事後学習	配布資料を用いて振り返り(2時間)
22	事前学習	参考文献の該当章を読み、関連の情報を収集・整理しておく。(2時間)
	授業内容	テレビの中の日中戦争の表象⑤
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
23	事前学習	南京事件について基本的情報を調べておく。(2時間)
	授業内容	事例研究：南京事件①
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しまとめる。(2時間)
24	事前学習	南京事件について関連情報を収集・整理しておく。(2時間)
	授業内容	事例研究：南京事件②
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
25	事前学習	南京事件について関連情報を収集・整理しておく。(2時間)
	授業内容	事例研究：南京事件③
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
26	事前学習	参考文献の該当章を読み、関連の情報を収集・整理しておく。(2時間)
	授業内容	日中韓のドラマを通じた「文化的対話」①
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しまとめる。(2時間)
27	事前学習	参考文献の該当章を読み、関連の情報を収集・整理しておく。(2時間)
	授業内容	日中韓のドラマを通じた「文化的対話」②
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)
28	事前学習	参考文献の該当章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	日中韓のドラマを通じた「文化的対話」③
	事後学習	配布資料およびノートを用いて復習する(2時間)

29	事前学習	参考文献の該当章を読み、関連の情報を収集・整理しておく。(2時間)
	授業内容	日中韓のドラマを通じた「文化的対話」④
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しまとめる。(2時間)
30	事前学習	一年間の授業の内容についてノート、資料等を用いて振り返り(2時間)
	授業内容	年間総括
	事後学習	講義およびディスカッションの内容を整理しまとめる。(2時間)

科目名	文献研究(英)	担当者	小川 浩一	期間	通年	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	この授業ではマス・コミュニケーション現象を生んでいる社会と文化を考察し、さらにそれらがマス・コミュニケーションからも大きく影響を受けていることを明らかにした諸研究を学ぶ。マス・コミュニケーション研究が多様な学問領域の成果によることを知る。必要な英文は授業時に配布する。『Media, Culture and Society』 P. Hodgkinson 著 の必要部分を読みます。			
授業目的・到達目標	英語の文献を解題するだけでなく、それらを正しい、分かり易い日本語文章に翻訳することを通じて、内容を正確に把握することを目標とする。加えてそこで用いられている言葉の概念定義を修得することも重要な目標とする。ここで修得した概念、用語は修士論文作成に有用なものである。			
履修条件	新聞学研究科博士前期課程1, 2年次生を対象とする。			
授業方法	輪読形式で行う。英和辞典(出来れば英英辞典も)持参する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業時に提出する日本語訳文。授業時に発表する翻訳内容。最終提出翻訳文。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。授業時に必要論文を配布する。		
参考書	必要に応じ指示する			
オフィスアワー	非常勤なので、質問がある場合には事前に申し出て日程を調整してください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	受験時に参考とした文献を読み直す。(30分以上)
	授業内容	ガイダンス、指定文献の背景説明。文献資料配布。
	事後学習	第1回用の解題、日本語訳作成(30分以上)
2	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成(30分以上)
	授業内容	introduction
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する(30分以上)
3	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成(30分以上)
	授業内容	introduction
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する(30分以上)
4	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成(30分以上)
	授業内容	introduction
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する(30分以上)

5	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	He communication process
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
6	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	The communication process
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
7	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	The communication process
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
8	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Elements of media in socio-cultural context
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
9	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Elements of media in socio-cultural context
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
10	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Elements of media in socio-cultural context
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
11	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Elements of media in socio-cultural context
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
12	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Making connections
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
13	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Making connections
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
14	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Making connections
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
15	事前学習	全体を通読する。（30分以上）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	前期提出レポートの再構成（30分以上）
16	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Empirical traditions of audience research, limited effects and two-step flow
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）

17	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Empirical traditions of audience research, limited effects and two-step flow
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
18	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Empirical traditions of audience research, limited effects and two-step flow
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
19	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Cultural studies
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
20	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Cultural studies
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
21	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Cultural studies
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
22	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Cultural studies
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
23	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	The culture industry as mass deception
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
24	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	The culture industry as mass deception
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
25	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	The culture industry as mass deception
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
26	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Ideological meanings
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
27	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Ideological meanings
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
28	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Political economy and ideology
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）

29	事前学習	該当部分の翻訳と日本語文章の作成（30分以上）
	授業内容	Political economy and ideology
	事後学習	授業時に指摘された部分、用語を修正、訂正して翻訳文を再構築する（30分以上）
30	事前学習	全体を通読する。（30分以上）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	レポートの準備をする。（30分以上）

科目名	文献研究(日)	担当者	小川 浩一	期間	通年	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	経済的グローバル化の歪が経済格差を原因とする格差として様々な領域で現れていることはメディアで示されている。マス・メディアを研究する以上、そして日本で研究をする以上、何が起き何が問題としてメディアで取り上げられているのかを日本語で知らなければならない。マス・メディアで日常的に取り上げられている格差をどのように考えるのかを修得する。複数の書物を解説する。			
授業目的・到達目標	日本語でジャーナリズムおよび社会学の関連文献と論文を購読する。専門文献を読み解くことで、日本語に馴染むだけでなく社会科学における日本語表現を身に付ける。留学生諸君が日本語での修士論文を執筆可能となる水準に到達すること。もう一つは、日本社会の問題が自分の国ではどのように現れているのかを実証的に検討すること。そのためのレポートを求めます。			
履修条件	特に無いが、日常的に日本語の文献を読むこと。読んだものを纏めることが常に求められます。新聞を読む習慣を身に付けてください。			
授業方法	日本語文献(論文、著書)を輪読し、内容を報告する。さらにその内容に関するレポートを提出し、討論をする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平生の発表、課題レポートの成果。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006	岩波新書	格差社会—何が問題なのか (前期テキスト)	橘木俊詔
	2008	岩波新書	子どもの貧困 (後期テキスト)	阿部 彩
	備考			
参考書	授業時に指示する			
オフィスアワー	非常勤なので、質問がある場合には事前に申し出て日程を調整してください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自国の格差のデータを収集する。(30分以上)
	授業内容	前期全体のガイダンス
	事後学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化(30分以上)
2	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化(30分以上)
	授業内容	日本は学歴社会なのか
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える(30分以上)
3	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化(30分以上)
	授業内容	大学進学への壁
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える(30分以上)
4	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化(30分以上)
	授業内容	学歴格差は三極化
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える(30分以上)

5	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	子供の学歴を決めるもの
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
6	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	文化資本か、学力資本か
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
7	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	教育の目的・方法の変遷
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
8	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	公立か、私立か
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
9	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	エリート単線型の学歴コース
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
10	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	学費負担の増大と教育の不平等化
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
11	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	低い公費負担、増える家計負担
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
12	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	貧困家庭の増大と教育
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
13	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	教育の目的を検証する
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
14	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	リベラリズムと教育政策
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
15	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	働くことと教育の連携
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
16	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	後期のガイダンス
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）

17	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	貧困家庭に育つということ
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
18	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	貧困家庭に育つということ
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
19	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	子供の貧困を測る
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
20	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	子供の貧困を測る
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
21	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	だれのための政策か
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
22	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	だれのための政策か
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
23	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	追いつめられる母子世帯の子ども
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
24	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	追いつめられる母子世帯の子ども
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
25	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	学歴社会と子どもの貧困
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
26	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	学歴社会と子どもの貧困
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
27	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	子どもにとっての必需品を考える
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
28	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	子どもにとっての必需品を考える
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）

29	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	子ども対策に向けて
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
30	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	子ども対策に向けて
	事後学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）

科目名	文献研究(中)	担当者	山本 賢二	期間	通年	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	中国のメディアに関する文献資料、特に法令、条例、通知などを日本語に訳し、資料として新聞学研究所の紀要『J&M』に公表する。今年度は「出版管理定」を日本語に翻訳する。						
授業目的・到達目標	中国のメディアに係る法令を正確な日本語に訳す能力を修得すると同時に、中国のジャーナリズム制度の現況について基礎知識を得、説明できるようになることを目標とする。						
履修条件	特になし。						
授業方法	関係論文を輪読、日訳し、その内容について話し合う。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	出席しての輪読・日訳、さらには議論を評価対象とする。				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	2019年度	教員学生共有サイトに掲載	中国メディア管理規定	山本賢二			
	備考						
参考書	適宜指示する。						
オフィスアワー	月曜日と水曜日の12時30分から13時まで2号館9階講師室。時間が必要な場合は、別の時間を設定するので、事前に下記のアドレスに連絡すること。 yamamoto.kenji@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	中国のメディア環境について基本的知識を得ておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	正しい日本語にするため、メディアに関する日本語の専門用語を調べる。(30分)
2	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」①
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
3	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」②
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
4	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」③
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)

5	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」④
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
6	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑤
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
7	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑥
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
8	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑦
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
9	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑧
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
10	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑨
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
11	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑩
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
12	事前学習	推敲該当部分を再考し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	前半部の日本語訳推敲①
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、初稿を完成する。(30分)
13	事前学習	推敲該当部分を再考し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	前半部の日本語訳推敲②
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、初稿を完成する。(30分)
14	事前学習	推敲該当部分を再考し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	前半部の日本語訳推敲③
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、初稿を完成する。(30分)
15	事前学習	推敲該当部分を再考し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	前半部の日本語訳推敲④
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、初稿を完成する。(30分)
16	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑪
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)

17	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑫
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
18	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑬
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
19	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑭
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
20	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑮
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
21	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑯
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
22	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑰
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
23	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑱
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
24	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑲
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
25	事前学習	担当翻訳箇所を翻訳し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	「出版管理定」⑳
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、清書する。(30分)
26	事前学習	推敲該当部分を再考し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	日本語訳の総推敲①
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、初稿を完成する。(30分)
27	事前学習	推敲該当部分を再考し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	日本語訳の総推敲②
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、初稿を完成する。(30分)
28	事前学習	推敲該当部分を再考し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	日本語訳の総推敲③
	事後学習	授業中に修正した箇所を直し、初稿を完成する。(30分)

29	事前学習	推敲該当部分を再考し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	日本語訳の総推敲④
	事後学習	初稿を修正し、完成する。(30分)
30	事前学習	推敲該当部分を再考し、受講者数分のコピーを準備する。(30分)
	授業内容	日本語訳の総推敲⑤
	事後学習	初稿を修正し、完成する。(30分)

科目名	ジャーナリズム理論演習 I	担当者	湯浅 正敏	期間	前期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	「ジャーナリズムの規範となる基本原則」と「市場原理に基づくジャーナリズム」、端的に言えば「公共性」と「商業主義」という対立概念の中で、次世代のジャーナリズムにとって必要なものは何かについて考察する授業である。						
授業目的・到達目標	DP及びCPである専門研究者及びジャーナリストやメディア関連の専門職業人を要請するため、高度な専門知識、批判的思考力、高度な倫理観の滋養を目的とする。専門知の育成、批判的思考、高度な倫理観の体得の観点から、「ジャーナリズムの規範となる基本原則」の学習を通して、これらを理解、説明できるように指導する。						
履修条件	特になし。						
授業方法	毎回オリエンテーション（講義）や資料（映像含む）をもとに、論点となるテーマを選んで討議型の授業スタイルを取る。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	レポートの提出、授業内の発表、討議内容等によって総合的に評価する。				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	2002	日本経済評論社	『ジャーナリズムの原則』	B. コバッチ、T. ローゼンステール			
	備考	使					
参考書	ジョン・H・マクナマス『市場原理に基づくジャーナリズム』、N. チョムスキー他『マニファクチャリング・コンセンスト マスメディアの政治経済学』等。						
オフィスアワー	木曜日12:20から13:00 研究室9号館9402室yuasa.masatoshi@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスの授業内容を見て各自何について学びたいか等予め意見をまとめておく。(30分)
	授業内容	ガイダンスとジャーナリズムの原則I~5(1)
	事後学習	ジャーナリズムの原則I~5について、今後の基礎知識として十分理解する。(30分)
2	事前学習	ジャーナリズムの規範となる諸原則6~10についての配布資料を事前に読んで授業に臨む。(30分)
	授業内容	ジャーナリズムの原則6~10(2)
	事後学習	ジャーナリズムの規範となる諸原則10について、今後の基礎知識として十分理解しておく。(30分)
3	事前学習	チョムスキーのプロパガンダ・モデル5つのファクター関連の資料を読んでおく。(30分)
	授業内容	チョムスキーのプロパガンダ・モデル5つのファクター
	事後学習	プロパガンダ・モデル5つのファクターについて、今後の基礎知識として十分理解しておく。(30分)
4	事前学習	米国の黎明期の新聞の歴史の中で、マクレーキング(muckraking)について事前に配布資料を読んで授業に臨む。(30分)
	授業内容	調査報道の歴史 マクレーキングからCAR(Computer Assisted Reporting)へ
	事後学習	マクレーキングは、調査報道とどう違うのか、マクレーキングの衰退原因、CARの調査報道への影響について理解する。(30分)

5	事前学習	60年代、70年代の米国の政治、経済状況について事前に学習する。(30分)
	授業内容	調査報道の事例：ウォーターゲート事件、ペンタゴン・ペーパーズetc
	事後学習	ジャーナリズム、権力の監視役、調査報道について、レポート提出。(30分)
6	事前学習	ジャーナリズム、権力の監視役、調査報道について、レポートをもとに発表準備。(30分)
	授業内容	ジャーナリズム、権力の監視役、調査報道について、討議。
	事後学習	討議で得られた様々な視点を整理する。(30分)
7	事前学習	事実とは何か、エビデンス、分析、意味について理解する。(30分)
	授業内容	インテリジェンス・ジャーナリズム (1) エビデンスと検証のジャーナリズム
	事後学習	報道機関のエビデンスの扱い、その目的、意義について理解する。(30分)
8	事前学習	エビデンスと断定のジャーナリズムについて、配布資料をもとに学習する。(30分)
	授業内容	インテリジェンス・ジャーナリズム (2) エビデンスと断定のジャーナリズム
	事後学習	断定、主張のジャーナリズムの問題点について、理解する。(30分)
9	事前学習	市場原理のジャーナリズムについて、配布資料をもとに学習する。(30分)
	授業内容	市場原理のジャーナリズム 利益追求型ビジネス、ニュースという「商品」資本、M&A、経営から見たジャーナリズム、日米新聞経営の比較。
	事後学習	市場原理のジャーナリズムの問題点について、理解する。(30分)
10	事前学習	メディア・コングロマリットの中の新聞社やニューステレビの位置づけを調べておく。(30分)
	授業内容	メディア・コングロマリットとジャーナリズム
	事後学習	資本の集中化、グループ経営化、その問題点について、理解する。(30分)
11	事前学習	フェアネスドクトリン(公平の原則)について、事前に調べて、授業に臨む。(30分)
	授業内容	日米テレビ・ジャーナリズムの比較 フェアネスドクトリン(公平の原則)撤廃、
	事後学習	日米テレビ・ジャーナリズムの相違点について、理解する。(30分)
12	事前学習	市場原理のジャーナリズムについて、レポート提出。(30分)
	授業内容	市場原理のジャーナリズムについて、討議。
	事後学習	討議で得られた様々な視点を整理する。(30分)
13	事前学習	パブリック・リレーションズ(PR)について、広告との相違点等、基本的に理解しておく。(30分)
	授業内容	ニュース報道とパブリック・リレーションズ(PR) —60年代ラルフ・ネーダー、レイチェル・カーンらによる消費者運動や企業告発について
	事後学習	パブリック・リレーションズ(PR)の役割について(30分)
14	事前学習	非営利(NPO) 調査報道に特化した「プロパブリカ」について、事前に調べて授業に臨む。(30分)
	授業内容	Webニュースの現況と課題 新しいニュースの提供の仕方、財源の在り方。
	事後学習	デジタルジャーナリズムの特徴について、理解する。(30分)
15	事前学習	前期学習した中で、関心を持ったテーマ、全体的感想に授業で各自発表できるように準備する。(30分)
	授業内容	まとめ(前期のレビュー)と各自の発表。
	事後学習	授業で得られた知識、知見等を今後の研究活動に活かしていく。(30分)

科目名	ジャーナリズム理論演習Ⅱ	担当者	湯浅 正敏	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	リーマンショック以降の欧米ジャーナリズムの経営危機の中で、非営利組織（NPO）による新聞経営、グローバル・ジャーナリズム（国際調査報道）、データ・ジャーナリズムといった新しい潮流について重点的に学び、デジタル・ジャーナリズムの変遷と将来の方向性が理解できる授業とする。						
授業目的・到達目標	欧米ニュースメディアが経営危機の中で、いかにデジタル化やグローバル化に対応しているのかの基本的な理解と調査報道の進化について説明できることを目的とする。 DP及びCPである専門知の育成、批判的思考、高度な倫理観の体得の観点から、「デジタル化やグローバル化による調査報道の進化」についての学習を通して、これらを理解、説明できるように指導し、専門研究者及びジャーナリストやメディア関連の専門職業人を養成する。						
履修条件	特になし。						
授業方法	毎回オリエンテーション（講義）や資料（映像含む）をもとに、論点となるテーマを選んで討議型の授業スタイルを取る。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験	0%					
	平常評価	100%	レポートの提出、授業内での発表、討議等について総合的に評価する。				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	2015	ミネルヴァ書房	『インテリジェンス・ジャーナリズム』	B・コバッチ他			
	備考	使用しない					
参考書	ジェフ・ジャービス『デジタル・ジャーナリズムは、稼げるか』（東洋経済新報社） エミール・ドヴィファト『ジャーナリズムの使命』（晃洋書房）等。						
オフィスアワー	木曜日12:20から13:00 研究室9号館9402室yuasa.masatoshi@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスの授業内容を見て各自何について学びたいか、あらかじめ意見をまとめておく。（30分）
	授業内容	ガイダンスと欧米ジャーナリズムの経営危機 広告収入の激減と新興メディアに台頭
	事後学習	欧米と日本の新聞経営の違い、販売入と広告収入の違い、広告収入の激減の要因について理解する。（30分）
2	事前学習	NPO「プロパブリカ」について調べる。（30分）
	授業内容	欧米ジャーナリズム、変革の波（1）NPO調査報道に特化した「プロパブリカ」
	事後学習	Webサイトでどのようなニュースを取り上げているのか確認する。（30分）
3	事前学習	バズフィード、ハフポフ（前ハフィントンポスト）（30分）
	授業内容	欧米ジャーナリズム、変革の波（2）バズフィード、ハフポスト（前ハフィントンポスト）
	事後学習	Webサイトでどのようなニュースを取り上げているのか確認する。（30分）
4	事前学習	英高級紙ザ・ガーディアンについて調べる。（30分）
	授業内容	オープン・ジャーナリズム 英高級紙ザ・ガーディアン
	事後学習	Webサイトでどのようなニュースを取り上げているのか確認する。（30分）

5	事前学習	ウィキリークス告発サイトについて、調べる。 (30分)
	授業内容	ウィキリークス告発サイトとジャーナリズム
	事後学習	ウィキリークス告発サイトにジャーナリズムは、どのような立場を取ればよいのか意見をまとめる。 (30分)
6	事前学習	パナマ文書、パラダイス文書について、調べる。 (30分)
	授業内容	グローバル・ジャーナリズム～パナマ文書～パラダイス文書と国際調査報道～
	事後学習	グローバル・ジャーナリズムの背景、影響等について理解し、意見をまとめる。 (30分)
7	事前学習	データ・ジャーナリズムとは何かについて、調べる。 (30分)
	授業内容	データ・ジャーナリズム 読者参加型データ・ジャーナリズム。
	事後学習	データ・ジャーナリズムを理解し、データ・ヴィジュアライゼーション事例を探してみる。(30分)
8	事前学習	NYタイムスの「スノーフォール」について調べる。 (30分)
	授業内容	マルチメディア型データ・ジャーナリズム。
	事後学習	VRを活用したジャーナリズムの事例を探してみる。 (30分)
9	事前学習	国際ジャーナリズム大会2018関連資料を読んでおく。 (30分)
	授業内容	国際ジャーナリズム大会レポート (1)
	事後学習	ジャーナリズムのトレンドについて理解する。 (30分)
10	事前学習	国際ジャーナリズム大会2018関連資料を読んでおく。 (30分)
	授業内容	国際ジャーナリズム大会レポート (2)
	事後学習	ジャーナリズムのトレンドについて理解する。 (30分)
11	事前学習	ブランド・ジャーナリズム、ネイティブ広告について、調べる。 (30分)
	授業内容	ジャーナリズムと広告の融合 ブランド・ジャーナリズム、ネイティブ広告
	事後学習	Webサイトでブランド・ジャーナリズム、ネイティブ広告の事例について、確認する。 (30分)
12	事前学習	AI、ビッグ・データの用語を理解しておく。 (30分)
	授業内容	AI、ビッグ・データとジャーナリズム
	事後学習	AIを活用した記事作成ソフトについて理解し、AIと記者との分担を考える。 (30分)
13	事前学習	事前にレポート提出し、授業で発表し、それをもとに討議する。(30分)
	授業内容	次世代のジャーナリズム (1) デジタル化
	事後学習	討議で得られた様々な視点を整理する。(30分)
14	事前学習	事前にレポート提出し、授業で発表し、それをもとに討議する。 (30分)
	授業内容	次世代のジャーナリズム (2) グローバル化
	事後学習	討議で得られた様々な視点を整理する。 (30分)
15	事前学習	後期学習した中で、関心を持ったテーマ、全体的感想に授業で各自発表できるように準備する。(30分)
	授業内容	まとめ(後期のレビュー)と各自の発表。
	事後学習	授業で得られた知識、知見等を今後の研究活動に活かしていく。 (30分)

科目名	メディア理論演習 I	担当者	小林 義寛	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	近代以降のメディア環境、情報環境を前提にそれら変化と社会体の編成とに関する理論的な考察を通して、メディア社会、メディア文化に関する理論的な考察をおこなう。とくにこのIでは、メディア社会に大きく焦点をあてる。						
授業目的・到達目標	理論的なアプローチを前提に、メディア社会について考察できるようになることを目標とする。						
履修条件	I（前期）、II（後期）の両者を履修すること。						
授業方法	受講生と相談しながらテキストを選定し、講読……レジュメを作成し、議論を通して理解する形式をとる。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	平常のテキスト講読、毎回のレジュメ作成と報告、議論とそれらのまとめとしてのレポート作成による。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考	授業内容に記したように、受講生の目的にあわせて相談して決定する。					
参考書	授業時に適宜指示する。						
オフィスアワー	水曜5限、研究室にて						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認しておくこと。（30分以上）
	授業内容	ガイダンス授業 授業の目的、スケジュール、今後の計画など
	事後学習	講読すべきテキストの下調べ。（30分以上）
2	事前学習	テキスト候補をいくつか選定しておく。（30分以上）
	授業内容	テキストの決定と概要理解、参考資料などの概説
	事後学習	テキストの理解とレジュメ作成。（30分以上）
3	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。（30分以上）
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成（30分以上）
4	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。（30分以上）
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成（30分以上）

5	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
6	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
7	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
8	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
9	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
10	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
11	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
12	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
13	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
14	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
15	事前学習	全体のまとめとしての議論のポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	全体のまとめと議論。レポート作成指示。
	事後学習	レポート作成。(30分以上)
16	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ

17	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
18	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
19	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
20	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
21	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
22	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
23	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
24	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
25	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
26	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
27	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
28	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ

29	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
30	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ

科目名	メディア理論演習Ⅱ	担当者	小林 義寛	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	近代以降のメディア環境、情報環境を前提にそれら変化と社会体の編成とに関する理論的な考察を通して、メディア社会、メディア文化に関する理論的な考察をおこなう。とくにこのⅡでは、メディア文化に大きく焦点をあてる。			
授業目的・到達目標	理論的なアプローチを前提に、メディア文化について考察できるようになることを目標とする。			
履修条件	Ⅰ（前期）、Ⅱ（後期）の両者を履修すること。			
授業方法	受講生と相談しながらテキストを選定し、講読……レジュメを作成し、議論を通して理解する形式をとる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常のテキスト講読、毎回のレジュメ作成と報告、議論とそれらのまとめとしてのレポート作成による。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	授業内容に記したように、受講生の目的にあわせて相談して決定する。		
参考書	授業時に適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜5限、研究室にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておくこと。（30分以上）
	授業内容	ガイダンス授業 授業の目的、スケジュール、今後の計画など
	事後学習	講読すべきテキストの下調べ。（30分以上）
2	事前学習	テキスト候補をいくつか選定しておく。（30分以上）
	授業内容	テキストの決定と概要理解、参考資料などの概説
	事後学習	テキストの理解とレジュメ作成。（30分以上）
3	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。（30分以上）
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成（30分以上）
4	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。（30分以上）
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成（30分以上）

5	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
6	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
7	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
8	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
9	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
10	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
11	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
12	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
13	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
14	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
15	事前学習	全体のまとめとしての議論のポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	全体のまとめと議論。レポート作成指示。
	事後学習	レポート作成。(30分以上)
16	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ

17	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
18	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
19	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
20	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
21	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
22	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
23	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
24	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
25	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
26	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
27	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
28	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ

29	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ
30	事前学習	あ
	授業内容	あ
	事後学習	あ

科目名	ジャーナリズム調査演習 I	担当者	佐幸 信介	期間	前期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	「調査」の方法論や認識論の基礎を学ぶ。①社会科学の方法論的基礎をワークショップ形式で行う。②統計データの収集と分析をワークショップ形式で行う			
授業目的・到達目標	メディア調査、社会調査に関する「質的調査」の基礎と方法論を学ぶことをとおして、実証研究の意義と意味、有効性を習得することを目的とする。特に世論調査など既存のデータを読み解き、説明できることを目標とする。			
履修条件	資料の分析とその報告および議論を行うため、毎回の出席を必須とする			
授業方法	講義とディスカッション、資料分析とディスカッションの2軸で講義を組み立てる			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	授業参加度、課題の提出で総合的に評価	
	平常評価	100%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		
参考書	講義で適宜紹介する			
オフィスアワー	水曜3限（13：00～14：30）研究室にて			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認してくること(30分)
	授業内容	ガイダンス（講義計画と統計データを分析する試み）
	事後学習	講義計画の概要を再確認すること（1時間）
2	事前学習	前回の授業で提示した課題を準備する（1時間）
	授業内容	見えないものを見る方法：概念とは？
	事後学習	講義の内容を確認して、質問事項などまとめておくこと（1時間）
3	事前学習	前回の授業で提示した課題を準備する（1時間）
	授業内容	実証研究とはどのようなものなのか？（帰納と演繹の経験科学）
	事後学習	講義の内容を確認して、質問事項などまとめておくこと（1時間）
4	事前学習	前回の授業で提示した課題を準備する（1時間）
	授業内容	論理と没論理性（関係をとらえる方法）
	事後学習	講義の内容を確認して、質問事項などまとめておくこと（1時間）

5	事前学習	前回の授業で提示した課題を準備する (1時間)
	授業内容	研究対象と方法の問題
	事後学習	講義の内容を確認して、質問事項などまとめておくこと (1時間)
6	事前学習	前回の授業で提示した課題を準備する (1時間)
	授業内容	資料・統計の収集① 「戦後社会の統計と社会の姿」
	事後学習	講義の内容を確認して、質問事項などまとめておくこと (1時間)
7	事前学習	前回の授業で提示した課題を準備する (1時間)
	授業内容	資料・統計の分析① 「戦後社会の統計と社会の姿」
	事後学習	分析した内容が十分か、ブラッシュアップしておくこと (1時間)
8	事前学習	プレゼンテーション資料を準備する (3時間)
	授業内容	資料・統計に基づくプレゼンテーション① 「戦後社会の統計と社会の姿」
	事後学習	プレゼンテーションに対するコメントをふまえ、不十分なところを補っておくこと (1時間)
9	事前学習	前回の授業で提示した課題を準備する (1時間)
	授業内容	資料・統計の収集② 「戦後メディアの統計と生活」
	事後学習	講義の内容を確認して、質問事項などまとめておくこと (1時間)
10	事前学習	前回の授業で提示した課題を準備する (1時間)
	授業内容	資料・統計の分析② 「戦後メディアの統計と生活」
	事後学習	分析した内容が十分か、ブラッシュアップしておくこと (1時間)
11	事前学習	プレゼンテーション資料を準備する (3時間)
	授業内容	資料・統計に基づくプレゼンテーション② 「戦後メディアの統計と社会の姿」
	事後学習	プレゼンテーションに対するコメントをふまえ、不十分なところを補っておくこと (1時間)
12	事前学習	前回の授業で提示した課題を準備する (1時間)
	授業内容	資料・統計の収集③ 「メディア表象作品と社会」
	事後学習	講義の内容を確認して、質問事項などまとめておくこと (1時間)
13	事前学習	前回の授業で提示した課題を準備する (1時間)
	授業内容	資料・統計の分析③ 「メディア表象作品と社会」
	事後学習	分析した内容が十分か、ブラッシュアップしておくこと (1時間)
14	事前学習	プレゼンテーション資料を準備する (3時間)
	授業内容	資料・統計に基づくプレゼンテーション③ 「メディア表象作品と社会」
	事後学習	プレゼンテーションに対するコメントをふまえ、不十分なところを補っておくこと (1時間)
15	事前学習	前期で行ったプレゼンテーション資料を整理しておくこと (1時間)
	授業内容	前期のまとめ (プレゼンテーションの見直し)
	事後学習	講義内でのコメントを確認しておくこと (1時間)

科目名	ジャーナリズム調査演習Ⅱ	担当者	佐幸 信介	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズム調査演習Ⅰと同様に、「調査」の基礎と方法論を実践的に習得する。						
授業目的・到達目標	各自、メディア・テキスト分析の実際をマスターすることを目的とする。ジャーナリズム調査演習Ⅱでは、実際に調査計画を立てて、調査を実践的にプレゼンテーションできることを目標とする。						
履修条件	実践的な作業を行うため、作業と出席することを必須とする。						
授業方法	講義とディスカッション、資料・映像分析とディスカッションを基本とする						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験	0%	授業参加度と課題提出によって総合的に評価				
	平常評価	100%					
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	備考	特になし					
参考書	適宜、講義の中で提示する。参考書は量的にも多くなる予定。						
オフィスアワー	水曜3限（13：00～14：30）研究室にて						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスの確認をしてもらうこと(30分)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	講義計画を確認する(30分)
2	事前学習	各自、分析したいテーマを選んでくる（1時間）
	授業内容	テーマ・分析資料・テキストを設定する
	事後学習	選んだ対象が、分析に資するのかわ確認する(1時間)
3	事前学習	調査・分析計画案を用意する(1時間)
	授業内容	調査・分析計画を立てる
	事後学習	調査・分析計画をより綿密にする(2時間)
4	事前学習	計画をわかりやすく整理してくる(1時間)
	授業内容	プレゼンテーション① 「調査・分析計画」の発表
	事後学習	プレゼンに対するコメントを確認しておく(1時間)

5	事前学習	先行研究や知見を各自準備(3時間)
	授業内容	先行研究や資料の収集の相互確認
	事後学習	資料収集で不十分なところを補う(1時間)
6	事前学習	調査・分析計画案を準備(2時間)
	授業内容	調査・分析計画を再立案する。A、Bの2つの案を立てる。Aは映像を中心としたもの、Bはフィールドを中心としたもの。
	事後学習	再立案した計画を補強する(1時間)
7	事前学習	計画にもとづいた実査の準備(3時間)
	授業内容	調査・分析A①
	事後学習	実査の結果をまとめる(2時間)
8	事前学習	計画にもとづいた実査の準備(1時間)
	授業内容	調査・分析A②
	事後学習	実査の結果をまとめる(2時間)
9	事前学習	計画にもとづいた実査の準備(1時間)
	授業内容	調査・分析A③
	事後学習	実査の結果をまとめる(1時間)
10	事前学習	プレゼンの準備(3時間)
	授業内容	調査・分析Aのプレゼンテーション
	事後学習	プレゼンに対するコメントの確認(1時間)
11	事前学習	計画にもとづいた実査の準備(1時間)
	授業内容	調査・分析B①
	事後学習	実査の結果をまとめる(1時間)
12	事前学習	計画にもとづいた実査の準備(1時間)
	授業内容	調査・分析B②
	事後学習	実査の結果をまとめる(1時間)
13	事前学習	計画にもとづいた実査の準備(1時間)
	授業内容	調査・分析B③
	事後学習	実査の結果をまとめる(1時間)
14	事前学習	プレゼンの準備(3時間)
	授業内容	調査・分析Bのプレゼンテーション
	事後学習	プレゼンに対するコメントの確認(1時間)
15	事前学習	各自プレゼン内容を整理しなおす(2時間)
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	調査の実際をマスターできたか、自己評価する(1時間)

科目名	ジャーナリズム調査演習Ⅲ	担当者	高橋 俊一	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	大手新聞2社でいずれも社会部記者をつとめた講師キャリアを生かした「実戦的な内容」にする。メディア世界最前線の実態に基づく知識の習得を図り、ジャーナリストが取材現場で実際に何をしているのかを考察する。あわせてジャーナリストティックな実戦的センスを磨き、個々人の研究や進路編成に役立てる。留学生も歓迎する。						
授業目的・到達目標	当局発表や統計調査とはまったく異なる、記者自らが隠れた事実を調べあげて、自らの責任で報道する「調査報道」の真実と実態を受講生が理解することを目標とする。「記者に何が必要か」「ジャーナリズムの責任」を学び、現代マスコミの問題も見きわめることをめざす。報道への基本知識と新聞、テレビ、ネットの情報を読み解く力をつける。実際の調査報道手法を学びながら、社会の動きに対する感性を少しずつ磨いていき、報道の第一線へ進みたい人が力をつけ、学究・研究生活を続ける院生にも貴重な参考資料を得られるようにすることをめざす。						
履修条件	とくにない。ニュースや社会に普通の関心を持っていればいい。留学生も日本のメディアに関心があれば十分。						
授業方法	講義とフィールドワーク、ディスカッション、必要に応じて各紙、各メディアの比較分析も組み合わせる。朝日新聞社などへの見学会も適時、検討する。フィードバックは適時行い、後半の「まとめ」講義において特に配慮する。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験	0%	学科内試験で定期試験にかえる。				
	平常評価	100%	50%：筆記試験またはレポート（基礎知識の習得度を中心に） 50%：取り組み方や意欲といった授業参加度やニュースへの感受性を評価する。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考	なし					
参考書	適時指定する。						
オフィスアワー	授業時間とその前後に授業講堂にて適時実施する。						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	自分自身とニュースとの関係、自分にとってのニュースとは何かをそれぞれの立場で確かめる。(30分)
	授業内容	ガイダンス。今後の授業展開やニュースとのかかわりを再確認する。
	事後学習	ガイダンス内容を確認し、各自研究テーマとの関連を確認する。(30分)
2	事前学習	幅広いニュースの摂取に努める。(30分)
	授業内容	報道とメディアの意義について、ニュース現場の実状を考察する。
	事後学習	メディアの実像についてそれぞれに考えめぐらす。(30分)
3	事前学習	新聞の精読をできる範囲で。最新ニュースへの関心を徐々に高める。(30分)
	授業内容	新聞および新聞報道の特質を考え、確認する。
	事後学習	新聞やテレビ、ネットニュースの比較検討を分野ごとに行う。(30分)
4	事前学習	新聞の精読にプラスして、テレビニュースの聴取をできる範囲で。(30分)
	授業内容	報道事例について研究を開始する。
	事後学習	授業内容の再確認を現実には流れるニュースと照らし合わせて行う。(30分)

5	事前学習	新聞の精読をできる範囲で進め、とくに一面記事への理解を深める。(30分)
	授業内容	報道事例について研究を進め、ニュース内容の過不足を考察する。
	事後学習	授業内容の再確認とともに関連情報の摂取を最新の新聞紙面やニュース番組から進める。(30分)
6	事前学習	事件報道を中心にニュースの摂取をできる範囲で行い、まとめる。(30分)
	授業内容	報道と人権について考察し、多様な考え方を知る。
	事後学習	事例ごとの批判に配慮しながら、ニュースへの理解を深める。(30分)
7	事前学習	国際ニュースの特質を事例をあげて考えておく。(30分)
	授業内容	国際ニュースを中心に事例の研究と賛否を考察する。
	事後学習	授業内容を意識しながら日米中を中心に重要ニュースを精読する。(30分)
8	事前学習	政治ニュースをできるだけ読み込む。(30分)
	授業内容	調査報道の概要と基本知識を概括的に検討する。
	事後学習	文献などから調査報道事例を探し、授業内容を再確認する。(30分)
9	事前学習	経済ニュースを重点に精読・摂取し、よく出る経済用語をしっかりと理解する。(30分)
	授業内容	ニュースの社会的影響力とその分析ノウハウを検討する。
	事後学習	新聞やテレビニュースの取材確度を事例ごとに確認する。(30分)
10	事前学習	新聞やテレビのニュースについて幅広く摂取し、それぞれの問題点を考える。(30分)
	授業内容	報道に自由や「知る権利」について事例を挙げて、ポイントをまとめつつ教訓を再確認する。
	事後学習	ニュースに登場する実名と匿名の書き分け事例を確かめる。(30分)
11	事前学習	最新ニュースの幅広い摂取を進め、これまでの講義内容に基づいて考察する。(30分)
	授業内容	実践的研究：一般雑報と調査報道および調査原稿について
	事後学習	ニュース原稿の力量と伝達力を事例ごとに確かめる。(30分)
12	事前学習	新聞やテレビニュースの摂取とニュース事例ごとの検討考察を進める。(30分)
	授業内容	時事問題のデータ収集とその整理方法について検討し、合理的な取材例を確認する。
	事後学習	最新ニュースと照らし合わせて、授業内容を確かめる。(30分)
13	事前学習	最新ニュースから調査報道やそれに近い事例があれば抽出する。(30分)
	授業内容	時事問題のテーマ設定と紙面研究を進展させる。
	事後学習	研究可能な最適事例を選び、検討可能かをさぐる。(30分)
14	事前学習	情報公開の基本的法制度に関する知識をできる範囲で集める。(30分)
	授業内容	情報公開制度について検討し、事例研究を進める。
	事後学習	過去の情報公開から、制度の活用と改善の必要性を考える。(30分)
15	事前学習	授業内容全般の再確認する。(30分)
	授業内容	総まとめとフィードバックを重点に話し合い、授業後半で調査報道の今日的意義を再確認する。
	事後学習	調査報道的手法を現実のニュースにどう取り入れるべきかを検討する。(30分)

科目名	メディア調査演習 I	担当者	島崎 哲彦	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	マス・コミュニケーションの実証研究にとっては、調査は重要な研究方法である。本授業では、定量調査を中心に調査全体の概要と調査の設計・実施・結果の分析の要点を講義し、集計等についてはコンピュータを用いて演習を行い、特に修士論文の研究のための調査・実験に必要な知識・能力を養成することを目的とする。			
授業目的・到達目標	マス・メディアが公表する世論調査等の結果を的確に読み取る能力を習得すること、修士論文に用いる調査・実験を自ら設計・実施・結果を分析する能力を習得することを目標とする。			
履修条件	前期+後期でカリキュラム全体を網羅するので、学生は両学期とも履修すること。			
授業方法	講義と一部演習を行う。各自の個別研究内容についても、相談にのる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業参加度について50%、授業内容の理解について50%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	学文社	『社会調査の実際-統計調査の方法とデータの分析-』第12版	島崎哲彦・大竹延幸
	備考			
参考書	授業内で必要に応じて提示する。			
オフィスアワー	学生の相談等には、授業を行う教室で受け付け、当日ないしは次回授業前14:00-14:30に教室で回答する。事前に、下記のアドレスのメールで予約すること。 akihikos@xui.biglobe.ne.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	教科書の「第1章社会調査とは」を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	社会調査とは 社会調査の定義、効用と限界
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
2	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	調査倫理、調査の種類 個人情報の保護、定量調査と定性調査、悉皆調査と標本調査等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
3	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	定量調査の一般的手順と調査の設計 手順の概略と要点
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
4	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	定量調査の設計 調査対象、調査方法、調査地域、調査実施期間等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)

5	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	事実探索と仮説検証 調査票設計におけるアプローチの差異と得られる結果の差異
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
6	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	仮説から質問項目へ 仮説の構築→作業仮説→調査項目
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
7	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	標本抽出と推計 母集団と標本、確率比例抽出法、等確率抽出法、割り当て抽出法等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
8	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	標本誤差 標本誤差の計算、信頼度、標本誤差に基づく標本数の設計、母集団の傾向の推計等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
9	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	調査票の設計 尺度構成、回答形式等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
10	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	調査の実施 調査実施にあたっての留意点、回収率と推計、インスペクション等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
11	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	集計 集計計画、コーディング、データチェック、単純集計、クロス集計等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
12	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	代表値 平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
13	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	相関関係 積率相関係数、順位相関係数等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
14	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	検定 検定の考え方、t検定、 $\chi^2$ 検定等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
15	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	報告書の作成 調査実施要領、調査結果のまとめ、調査結果のファインディング、グラフ化等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、この回の授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)

科目名	メディア調査演習Ⅱ	担当者	島崎 哲彦	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	マス・コミュニケーションの実証研究にとっては、調査・実験は重要な研究方法である。本授業では、マス・コミュニケーション研究の視座に基づく統制者分析、メディア分析、受け手分析、効果分析についての実証的研究方法を講義し、各自の研究に用いる調査・実験の設計に必要な知識・能力を養成することを目的とする。			
授業目的・到達目標	マス・メディアが公表する世論調査等の結果を的確に読み取る能力を習得すること、修士論文に用いる調査・実験を自ら設計・実施・結果を分析する能力を習得することを目標とする。			
履修条件	前期+後期でカリキュラム全体を網羅するので、学生は両学期とも履修すること。			
授業方法	講義とともに、学生各自による研究課題に用いる調査・実験の設計の相談にのり、指導を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業参加度について50%、各自の調査・実験計画書の進展と完成度について50%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2007	学文社	『マス・コミュニケーション調査の手法と実際』	島崎哲彦・坂巻善生編
	備考			
参考書	各自の研究課題に応じて提示する。			
オフィスアワー	学生の相談等には、授業を行う教室で受け付け、当日ないしは次回授業前14:00-14:30に教室で回答する。事前に、下記のアドレスのメールで予約すること。 akihikos@xui.biglobe.ne.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	教科書の「第2章マス・コミュニケーション研究と調査の諸相」を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	帰納法・演繹法と調査・実験
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
2	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	マス・コミュニケーションの視座と研究方法(1) 誰が、何について、いかなる通路を通じて、誰に対して、いかなる効果を狙って
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
3	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	マス・コミュニケーションの視座と研究方法(2) 統制者分析、内容分析、メディア分析、受け手分析、効果分析
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
4	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	統制者分析 送り手調査の実際
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)

5	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	メディア分析 メディアと情報内容の特性に関する調査の実際
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
6	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	内容分析(1) 量的分析の実際
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
7	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	内容分析(2) 質的分析の実際
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
8	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	メディア分析 メディア特性と受け手特性の調査の実際
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
9	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	効果分析(1) メディア接触レベルの調査の実際
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
10	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	効果分析(2) 受け手の態度変容レベルの調査の実際
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
11	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	効果分析(3) 利用と満足調査の実際
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
12	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	学生各自による調査・実験計画書の作成と指導(1) 研究目的と調査・実験手法の選択等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
13	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	学生各自による調査・実験計画書の作成と指導(2) 調査・実験の仮説の妥当性等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
14	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	学生各自による調査・実験計画書の作成と指導(3) 仮説と調査・実験内容の整合性等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、次回授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)
15	事前学習	教科書の授業該当部分を事前に読んでおくこと。(30分)
	授業内容	学生各自による調査・実験計画書の作成と指導(4) 調査・実験の具体的内容と実現性等
	事後学習	教科書の授業終了部分について再読し、理解できたかを確認すること。理解できない部分については、この回の授業終了時にわからない部分を具体的に質問すること。(30分)

科目名	メディア調査演習Ⅲ	担当者	柴田 秀一	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本講義は、放送局のインターンシップを授業で具体化するもので、テレビ番組の制作の現場等の見学や実際の放送番組を通じて、テレビ放送、とりわけ報道や情報番組の抱える問題点を明らかにするとともに、今後のテレビ放送の課題を明らかにする。						
授業目的・到達目標	テレビ制作の現場におけるさまざまな問題点を整理しながら、テレビ・メディアの問題点を探ることができる人材養成を目的とする。マス・メディアへの就職や研究者等を目指す受講者へ、テレビ・ラジオ等放送業の基本的な構造と問題点並びに広く社会環境やメディアに影響を与えている関連法制や関連政策などに関する知識の蓄積や能力の育成を通し、批判思考力や倫理観を涵養することを目標とする。						
履修条件	一年次生対象						
授業方法	講義と受講生との議論、レポート発表、放送局見学を通して放送の実際を知る。番組制作等の担当者や管理者をゲストとして呼び、質疑応答、議論を深め、受講生は自ら放送を目指す番組企画書の発表をする。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	授業態度、授業内レポート提出、番組企画書の発表などを総合して評価する。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考	特になし					
参考書	必要に応じて適宜指示する。						
オフィスアワー	月曜～木曜日の13:00～18:00 授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	ニュース・情報・ドラマスポーツ・バラエティー等様々なテレビ番組を見ておく。(2時間) どんな番組に興味を持ち、どんなテレビ番組が放送されたら見たいと思うか、あらかじめ考えておく。
	授業内容	オリエンテーション 番組企画書の説明及び発表日程の指示
	事後学習	番組企画書の詩が書きを書いてみる。(2時間)
2	事前学習	「ビデオリサーチ社」のホームページにアクセスして、視聴率について調べておく。(2時間)
	授業内容	テレビの抱える問題①：視聴率 視聴率とは、調査方法、調査会社、視聴率日報、番組制作と視聴率と営業・CM 何故1%にこだわるか
	事後学習	「ビデオリサーチ社」のホームページでタイムシフト視聴の具体的な数字を見てみる。各放送局のホームページを見比べてみる。(2時間)
3	事前学習	テレビCMを見る。どんな番組にどんなCM流れているか。どの時間帯にどんな商品・企業のCMが流れているか比較してみる。(2時間)
	授業内容	テレビの抱える問題②：収入と支出、CMと営業 時間を売るとは何か。
	事後学習	スポンサーと番組との組み合わせについて考えてみる。(2時間)
4	事前学習	各局のホームページから、番組表を見る。一週間の時間帯別の番組表で生活時間と番組の関係を考える。(2時間)
	授業内容	テレビ番組の制作①：編成とは何か・ ニュース・情報番組・バラエティー番組・スポーツ番組等について
	事後学習	自分の興味のある番組は、どんな時間帯にどういう形で放送されているか知る。また、何故そうなっているかを考える。(2時間)

5	事前学習	興味のある番組の構成を考える。喋り中心か、それともビデオ構成か、生放送か、録画か。何故そうなっているか考える。(2時間)
	授業内容	テレビ番組の制作②：企画と企画書制作 番組制作の端緒は何か
	事後学習	自分が良く見る番組は何故面白いのか考える。番組構成は、出演者は、スタジオセットは。番組を通して何が求められているか。(2時間)
6	事前学習	定時ニュースを何日か続けてみておく。「ストレートニュース」と言われる情報番組内、あるいは独立枠でコメント等をさしはさまない形式でそれまで起きたニュースを何項目か続けて放送するものだが、その項目構成を見ておく。(2時間)
	授業内容	テレビ番組の制作③：ニュース番組が出来るまで ニュースは何処から情報を取りどのように放送するか。
	事後学習	各放送局の昼、夕方のニュースを見比べてみて、同じニュースも項目順が違っていたり、会見やインタビュー、「ぶら下がり」と呼ばれる議員や著名人の政務、仕事の合間に立ち話形式の質疑応答も使われる場所が変わったりすることを知る。(2時間)
7	事前学習	各放送局のニュースサイト(ホームページからアクセス)で原稿内容と映像内容を比較してみる。どんな違いがあるか。(2時間)
	授業内容	テレビ番組の制作④：ニュース取材の手法 実例に基づく取材手法
	事後学習	取材で注意すべきことは何か、取材は何の菜目にするか、もう一度まとめてみる。(2時間)
8	事前学習	メディアスクラムとは何か。どんな例があったか調べてみる。(2時間)
	授業内容	テレビの抱える問題③：報道倫理 名誉毀損、メディアスクラムは何故おこるか
	事後学習	世の中の関心事にメディアスクラムは起こるが、そうならない為には何が必要かここに考えてみる。(2時間)
9	事前学習	BPOについて調べておく(2時間)
	授業内容	テレビの抱える問題④：BPOと放送倫理 放送されることが増えたBPOとは何か
	事後学習	テレビ番組を見て、その番組に倫理的問題点があるとすれば何か考える。(2時間)
10	事前学習	テレビ番組の作られ方放送のされ方について調べてみる。(2時間)
	授業内容	テレビ番組の制作⑤：TV局現場の見学
	事後学習	見学結果を踏まえて、入ったスタジオでの放送番組をテレビ番組として見てみる。(2時間)
11	事前学習	放送収入と放送外収入について調べる。(2時間)
	授業内容	テレビ局の放送外事業とWeb、携帯電話やインターネット事業等、 Webとテレビの関係(放送マーケティングの現場)
	事後学習	実際に放送局が開催しているイベントに行ってみる。(2時間)
12	事前学習	NHKの組織と収入源を調べる。(2時間)
	授業内容	NHKと民間放送 受信料の徴収とCM料収入の資金調達手法の違いとそれぞれが抱える問題。
	事後学習	改めて民間放送とNHKの収入について手法の違いと求められる事を考えてみる。(2時間)
13	事前学習	AbemaTV、NETFLIX、Paravi、GYAO などの番組ラインナップや番組を見てみる。(2時間)
	授業内容	ペイテレビ、動画配信事業とテレビ、テレビのニュービジネス
	事後学習	同一会社が有料放送と地上デジタル無料放送をしている二面性について考えてみる。(2時間)
14	事前学習	これまで、研究してきたテレビの内情と自らの興味から、新しい番組について企画書を書く。(2時間)
	授業内容	テレビ番組の企画②：報告とディスカッション 課題の企画書発表 今伝えるべきレポートとパフォーマンス
	事後学習	発表について、評価や注意を受けた部分を手直し(2時間)
15	事前学習	これまでの講座でのやり取りを振り返る。(2時間)
	授業内容	まとめと質疑応答
	事後学習	自分の企画書と放送されている実際の番組とを比べてみる。(2時間)

科目名	専門演習(研究指導)	担当者	岩井 奉信	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	日本の政治とメディアについて実証的な方法を用いて、専門的な研究を進めていく。修士論文を書いていくために必要な基本知識を確認し、テーマの設定、方法論の習得、先行研究のレビュー、データの収集や整理、分析、論文の構成などについて、受講生との相互のやりとりをしながら指導する。			
授業目的・到達目標	日本の政治とメディアについて実証的に学ぶことを通じて、研究を行うために必要な考え方やツールを修得することを目的とする。特に実証研究に不可欠なさまざまな手法や方法論を身につけることにも重点を置く。			
履修条件	日本の政治とメディアについて強い関心を持っている者で日本政治に関する一定の知識を有しており、実証分析を行って修士論文を書こうとする者の履修を希望する。			
授業方法	マンツーマンの個別指導で行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参考書	特に指定しない			
オフィスアワー	月曜及び金曜昼休み、研究室にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	現代日本政治に関する基礎的な知識を身につけ、修士論文に向けた問題意識を持つておくこと。
	授業内容	ガイダンスと研究打ち合わせ
	事後学習	修士論文作成に向けた問題意識を明確にしておくこと。
2～4	事前学習	修士論文で何を書くのかについて、目的を明確にしておくこと。
	授業内容	研究テーマ発見のためのリサーチ
	事後学習	修士論文作成に向けて、どのような作業が必要なのかを確認しておくこと。
5～12	事前学習	修士論文で何を書くのかについて、目的を明確にしておくこと。
	授業内容	研究テーマに関する先行研究のリサーチ
	事後学習	修士論文作成に必要な文献や資料の収集を精力的に行うこと。
13～20	事前学習	修士論文でどのようなデータを利用するかを明らかにすること。
	授業内容	研究テーマに関するデータ収集
	事後学習	修士論文作成に必要なデータを収集し、データ分析などを積極的に行うこと。

21～30	事前学習	修士論文作成に向けて、どのような実証的な方法を採用するかを考えておくこと。
	授業内容	研究方法論に関するリサーチ
	事後学習	さまざまな実証的方法について、理解しておくこと。
31～34	事前学習	修士論文でどのようなデータを利用するかを明らかにすること。
	授業内容	研究データに関するリサーチ
	事後学習	修士論文作成に必要なデータを収集し、データ分析などを積極的に行うこと。
35～41	事前学習	データ分析方法について自ら学んでおくこと。
	授業内容	データの分析
	事後学習	修士論文作成に必要なデータを収集し、データ分析などを積極的に行うこと。
42～45	事前学習	修士論文作成に必要なデータ分析などを積極的に行うこと。
	授業内容	分析結果の検討
	事後学習	データの妥当性や合理性について、常に見直しを行っておくこと。
46～54	事前学習	修士論文の構成やスケルトンを自ら作成し、論理展開の妥当性を考えておくこと。
	授業内容	修士論文の構成に関する指導
	事後学習	指導にもとづき、修士論文の構成やスケルトンの見直しを行うこと。
55～58	事前学習	修士論文を自ら執筆し、内容や論理の妥当性を推敲すること。
	授業内容	修士論文内容の検討
	事後学習	指導にもとづき、論文内容の推敲や書き直しを行うこと。
59～60	事前学習	論文概要を作成し、簡潔に説明できるように練習すること。
	授業内容	修士論文の仕上げ
	事後学習	指導にもとづき、論文の最終的な完成を目指すこと。

科目名	専門演習(研究指導)	担当者	大井 眞二	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	学位論文作成のために求められる、研究へのアプローチ、テーマ設定、先行研究の批判的レビュー、論文構成、などの重要な手続や方法を学ぶ			
授業目的・到達目標	第1に、アプローチ、テーマ設定、先行研究の批判的レビュー、論文構成、などの重要な手続や方法を指導すること、第2に、テーマに関わる資料の収集だけでなく、資料の批判、文献の読み込み方、関連する諸理論の整理を初めとする、さまざまな事項に関して指導することを目的とする。			
履修条件	ジャーナリズム史特殊研究・メディア史特殊研究の履修			
授業方法	具体的な研究テーマを掘り下げる学位論文作成のため、きめ細かな個別指導を中心とする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	課題発表(50%) 課題レポート(50%)	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		
参考書	各授業の折に適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜日の午後1時半から2時半 あらかじめメールで用件の概要を伝えアポをとること。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスの熟読
	授業内容	授業上の諸注意、授業概要、文献紹介
	事後学習	リアクションペーパーの作成
2～4	事前学習	課題図書(1)の批判的レビュー
	授業内容	研究の手続き
	事後学習	リアクションペーパーの作成
5～12	事前学習	課題図書(2)の批判的レビュー
	授業内容	研究の手続き リサーチフロンティア
	事後学習	リアクションペーパーの作成
13～20	事前学習	テーマ報告の事前準備
	授業内容	論文テーマ報告と個別指導 メディアと社会の理論 メディア中心のアプローチ
	事後学習	リアクションペーパーの作成

21～30	事前学習	課題図書(3)の批判的レビュー
	授業内容	社会中心的アプローチ
	事後学習	リアクションペーパーの作成
31～34	事前学習	課題図書(4)の批判的レビュー
	授業内容	メディアと社会の統合的アプローチ リサーチフロンティア
	事後学習	リアクションペーパーの作成
35～41	事前学習	論文構成報告の事前準備
	授業内容	論文構成報告と個別指導 研究方法論
	事後学習	リアクションペーパーの作成
42～45	事前学習	課題図書(5)の批判的レビュー
	授業内容	研究方法論
	事後学習	リアクションペーパーの作成
46～54	事前学習	論文構成報告(1)と参考文献チェック
	授業内容	研究方法論
	事後学習	リアクションペーパーの作成
55～58	事前学習	論文構成報告(2)と史資料チェック
	授業内容	研究発表と討論
	事後学習	リアクションペーパーの作成
59～60	事前学習	論文ドラフトチェック
	授業内容	研究発表と個別指導
	事後学習	論文最終修正

科目名	専門演習(研究指導)	担当者	小林 義寛	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	学位論文作成のため、アプローチ、テーマ設定、先行研究のレビュー、論文構成、などの重要な手続や方法を指導する。その際、テーマに関わる資料の収集はもとより、資料・文献の読み込み方、関連する先行研究の整理など、具体的に学術論文を作成する手続や技法を指導する。			
授業目的・到達目標	論文作成の諸過程において、研究の進捗状況に関する報告を義務づけ、過程に応じた指導を行う。その結果として、修士論文を完成すること（社会科学における修士論文は感想文ではないことが前提である）。			
履修条件	社会学、文化理論、メディア理論の基礎知識を修得済みの者。			
授業方法	講義と演習を併用した形式で行う。履修者の学問関心を優先し、当該関心を社会科学における論文とする方途を指示する。科学性と論理性を常に問う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平生の発表内容と最終論文の成果内容	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	とくにない。		
参考書	適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜5限、研究室にて			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	研究テーマを明確にしておく。
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	年間スケジュールのなかで、研究の進行過程を位置づける。
2～4	事前学習	研究テーマ、問題意識、方法を確認する。
	授業内容	研究の目的の設定 方法論の検討 先行研究の検討
	事後学習	研究テーマに即して方法論の検討、先行研究の探索をおこなう。
5～12	事前学習	問題意識を明確にしておく。
	授業内容	仮説ないしは問題意識の再確認 研究テーマの決定 論文概要の中間報告 1
	事後学習	中間報告での問題点、不足点などを確認し、修正や深化へむけて展開する。
13～20	事前学習	研究テーマ、方法論、章立てなどを明確にする。
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。

21～30	事前学習	現状の到達点を整理しておく。
	授業内容	論文指導 中間報告 2
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。
31～34	事前学習	章立てに合わせた展開を整理する。
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。
35～41	事前学習	章立てに合わせた展開を整理する。
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。
42～45	事前学習	章立てに合わせた展開を整理する。
	授業内容	論文指導 中間報告 3
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。
46～54	事前学習	具体的な執筆上の問題点の整理。
	授業内容	論文指導
	事後学習	執筆。
55～58	事前学習	具体的な執筆上の問題点の整理。
	授業内容	論文指導
	事後学習	執筆。
59～60	事前学習	具体的な執筆上の問題点の整理。
	授業内容	論文指導 論文の完成、報告
	事後学習	口頭試問へむけての準備。

科目名	専門演習(研究指導)	担当者	塚本 晴二郎	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	研究テーマに関わる資料の収集はもとより、資料・文献の読み込み方、関連する先行研究の整理など、具体的に学術論文を作成する手続や技法を指導する。また論文作成の諸過程において、研究の進捗状況に関する報告を義務づけ、過程に応じた指導を行い修士論文の完成につなげる。			
授業目的・到達目標	新聞学における理論、制度、歴史研究の基幹研究部門の専門知だけでなく、広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策などに関する知識を習得することを目的とする。 2年間の知識の蓄積や能力の育成を通して、批判的な思考力に基づく問題の分析能力や解決能力だけでなく、高度な倫理観を育んだことを例証することを目指す。			
履修条件	ジャーナリズムの規範理論を自らの専門領域にしようと思ふ者のみに履修してもらいたい。			
授業方法	修士論文を作成する。教員の指導、受講者の発表、両方で協力しての修士論文の作成といった手順で、進めていく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	修士論文の完成度100%。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		
参考書	適宜指示する。			
オフィスアワー	原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。 研究室(9号館1階 9101研究室) メールアドレス tsukamoto.seihiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	自身の研究計画を明確に説明できるようにする。(30分)
	授業内容	修士論文完成までのスケジュールを説明するとともに、受講者の研究計画を確認する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(30分)
2~4	事前学習	質問事項の整理、および先行研究と方法論の確認をしておく。(各30分)
	授業内容	研究目的の設定し、方法論の検討と先行研究の検討を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各30分)
5~12	事前学習	前回までの講義を踏まえ、研究計画を修正しておく。(各30分)
	授業内容	仮説ないしは問題意識の再確認し、研究テーマの決定した後に、論文概要の中間報告を行い、講評する。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各30分)
13~20	事前学習	必要な先行研究に関するレビューを完了しておく。(各30分)
	授業内容	論文指導として、先行研究の読み方の指導と仮説の検討を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各30分)

21～30	事前学習	仮説に至る過程を中心に、報告の準備をしておく。(各30分)
	授業内容	論文指導として仮説の書き方と設定の仕方を指導した後、2回目の中間報告を行い、講評する。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各30分)
31～34	事前学習	方法論に関する報告の準備をしておく。(各30分)
	授業内容	論文指導として方法論の解説と検討を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各30分)
35～41	事前学習	必要な資料・データ等をすべてそろえ、内容を理解しておく。(各30分)
	授業内容	論文指導として分析方法の解説及び考察を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各30分)
42～45	事前学習	一通り研究をすすめ、報告の準備をしておく。(各30分)
	授業内容	3回目の中間報告を行い、講評する。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各30分)
46～54	事前学習	分析等すべての研究過程を終えて、一先ず最終的な報告ができる状態にする。(各30分)
	授業内容	論文指導として分析結果の検討及び分析結果の修正を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各30分)
55～58	事前学習	論文を書き上げ、内容のチェックを受けられる状態にしておく。(各30分)
	授業内容	論文指導として分析結果の修正及び論文の表記方法の確認と指導を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各30分)
59～60	事前学習	修正を完了し、論文を完成させておく。(各30分)
	授業内容	論文指導の総括として、完成した論文の研究発表と講評を行う。
	事後学習	指摘された点を修正する。論文を完成させる。(各30分)

科目名	専門演習(研究指導)	担当者	福田 充	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	修士論文を含めたさまざまな論文作成のためのアプローチを学ぶために、研究計画に沿って、テーマ設定、先行研究のレビュー、仮説の構築、調査の実施、データ分析等、論文が完成するまでの一連の作業について指導する。とくにメディアの社会的効果、影響に関する実証研究に焦点をあてる。研究における作業工程表を作成し、定期的に研究成果の中間報告を行いながら、論文完成までの工程を自主管理する能力の構築を目指す。			
授業目的・到達目標	【授業目的】 修士論文を執筆するために必要なあらゆる能力を身につけることを目的とする。研究テーマを設定し、先行研究のレビュー、仮説の構築、調査の実施、データ分析等、論文が完成させるために必要な能力を身につけることを目的とする。 【到達目標】 修士論文を執筆するために必要な問題発見力、仮説構築力、仮説検証力、政策提言力などの研究上の能力を身につけることを目標とする。			
履修条件	大学院新聞学研究科の大学院生であること。			
授業方法	講義形式を中心に、参加者による研究報告、共同討議を交えながら授業を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業への参加度を重視する。毎回受講生が行う研究発表を採点・評価して授業内評価を行う。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	北樹出版	『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』	福田充
	2010	慶應義塾大学出版会	『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』	福田充
	備考			
参考書	福田充(2009)『メディアとテロリズム』新潮新書。			
オフィスアワー	水曜日1限、研究室にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前読解。(120分)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	個人研究レジュメ作成。(120分)
2～4	事前学習	教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前読解。(120分)
	授業内容	個人発表・研究テーマの設定 問題意識と研究方法
	事後学習	個人研究レジュメ作成。(120分)
5～12	事前学習	教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前読解。(120分)
	授業内容	先行研究の収集と使用・レビュー 研究対象の確定
	事後学習	個人研究レジュメ作成。(120分)
13～20	事前学習	教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前読解。(120分)
	授業内容	仮説の提示 調査実施方法
	事後学習	個人研究レジュメ作成。(120分)

21～30	事前学習	教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前読解。(120分)
	授業内容	調査票の作成と実査 中間報告
	事後学習	個人研究レジュメ作成。(120分)
31～34	事前学習	教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前読解。(120分)
	授業内容	調査データの管理と編集作業 データ処理
	事後学習	調査データの分析作業を実施。(120分)
35～41	事前学習	教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前読解。(120分)
	授業内容	データ分析 分析結果の考察
	事後学習	調査データの分析作業を実施。(120分)
42～45	事前学習	教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前読解。(120分)
	授業内容	第二次中間報告 論文におけるデータの使用と解釈
	事後学習	修士論文の執筆。(120分)
46～54	事前学習	教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前読解。(120分)
	授業内容	論文の構成と目次の作成 修正報告
	事後学習	修士論文の執筆。(120分)
55～58	事前学習	教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前読解。(120分)
	授業内容	データの修正と再分析 仮説の検証結果の検討
	事後学習	修士論文の執筆。(120分)
59～60	事前学習	教科書『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』の事前読解。(120分)
	授業内容	最終報告 報告書・論文の提出
	事後学習	修士論文の執筆。(120分)

科目名	ジャーナリズム理論特殊研究(実証)	担当者	福田 充	期間	通年	単位数	2
-----	-------------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムとメディアに関する理論的研究を実施するために必要な実証研究の方法について学ぶ。とくにアンケート調査や内容分析、実験など社会調査のデータ分析を中心に、理論的かつ実証的なアプローチでジャーナリズム研究を実施する方法論を学ぶ。			
授業目的・到達目標	【授業目的】 ジャーナリズムとメディアに関する理論研究における実証研究のアプローチの手法について、社会調査の方法やデータ分析の手法に関する能力を養成することを目的とする。 【到達目標】 自力でアンケート調査やインタビュー調査を実施し、量的データの分析および質的データの分析を行い、そのデータをもとに論文を執筆する能力を身につけることを目標とする。			
履修条件	大学院新聞学研究科博士後期過程の大学院生であること。			
授業方法	課題として扱う教科書や論文を受講生が発表し、議論を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	毎回実施する研究発表を総合的に評価・採点する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	北樹出版	『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』	福田充
	2010	北樹出版	『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』	福田充編
	備考			
参考書	福田充 (2009) 『メディアとテロリズム』 (新潮新書) . 福田充 (2010) 『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』 (慶応義塾大学出版会) .			
オフィスアワー	水曜日 1 限、研究室にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	指定教科書の熟読。(120分)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
2	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの理論的研究の方法① 問題意識
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
3	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの理論的研究の方法② テーマの設定
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
4	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの理論的研究の方法③ 理論研究のアプローチ
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)

5	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの理論的研究の方法④ リサーチクエスチョン
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
6	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの理論的研究の方法⑤ 仮説構築
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
7	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の方法① アンケート調査
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
8	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の方法② ヒアリング調査
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
9	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の方法③ フィールドワーク
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
10	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の方法④ コミュニケーション実験
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
11	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の方法⑤ 内容分析
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
12	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	実証研究に必要な社会調査と調査計画
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
13	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	調査の実施とデータ処理
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
14	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	データ分析の方法① 単純集計と記述統計
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
15	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	データ分析の方法② 多変量解析：クロス分析
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
16	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	データ分析の方法③ 多変量解析：分散分析
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)

17	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	データ分析の方法④ 多変量解析：相関分析
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
18	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	データ分析の方法⑤ 多変量解析：因子分析
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
19	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	データ分析の方法⑥ 多変量解析：重回帰分析
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
20	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	実証研究の先行研究レジユメ発表① アンケート調査
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
21	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	実証研究の先行研究レジユメ発表② メタデータの分析
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
22	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	実証研究の先行研究レジユメ発表③ 内容分析
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
23	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	実証研究の先行研究レジユメ発表④ コミュニケーション実験
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
24	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	実証研究の先行研究レジユメ発表⑤ ヒアリング調査
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
25	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	実証研究の先行研究レジユメ発表⑥ フィールドワーク
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
26	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	実証研究の先行研究レジユメ発表⑦ ネットワーク分析
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
27	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	実証研究の先行研究レジユメ発表⑧ ディスコース分析
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
28	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	実証研究の先行研究レジユメ発表⑨ テキストマイニング
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)

29	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	実証研究の先行研究レジュメ発表⑩ 統計的手法
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
30	事前学習	先行研究の収集と熟読。(120分)
	授業内容	まとめと総括
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)

科目名	ジャーナリズム理論特殊研究(規範)	担当者	塚本 晴二郎	期間	通年	単位数	2
-----	-------------------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	本講義は規範理論の領域における研究を深める目的で、先行研究の方法論を体得するために、代表的なジャーナリズムの規範理論の研究ノートを作成する指導を行う。						
授業目的・到達目標	国際的な水準の研究に到達できるように、ジャーナリズムの規範理論を単なる知識ではなく、十分に理解し応用可能にすることを目的とする。 代表的なジャーナリズムの規範理論に関する先行研究を学ぶことによって、独自の視点からジャーナリズムに関する諸問題を新たに解釈し、位置づける専門的な分析能力を体得することを目標とする。						
履修条件	ジャーナリズムの規範理論を研究者としての、自らの専門領域にしようと思う者のみに履修してもらいたい。						
授業方法	三つの代表的なジャーナリズムの規範理論の研究ノートを作成する。教員の解説、受講者の発表、両方で協力しての研究ノート作成といった手順で、進めていく。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	三つの研究ノートの評価各30%、講義に臨む姿勢10%				
教科書	年	出版社	書名				著者名
	備考						
参考書	必要に応じて適宜支持する。						
オフィスアワー	原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。 研究室(9号館1階 9101研究室) メールアドレス tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	リバタリアン・ジャーナリズムに関する先行研究を可能な限り用意する。(30分)
	授業内容	リバタリアン・ジャーナリズムの先行研究を確認する。受講者の考え方を確認しながら、必要な先行研究を選んでいく。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、用意する先行研究を再検討する。(30分)
2	事前学習	用意した先行研究の内容を確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	リバタリアン・ジャーナリズムの先行研究に関して再検討し、研究ノートの参考文献とする先行研究を確定する。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、用意する先行研究を再検討する。(30分)
3	事前学習	用意した先行研究の内容を確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。先行研究を理解する上で、必要な文献があれば、そうした文献の指摘も行う。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、参考文献を用意する。(30分)
4	事前学習	参考文献の内容を確認するとともに、前回の指導にしたがって、先行研究が理解できているか確認する。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。並行して参考文献の読み方も指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、先行研究と参考文献の注意点を確認しておく。(30分)

5	事前学習	先行研究が精緻に読めたかどうかを確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	先行研究の理解の仕方を確認する。読んできた先行研究をまとめて、リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表準備の仕方を指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表準備を行う。(30分)
6	事前学習	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表の内容を確認する。(30分)
	授業内容	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表を行わせ、講評する。修正点を示し発表内容の再検討を促す。
	事後学習	指導内容を理解する。リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表内容を再検討する。(30分)
7	事前学習	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表の再検討内容を確認する。(30分)
	授業内容	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の再発表を行わせ、講評する。研究ノート作成に向けての指導を行う。
	事後学習	指導内容を理解する。リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備を行う。(30分)
8	事前学習	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備に伴う疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化を具体的に進める。目次などを確定させ、受講生が研究ノートを書き進めやすいように指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化を進める。(30分)
9	事前学習	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化の進行途中での疑問点を確認をする。(30分)
	授業内容	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化の進行状況を確認し、修正点を指摘する。
	事後学習	指導内容を理解する。リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノートをまとめる。(30分)
10	事前学習	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノートをまとめてみての疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	研究ノート「リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察」の講評をし、必要があれば修正点を指摘する。
	事後学習	研究ノート「リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察」の講評結果を理解し、必要に応じて修正し、完成させる。(30分)
11	事前学習	リベラル・ジャーナリズムに関する先行研究を可能な限り用意する。(30分)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムの先行研究を確認する。受講者の考え方を確認しながら、必要な先行研究を選んでいく。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、用意する先行研究を再検討する。(30分)
12	事前学習	用意した先行研究の内容を確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムの先行研究に関して再検討し、研究ノートの参考文献とする先行研究を確定する。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、用意する先行研究を再検討する。(30分)
13	事前学習	用意した先行研究の内容を確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。先行研究を理解する上で、必要な文献があれば、そうした文献の指摘も行う。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、参考文献を用意する。(30分)
14	事前学習	参考文献の内容を確認するとともに、前回の指導にしたがって、先行研究が理解できているか確認する。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。並行して参考文献の読み方も指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、先行研究と参考文献の注意点を確認しておく。(30分)
15	事前学習	先行研究が精緻に読めたかどうかを確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	先行研究の理解の仕方を確認する。読んできた先行研究をまとめて、リベラル・ジャーナリズムに関する考察の発表準備の仕方を指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。リベラル・ジャーナリズムに関する考察の発表準備を行う。(30分)
16	事前学習	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の発表の内容を確認する。(30分)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の発表を行わせ、講評する。修正点を示し発表内容の再検討を促す。
	事後学習	指導内容を理解する。リベラル・ジャーナリズムに関する考察の発表内容を再検討する。(30分)

17	事前学習	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の発表の再検討内容を確認する。(30分)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の再発表を行わせ、講評する。研究ノート作成に向けての指導を行う。
	事後学習	指導内容を理解する。リベラル・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備を行う。(30分)
18	事前学習	リベラル・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備に伴う疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化を具体的に進める。目次などを確定させ、受講生が研究ノートを書き進めやすいように指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。リベラル・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化を進める。(30分)
19	事前学習	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化の進行途中での疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化の進行状況を確認し、修正点を指摘する
	事後学習	指導内容を理解する。リベラル・ジャーナリズムに関する考察の研究ノートをまとめる。(30分)
20	事前学習	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の研究ノートをまとめてみるの疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	研究ノート「リベラル・ジャーナリズムに関する考察」の講評をし、必要があれば修正点を指摘する。
	事後学習	研究ノート「リベラル・ジャーナリズムに関する考察」の講評結果を理解し、必要に応じて修正し、完成させる。(30分)
21	事前学習	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する先行研究を可能な限り用意する。(30分)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムの先行研究を確認する。受講者の考え方を確認しながら、必要な先行研究を選んでいく。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、用意する先行研究を再検討する。(30分)
22	事前学習	用意した先行研究の内容を確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムの先行研究に関して再検討し、研究ノートの参考文献とする先行研究を確定する。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、用意する先行研究を再検討する。(30分)
23	事前学習	用意した先行研究の内容を確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。先行研究を理解する上で、必要な文献があれば、そうした文献の指摘も行う。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、参考文献を用意する。(30分)
24	事前学習	参考文献の内容を確認するとともに、前回の指導にしたがって、先行研究が理解できているか確認する。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。並行して参考文献の読み方も指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、先行研究と参考文献の注意点を確認しておく。(30分)
25	事前学習	先行研究が精緻に読めたかどうかを確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	先行研究の理解の仕方を確認する。読んできた先行研究をまとめて、コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表準備の仕方を指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表準備を行う。(30分)
26	事前学習	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表の内容を確認する。(30分)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表を行わせ、講評する。修正点を示し発表内容の再検討を促す。
	事後学習	指導内容を理解する。コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表内容を再検討する。(30分)
27	事前学習	指導内容を理解する。コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備を行う。(30分)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の再発表を行わせ、講評する。研究ノート作成に向けての指導を行う。
	事後学習	指導内容を理解する。コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備を行う。(30分)
28	事前学習	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備に伴う疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化を具体的に進める。目次などを確定させ、受講生が研究ノートを書き進めやすいように指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化を進める。(30分)

29	事前学習	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化の進行途中での疑問点を確認をする。(30分)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化の進行状況を確認し、修正点を指摘する
	事後学習	指導内容を理解する。コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノートをまとめる。(30分)
30	事前学習	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノートをまとめてみての疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	研究ノート「コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察」の講評をし、必要があれば修正点を指摘する。
	事後学習	研究ノート「コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察」の講評結果を理解し、必要に応じて修正し、完成させる。(30分)

科目名	ジャーナリズム理論特殊演習(実証)	担当者	福田 充	期間	通年	単位数	2
-----	-------------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムとメディアに関する理論研究を実施するために必要な実証研究的アプローチを身につけるために、実際の社会調査を実施し、その調査データを分析して論文を作成する。ジャーナリズムとメディアに関する実証研究論文を作成する過程を演習として実践する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】 ジャーナリズムとメディアに関する理論研究における実証研究的アプローチの手法について、社会調査の方法やデータ分析の手法に関する能力を養成することを目的とする。 【到達目標】 受講生が自分自身で研究テーマを設定し、リサーチクエスションと仮説を構築した上で、実証研究を実施し、データ分析の手法を学び、論文を作成する能力を身につけることを目標とする。			
履修条件	大学院新聞学研究科の博士後期過程の大学院生であること。			
授業方法	受講生が実際に社会調査を実施し、その調査データをもとに論文を作成し完成させる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	毎回実施する社会調査演習の成果を評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	北樹出版	『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』	福田充
	2012	北樹出版	『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』	福田充
	備考			
参考書	福田充 (2010) 『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』 (慶應義塾大学出版会) . その他の参考書は演習中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜日 1 限、研究室にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
2	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究に関する先行研究発表①
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
3	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究に関する先行研究発表②
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
4	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究に関する先行研究発表③
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)

5	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究に関する先行研究発表④
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
6	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究に関する先行研究発表⑤
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
7	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の実施① 問題意識
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
8	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の実施② 研究対象の設定
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
9	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の実施③ 研究方法の構築
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
10	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の実施④ リサーチクエスションと仮説
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
11	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の実施⑤ 調査実施とデータ分析
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
12	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の実施⑥ 論文の作成
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
13	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の実施⑦ 論文の作成
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
14	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究の実施⑧ 論文の作成
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
15	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	前期のまとめと総括
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
16	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成①
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)

17	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成②
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)
18	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成③
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)
19	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成④
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)
20	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成⑤
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)
21	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成⑥
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)
22	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成⑦
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)
23	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成⑧
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)
24	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成⑨
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)
25	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成⑩
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)
26	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成⑪
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)
27	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成⑫
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)
28	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成⑬
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)

29	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディアの実証研究論文の作成⑭
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)
30	事前学習	先行研究の収集とまとめ。(120分)
	授業内容	まとめと総括
	事後学習	実証研究論文の作成作業。(120分)

科目名	ジャーナリズム理論特殊演習(規範)	担当者	塚本 晴二郎	期間	通年	単位数	2
-----	-------------------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	本講義は規範理論の領域における研究を深める目的で、規範理論の論文作成指導を行う。			
授業目的・到達目標	国際的な水準の研究に到達できるように、ジャーナリズムの規範理論を単なる知識ではなく、十分に理解し応用可能にすることを目的とする。ジャーナリズムの規範理論に関する論文を作成することによって、独自の視点からジャーナリズムに関する諸問題を新たに解釈し、位置づける専門的な分析能力を体得することを目標とする。			
履修条件	ジャーナリズムの規範理論を研究者としての、自らの専門領域にしようと思う者のみに履修してもらいたい。			
授業方法	論文を作成する。教員の指導、受講者の発表、両方で協力しての修士論文の作成といった手順で、進めていく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	論文完成度100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参考書	必要に応じて適宜支持する。			
オフィスアワー	原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。 研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seihiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自身の研究計画を明確に説明できるようにする。（30分）
	授業内容	論文完成までのスケジュールを説明するとともに、受講者の研究計画を確認する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。研究目的を再検討しておく。（30分）
2	事前学習	質問事項の整理、および研究目的を明確に説明ができるようにしておく。（30分）
	授業内容	研究目的設定の検討を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。参考とすべき先行研究を選んでおく（30分）
3	事前学習	質問事項の整理、および選んだ先行研究を明確に説明できるようにしておく。（30分）
	授業内容	先行研究の検討を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。方法論を検討しておく。（30分）
4	事前学習	質問事項の整理、方法論を明確に説明できるようにしておく。（30分）
	授業内容	方法論の検討を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。研究計画全体を再検討する。（30分）

5	事前学習	前回までの指導を踏まえ、研究計画を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	研究計画全体を再検討する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。研究テーマを再検討しておく。(30分)
6	事前学習	前回までの指導を踏まえ、研究テーマを明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	研究テーマを決定する。。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。仮説を再検討しておく。(30分)
7	事前学習	前回までの指導を踏まえ、仮説を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	仮説を再検討する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。論文概要の中間報告の準備を行う。(30分)
8	事前学習	前回までの指導を踏まえ、論文概要の中間報告の内容を確認する(30分)
	授業内容	論文概要の中間報告を行い、講評する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。必要な先行研究に関するレビューを完了しておく。(30分)
9	事前学習	先行研究のレビューを明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	先行研究のレビューを行う。その講評の後、先行研究を理解する上で、必要な文献があれば、そうした文献の指摘も行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。指導内容に応じて、参考文献を用意する。(30分)
10	事前学習	参考文献の内容を確認するとともに、前回の指導にしたがって、先行研究が理解できているか確認する。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。並行して参考文献の読み方も指導する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。指導内容に応じて、先行研究と参考文献の注意点を確認しておく。(30分)
11	事前学習	先行研究を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	先行研究の理解の仕方を確認し、指導する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。仮説と方法論の関係を再検討しておく。(30分)
12	事前学習	仮説と方法論の関係を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	仮説と方法論の関係を確認し指導する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。仮説と方法論の関係を確認し方法論を再検討する。(30分)
13	事前学習	方法論を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	方法論を確定する。
	事後学習	確定した方法論にしたがって、必要な資料やデータの収集を行う。(30分)
14	事前学習	収集した資料やデータを整理して報告できるようにしておく。(30分)
	授業内容	収集した資料やデータを確認し、追加資料等の必要性などを指導する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。資料やデータの収集を引き続き行う。(30分)
15	事前学習	収集した資料やデータを整理して報告できるようにしておく。(30分)
	授業内容	収集した資料やデータを再確認する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。収集した資料やデータを方法論に従って分析する。(30分)
16	事前学習	収集した資料やデータを方法論に従って分析結果を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	収集した資料やデータの分析結果の発表を行わせ、講評する。修正点を示し発表内容の再検討を促す。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。分析結果の発表内容を再検討する。(30分)

17	事前学習	分析結果の発表の再検討内容を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	分析結果の再発表を行わせ、講評する。分析結果の考察に向けての指導を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。分析結果の考察を行う。(30分)
18	事前学習	分析結果の考察を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	分析結果の考察を発表させ、講評する。考察の修正点を示し再検討を促す。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。考察の再検討を行う。(30分)
19	事前学習	再検討した考察を明確にしておく。(30分)
	授業内容	再検討した考察を報告させ、講評する。これまでの研究結果をまとめた発表の仕方を指導する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。まとめの発表の準備をする。(30分)
20	事前学習	まとめの発表の内容を確認しておく。(30分)
	授業内容	まとめの発表を行わせ、講評を行う。必要があれば修正点を指摘する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。修正点を踏まえて、再発表の準備をする。(30分)
21	事前学習	再発表の内容を確認しておく。(30分)
	授業内容	再発表の後、論文作成に移るための指導を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。指導に従って、目次等を作成する。(30分)
22	事前学習	論文の目次等を明確にしておく。(30分)
	授業内容	論文の目次等を確認し、必要な修正点を指摘する。目次に従って、論文作成を進めることを促す。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。論文作成を開始する。問題意識に関する記述から始める(30分)
23	事前学習	問題意識に関する記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	問題意識に関する記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。先行研究に関する記述を始める。(30分)
24	事前学習	先行研究に関する記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	先行研究に関する記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。方法に関する記述を始める。(30分)
25	事前学習	方法に関する記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	方法に関する記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。仮説の記述を開始する。(30分)
26	事前学習	仮説の記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	仮説の記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。事例等に関する記述を開始する。(30分)
27	事前学習	事例等の記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	事例等の記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。資料やデータに関する記述を開始する。(30分)
28	事前学習	資料やデータに関する記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	資料やデータに関する記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。序と結論の部分の記述を開始する。(30分)

29	事前学習	序と結論の部分の記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	序と結論の部分の記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。全体を通読し、疑問点はないか確認しておく。(30分)
30	事前学習	疑問点を整理しておく。(30分)
	授業内容	全体を通読し、最終的なチェックを行う。
	事後学習	誤字脱字等の間違いがないか、最終的な点検を行う。(30分)

科目名	ジャーナリズム理論特殊演習(社会)	担当者	小川 浩一	期間	通年	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	社会現象を対象として科学的に認識、分析、考察することを社会学の立場から実行する。						
授業目的・到達目標	授業目的:社会学的思考方法を修得する。 到達目標:研究論文を社会学的思考法を利用して展開する。						
履修条件	社会学の基礎知識を有していること。						
授業方法	テーマを決めてそれに関する討論、発表、レポート提示を行う。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	授業時における討論内容、発表内容、レポート内容の総合				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	備考	必要な史資料は授業時に配布、指示する。					
参考書							
オフィスアワー	非常勤なので、質問がある場合には事前に申し出て日程を調整してください。						

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	社会学の基礎知識の確認① (1時間)
	授業内容	社会学基礎知識の展開的説明①
	事後学習	基礎知識の暗記① (1時間)
2	事前学習	社会学の基礎知識の確認② (1時間)
	授業内容	社会学基礎知識の展開的説明②
	事後学習	基礎知識の暗記② (1時間)
3	事前学習	社会学の基礎知識の確認③ (1時間)
	授業内容	社会学基礎知識の展開的説明③
	事後学習	基礎知識の暗記③ (1時間)
4	事前学習	社会学の基礎知識の確認④ (1時間)
	授業内容	社会学基礎知識の展開的説明④
	事後学習	基礎知識の暗記④ (1時間)

5	事前学習	社会学の基礎知識の確認⑤ (1時間)
	授業内容	社会学基礎知識の展開的説明⑤
	事後学習	基礎知識の暗記⑤ (1時間)
6	事前学習	社会学の基礎知識の確認⑥ (1時間)
	授業内容	社会学基礎知識の展開的説明⑥
	事後学習	基礎知識の暗記⑥ (1時間)
7	事前学習	社会学の基礎知識の確認⑦ (1時間)
	授業内容	社会学基礎知識の展開的説明⑦
	事後学習	基礎知識の暗記⑦ (1時間)
8	事前学習	社会学の基礎知識の確認⑧ (1時間)
	授業内容	社会学基礎知識の展開的説明⑧
	事後学習	基礎知識の暗記⑧ (1時間)
9	事前学習	社会学的思考方法の具体例を考える① (1時間)
	授業内容	社会学的思考方法と他の思考方法①
	事後学習	授業内容の確実化① (1時間)
10	事前学習	社会学的思考方法の具体例を考える② (1時間)
	授業内容	社会学的思考方法と他の思考方法②
	事後学習	授業内容の確実化② (1時間)
11	事前学習	社会学的思考方法の具体例を考える③ (1時間)
	授業内容	社会学的思考方法と他の思考方法③
	事後学習	授業内容の確実化③ (1時間)
12	事前学習	社会学的思考方法の具体例を考える④ (1時間)
	授業内容	社会学的思考方法と他の思考方法④
	事後学習	授業内容の確実化④ (1時間)
13	事前学習	社会学的思考方法の具体例を考える⑤ (1時間)
	授業内容	社会学的思考方法と他の思考方法⑤
	事後学習	授業内容の確実化⑤ (1時間)
14	事前学習	社会学的思考方法の具体例を考える⑥ (1時間)
	授業内容	社会学的思考方法と他の思考方法⑥
	事後学習	授業内容の確実化⑥ (1時間)
15	事前学習	社会学的思考方法の具体例を考える⑦ (1時間)
	授業内容	社会学的思考方法と他の思考方法⑦
	事後学習	授業内容の確実化⑦ (1時間)
16	事前学習	論文テーマと内容の提示準備① (1時間)
	授業内容	社会学的思考法を利用した論文の提示①
	事後学習	論文化の準備① (1時間)

17	事前学習	論文テーマと内容の提示準備③ (1時間)
	授業内容	社会学的思考法を利用した論文の提示③
	事後学習	論文化の準備③ (1時間)
18	事前学習	論文テーマと内容の提示準備④ (1時間)
	授業内容	社会学的思考法を利用した論文の提示④
	事後学習	論文化の準備④ (1時間)
19	事前学習	論文テーマと内容の提示準備⑤ (1時間)
	授業内容	社会学的思考法を利用した論文の提示⑤
	事後学習	論文化の準備⑤ (1時間)
20	事前学習	論文テーマと内容の提示準備⑥ (1時間)
	授業内容	社会学的思考法を利用した論文の提示⑥
	事後学習	論文化の準備⑥ (1時間)
21	事前学習	論文テーマと内容の提示準備⑦ (1時間)
	授業内容	社会学的思考法を利用した論文の提示⑦
	事後学習	論文化の準備⑦ (1時間)
22	事前学習	論文テーマと内容の提示準備⑧ (1時間)
	授業内容	社会学的思考法を利用した論文の提示⑧
	事後学習	論文化の準備⑧ (1時間)
23	事前学習	論文テーマと内容の提示準備⑨ (1時間)
	授業内容	社会学的思考法を利用した論文の提示⑨
	事後学習	論文化の準備⑨ (1時間)
24	事前学習	論文テーマと内容の提示準備⑩ (1時間)
	授業内容	社会学的思考法を利用した論文の提示⑩
	事後学習	論文化の準備⑩ (1時間)
25	事前学習	論文テーマと内容の提示準備⑪ (1時間)
	授業内容	社会学的思考法を利用した論文の提示⑪
	事後学習	論文化の準備⑪ (1時間)
26	事前学習	論文テーマと内容の提示準備⑫ (1時間)
	授業内容	社会学的思考法を利用した論文の提示⑫
	事後学習	論文化の準備⑫ (1時間)
27	事前学習	論文テーマと内容の提示準備⑬ (1時間)
	授業内容	社会学的思考法を利用した論文の提示⑬
	事後学習	論文化の準備⑬ (1時間)
28	事前学習	最終発表のための文章化準備① (1時間)
	授業内容	文章化についての討論①
	事後学習	再検討、再構成① (1時間)

29	事前学習	最終発表のための文章化準備② (1時間)
	授業内容	文章化についての討論②
	事後学習	再検討、再構成② (1時間)
30	事前学習	最終発表用案準備 (1時間)
	授業内容	細分の検討
	事後学習	細部の確認 (1時間)

科目名	ジャーナリズム制度特殊研究(比較)	担当者	山本 賢二	期間	通年	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	中国の記者・研究者の日本のジャーナリズム・メディアに関する論考を読み、中国に映る日本のジャーナリズム・メディア像を概観する。						
授業目的・到達目標	日中の相互理解に果たすメディアの役割の可能性と限界を探ることを通じて、ジャーナリズム制度の比較研究の方法を修得し、説明できるようになることを目標とする。						
履修条件	授業で使用する言語は中国語と日本語であり、中国語が理解できることが望ましいが、日本語だけでも受講に支障はない。						
授業方法	記事・論文を読み、内容について議論し、問題点を指摘する。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	授業参与度50%、レポート（「中国の日本のジャーナリズム・メディア観」）50%。				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	2019年度	教員学生共有サイト掲載	2019 ジャーナリズム制度特殊研究(比較)教材	山本賢二編			
	2019年度	教員学生共有サイト掲載	日中関係資料(山本編)Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	山本賢二編			
	備考						
参考書	授業で適宜指示するほか、自ら関係著作、論文等を探し、参考にすること。						
オフィスアワー	月曜日と水曜日の12時30分から13時まで2号館9階講師室。時間が必要な場合は、別の時間を設定するので、事前に下記のアドレスに連絡すること。 yamamoto.kenji@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	日本歩入近代化程中的政府与新媒体之关系：周光明
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
2	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	日本媒体“二”的法西斯化：力丹
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
3	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	日本媒体和播政策的法西斯化：力丹
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
4	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	近代日本与当代中国新体制比研究：李佳
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)

5	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	十五年争与日本： 昆
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
6	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	从新体制角看日本 郭
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
7	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	日本媒介素养教育状： 宋阳
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
8	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	《球》道的日本形象
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
9	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	一个 一个宣言—跨入新世的日本新界自律范： 周建明
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
10	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	国化潮流中的日本大众播媒介： 国良
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
11	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	日本：探索互网代之路
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
12	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	周 勇日本雅虎的成功之道
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
13	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	日本的媒体、及其政策的影响：研
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
14	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	中日关系的两点播学思考：研
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
15	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	匡文波日本三大有关史教科的社框架： 宁
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
16	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	日本广播体制比之中国： 高昊
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)

17	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	中日国道之迂及比研究—以1982、1998年《人民日报》、《朝日新》等例：国良
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
18	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	儒家文化圈与媒体的播特浅析——以中日三国例
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
19	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	中日播学者聚北京探北的文化交流 — “2005北播学国研会” 述
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
20	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	日本漫的状分析
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
21	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	浅画影的析—以日本画影及其代表崎例：耿璐
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
22	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	日本画中国青年的文化影响力：王程森
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
23	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	从中日画片比看中国国画片的展区和方向
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
24	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	安倍政下的：行量、道和政治取向 王广涛
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
25	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	日本媒体怎民众
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
26	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	《》日本政府如何干媒体独立
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
27	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	旅日人：日本政府如何干媒体独立已磨刀霍霍，中国却重判日本民意
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
28	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	日本媒如何解中日新关系：卓南生
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)

29	事前学習	授業で検証する論考をよく読む。(30分以上)
	授業内容	再日本媒中日关系的解：卓南生
	事後学習	論考の問題点をまとめる。(30分以上)
30	事前学習	これまでまとめた内容に基づき議論用資料を準備する。(30分以上)
	授業内容	中国の記者・研究者の日本のジャーナリズム・メディア観について議論する。
	事後学習	議論した内容を自分の意見を含めてまとめる。(30分以上)

科目名	ジャーナリズム制度特殊研究(システム)	担当者	岩井 奉信	期間	通年	単位数	2
-----	---------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、現代日本における政治とメディアの相互関係について、その実態について実証的に研究していく。日本政治とメディアの関連性について概観した上で、近年、問題になっているテレビと政治との関係について、放送制度や放送法などを基礎に、実証的な研究を行っていく。						
授業目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアと政治に関する実態の理解</li> <li>・政治とメディアに関する分析視角についての問題意識の醸成</li> </ul>						
履修条件	履修にあたっては、単なるメディアやジャーナリズムへの関心だけでなく、現代日本政治に対する深い理解が必要である。						
授業方法	関連文献の輪読及び履修者による研究発表を基本とする。必要に応じて、学外での検修を行う場合がある。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	授業への出席状況、輪読や研究発表の内容などの状況を評価の対象とする。				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	2006年	朝日新聞社	テレビ政治	星浩ほか			
	2017年	東京大学出版会	政治を動かすメディア	逢坂巖			
	備考						
参考書	必要に応じて指示する						
オフィスアワー	月曜及び金曜昼休み、研究室にて						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	現代日本政治とメディアとの関係について、明確な問題意識を持つこと。(30分以上)
	授業内容	授業概要についての説明と履修者の関心領域の確認
	事後学習	問題意識の再確認と授業での自分の研究方向を再確認すること。(30分以上)
2	事前学習	現代日本政治とメディアとの関係について、明確な問題意識を持つこと。(30分以上)
	授業内容	メディアと政治についての現状について概観的な講義を行う。
	事後学習	問題意識の再確認と授業での自分の研究方向を再確認すること。(30分以上)
3	事前学習	『政治を動かすメディア』を事前に熟読すること。
	授業内容	『政治を動かすメディア』を輪読(30分以上)
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(30分以上)
4	事前学習	『政治を動かすメディア』を事前に熟読すること。(30分以上)
	授業内容	『政治を動かすメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(30分以上)

5	事前学習	『日本政治とメディア』を事前に熟読すること。(30分以上)
	授業内容	『日本政治とメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(30分以上)
6	事前学習	『日本政治とメディア』を事前に熟読すること。(30分以上)
	授業内容	『政治を動かすメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(30分以上)
7	事前学習	『政治を動かすメディア』を事前に熟読すること。(30分以上)
	授業内容	『政治を動かすメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(30分以上)
8	事前学習	『政治を動かすメディア』を事前に熟読すること。(30分以上)
	授業内容	『日本政治とメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(30分以上)
9	事前学習	『政治を動かすメディア』を事前に熟読すること。(30分以上)
	授業内容	『政治を動かすメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(30分以上)
10	事前学習	『政治を動かすメディア』を事前に熟読すること。(30分以上)
	授業内容	『政治を動かすメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(30分以上)
11	事前学習	『政治を動かすメディア』を事前に熟読すること。(30分以上)
	授業内容	『政治を動かすメディア』を輪読
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(30分以上)
12	事前学習	日本政治とメディアに関する各自の発表テーマを定めて分析すること。(30分以上)
	授業内容	現代日本における政治とメディアに関する討議
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(30分以上)
13	事前学習	日本政治とメディアに関する各自の発表テーマを定めて分析すること。(30分以上)
	授業内容	現代日本における政治とメディアに関する討議
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(30分以上)
14	事前学習	日本政治とメディアに関する各自の発表テーマを定めて分析すること。(30分以上)
	授業内容	現代日本における政治とメディアに関する討議
	事後学習	輪読内容にもとづき、自らの問題意識をより醸成させること。(30分以上)
15	事前学習	日本政治とメディアに関する各自の発表テーマを定めて分析すること。(30分以上)
	授業内容	前期まとめの議論
	事後学習	問題意識の再確認と授業での自分の研究方向を再確認すること。(30分以上)
16	事前学習	現代のテレビの政治報道について関心を高めておくこと。(30分以上)
	授業内容	テレビと政治に関する現代的課題についての概観
	事後学習	テレビと政治に関する自らの問題意識を醸成させること。(30分以上)

17	事前学習	戦後日本政治の流れについて、基礎的な知識を得ておくこと。(30分以上)
	授業内容	日本におけるテレビ政治の関係史 1
	事後学習	それぞれの時代における政治状況とテレビとの関係について再確認すること。(30分以上)
18	事前学習	戦後日本政治の流れについて、基礎的な知識を得ておくこと。(30分以上)
	授業内容	日本におけるテレビ政治の関係史 2
	事後学習	それぞれの時代における政治状況とテレビとの関係について再確認すること。(30分以上)
19	事前学習	戦後日本政治の流れについて、基礎的な知識を得ておくこと。(30分以上)
	授業内容	日本におけるテレビ政治の関係史 3
	事後学習	それぞれの時代における政治状況とテレビとの関係について再確認すること。(30分以上)
20	事前学習	小泉純一郎内閣の特質について、基礎的な知識を得ておくこと。(30分以上)
	授業内容	小泉純一郎内閣におけるメディア戦略研究 1
	事後学習	それぞれの時代における政治状況とテレビとの関係について再確認すること。(30分以上)
21	事前学習	小泉純一郎内閣の特質について、基礎的な知識を得ておくこと。(30分以上)
	授業内容	小泉純一郎内閣におけるメディア戦略研究 2
	事後学習	テレビと政治に関する自らの問題意識を醸成させること。(30分以上)
22	事前学習	小泉純一郎内閣の特質について、基礎的な知識を得ておくこと。(30分以上)
	授業内容	小泉純一郎内閣におけるメディア戦略研究 3
	事後学習	テレビと政治に関する自らの問題意識を醸成させること。(30分以上)
23	事前学習	安倍晋三内閣の特質について、基礎的な知識を得ておくこと。(30分以上)
	授業内容	安倍晋三内閣におけるメディア戦略研究 1
	事後学習	テレビと政治に関する自らの問題意識を醸成させること。(30分以上)
24	事前学習	安倍晋三内閣の特質について、基礎的な知識を得ておくこと。(30分以上)
	授業内容	安倍晋三内閣におけるメディア戦略研究 2
	事後学習	テレビと政治に関する自らの問題意識を醸成させること。(30分以上)
25	事前学習	安倍晋三内閣の特質について、基礎的な知識を得ておくこと。(30分以上)
	授業内容	安倍晋三内閣におけるメディア戦略研究 3
	事後学習	テレビと政治に関する自らの問題意識を醸成させること。(30分以上)
26	事前学習	自らの研究テーマを定め、実証的な研究を行うこと。(30分以上)
	授業内容	政治とメディアに関するインデペンデント・リサーチ 1
	事後学習	各自の研究発表を受けて、自ら研究発表を再確認すること。(30分以上)
27	事前学習	自らの研究テーマを定め、実証的な研究を行うこと。(30分以上)
	授業内容	政治とメディアに関するインデペンデント・リサーチ 2
	事後学習	各自の研究発表を受けて、自ら研究発表を再確認すること。(30分以上)
28	事前学習	自らの研究テーマを定め、実証的な研究を行うこと。(30分以上)
	授業内容	政治とメディアに関するインデペンデント・リサーチ 3
	事後学習	各自の研究発表を受けて、自ら研究発表を再確認すること。(30分以上)

29	事前学習	自らの研究テーマを定め、実証的な研究を行うこと。(30分以上)
	授業内容	政治とメディアに関するインデペンデント・リサーチ4
	事後学習	各自の研究発表を受けて、自ら研究発表を再確認すること。(30分以上)
30	事前学習	これまでの授業を振り返り、自らの問題意識を醸成すること。(30分以上)
	授業内容	政治とメディアに関するまとめの議論
	事後学習	政治とメディアに関する今後の研究について考えること。(30分以上)

科目名	ジャーナリズム制度特殊演習(システム)	担当者	岩井 奉信	期間	通年	単位数	2
-----	---------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムやマスメディアをめぐる法制度や政策に関し、各自がテーマを定め、自ら資料やデータを収集、分析することを通じて、今日のジャーナリズム及びメディア制度の実態について、その理想と現実にかんする実証的な研究を行っていく。			
授業目的・到達目標	ジャーナリズムやマスメディアをめぐる法制度や政策について、受講者が自らテーマを定め、実証的研究を行うことを通じて、現代日本におけるメディアと政治に関する知識と理解を深めるだけでなく、研究者に不可欠な問題意識の醸成を促し、独自に研究を進めていく力量を身につけることを目標とする。			
履修条件	日本政治とメディアについて、深い知識と関心を有し、特定のテーマに関する問題意識を持っていること。			
授業方法	各自がテーマを定め、自ら研究を行っていくインデペンデント・リサーチが中心となる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	研究への姿勢やその成果に対して評価を行う。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参考書	必要に応じて指示する。			
オフィスアワー	月曜及び金曜昼休み、研究室にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	現代日本政治におけるメディアの関係について、強い問題意識を持つこと。(30分以上)
	授業内容	ジャーナリズム制度の分析視点について検討する。
	事後学習	授業を受け、この授業で進めていく独自の研究テーマに関する認識を深めること。(30分以上)
2	事前学習	現代日本政治におけるメディアの関係について、強い問題意識を持つこと。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチのテーマの設定
	事後学習	授業を受け、この授業で進めていく独自の研究テーマに関する認識を深めること。(30分以上)
3	事前学習	現代日本政治におけるメディアの関係について、強い問題意識を持つこと。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチに関する具体的手順の検討。
	事後学習	授業を受け、この授業で進めていく独自の研究テーマに関する認識を深めること。(30分以上)
4	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進め、必要に応じて報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)



17	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
18	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
19	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
20	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
21	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
22	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
23	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
24	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
25	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
26	事前学習	これまでの研究成果にもとづき、作成する論文の構成について検討すること。(30分以上)
	授業内容	研究論文の構成案の作成
	事後学習	授業での検討にもとづき、論文構成のブラッシュアップを行う。(30分以上)
27	事前学習	研究論文の作成を行い、概要あるいはスケルトンを作成する。(30分以上)
	授業内容	研究論文の第一回の口頭発表
	事後学習	口頭発表にもとづき、論文内容のブラッシュアップを行う。(30分以上)
28	事前学習	研究論文を独自に作成する。(30分以上)
	授業内容	研究論文の第二回の口頭発表
	事後学習	口頭発表にもとづき、論文内容のブラッシュアップを行う。(30分以上)

29	事前学習	研究論文を独自に作成する。(30分以上)
	授業内容	研究論文の第三回の口頭発表
	事後学習	口頭発表にもとづき、論文内容のブラッシュアップを行う。(30分以上)
30	事前学習	研究論文を独自に作成する。(30分以上)
	授業内容	研究論文の最終口頭発表
	事後学習	口頭発表にもとづき、論文内容のブラッシュアップを行う。(30分以上)

科目名	ジャーナリズム史特殊研究(比較)	担当者	大井 眞二	期間	通年	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	比較ジャーナリズム史研究の方法論の諸パラダイムを批判的に検討する						
授業目的・到達目標	「プレス」の4理論」以後の比較ジャーナリズム史の方法論の諸パラダイムを、 ①Hallin & Manciniの西欧モデル ②脱西欧モデルの諸条件 を通して理解する						
履修条件	西洋史とりわけアメリカ史の基本的な知識と理解						
授業方法	テキスト『ジャーナリズム・スタディーズのフィールド』（学文社） 及び『Comparing Media Systems』の輪読と批判的レビュー						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	50%	研究報告	50%	課題報告	
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	平成30年度	Cambridge University Press	Comparing Media Systems 2004			D. Hallin & P. Mancini	
	備考						
参考書	大井眞二他訳「アメリカ報道史」（松柏社、2016年） 他については、授業の折に適宜紹介する。						
オフィスアワー	水曜日の午後1時半から2時半 あらかじめメールで用件の概要を伝えアポをとること						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスの熟読（30分以上）
	授業内容	講義概要・注意事項・参考文献紹介、次回授業の概要など
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
2	事前学習	テキストComparing Media Systems Introductionの精読（1）（30分以上）
	授業内容	Introductionの輪読と議論（1）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
3	事前学習	テキストComparing Media Systems Introductionの精読（2）（30分以上）
	授業内容	Introductionの輪読と議論（2）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
4	事前学習	テキストComparing Media Systems Introductionの精読（3）（30分以上）
	授業内容	Introductionの輪読と議論（3）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）

5	事前学習	テキストComparing Media Systems Introductionの精読（４）（３０分以上）
	授業内容	Introductionの輪読と議論（４）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（３０分以上）
6	事前学習	テキスト2章Comparing Media Systems の精読（１）（３０分以上）
	授業内容	2章 Comparing Media Systemsの輪読と議論（１）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（３０分以上）
7	事前学習	テキスト2章Comparing Media Systems の精読（２）（３０分以上）
	授業内容	2章 Comparing Media Systemsの輪読と議論（２）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（３０分以上）
8	事前学習	テキスト2章Comparing Media Systems の精読（３）（３０分以上）
	授業内容	2章 Comparing Media Systemsの輪読と議論（３）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（３０分以上）
9	事前学習	テキスト2章Comparing Media Systems の精読（４）（３０分以上）
	授業内容	2章 Comparing Media Systemsの輪読と議論（４）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（３０分以上）
10	事前学習	テキスト3章Media and Political Systems, and the Questions of Differentiationの精読（１）（３０分以上）
	授業内容	3章Media and Political Systems, and the Questions of Differentiationの輪読と議論（１）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（３０分以上）
11	事前学習	テキスト3章Media and Political Systems, and the Questions of Differentiationの精読（２）（３０分以上）
	授業内容	3章Media and Political Systems, and the Questions of Differentiationの輪読と議論（２）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（３０分以上）
12	事前学習	テキスト3章Media and Political Systems, and the Questions of Differentiationの精読（３）（３０分以上）
	授業内容	3章Media and Political Systems, and the Questions of Differentiationの輪読と議論（３）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（３０分以上）
13	事前学習	テキスト3章Media and Political Systems, and the Questions of Differentiationの精読（４）（３０分以上）
	授業内容	3章Media and Political Systems, and the Questions of Differentiationの輪読と議論（４）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（３０分以上）
14	事前学習	テキスト4章The Political Context of Media Systemsの精読（１）（３０分以上）
	授業内容	4章The Political Context of Media Systemsの輪読と議論（１）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（３０分以上）
15	事前学習	テキスト4章The Political Context of Media Systemsの精読（２）（３０分以上）
	授業内容	4章The Political Context of Media Systemsの輪読と議論（２）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（３０分以上）
16	事前学習	テキスト4章The Political Context of Media Systemsの精読（３）（３０分以上）
	授業内容	4章The Political Context of Media Systemsの輪読と議論（３）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（３０分以上）

17	事前学習	テキスト4章The Political Context of Media Systemsの精読（4）（30分以上）
	授業内容	4章The Political Context of Media Systemsの輪読と議論（4）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
18	事前学習	テキスト5章The Mediterranean of Polarized Pluralist Modelの精読（1）（30分以上）
	授業内容	5章The Mediterranean of Polarized Pluralist Modelの輪読と議論（1）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
19	事前学習	テキスト5章The Mediterranean of Polarized Pluralist Modelの精読（2）（30分以上）
	授業内容	5章The Mediterranean of Polarized Pluralist Modelの輪読と議論（2）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
20	事前学習	テキスト5章The Mediterranean of Polarized Pluralist Modelの精読（3）（30分以上）
	授業内容	5章The Mediterranean of Polarized Pluralist Modelの輪読と議論（3）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
21	事前学習	テキスト5章The Mediterranean of Polarized Pluralist Modelの精読（4）（30分以上）
	授業内容	5章The Mediterranean of Polarized Pluralist Modelの輪読と議論（4）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
22	事前学習	テキスト6章The North/Central European or Democratic Corporatist Modelの精読（1）（30分以上）
	授業内容	6章The North/Central European or Democratic Corporatist Modelの輪読と議論（1）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
23	事前学習	テキスト6章The North/Central European or Democratic Corporatist Modelの精読（2）（30分以上）
	授業内容	6章The North/Central European or Democratic Corporatist Modelの輪読と議論（2）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
24	事前学習	テキスト6章The North/Central European or Democratic Corporatist Modelの精読（3）（30分以上）
	授業内容	6章The North/Central European or Democratic Corporatist Modelの輪読と議論（3）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
25	事前学習	テキスト6章The North/Central European or Democratic Corporatist Modelの精読（4）（30分以上）
	授業内容	6章The North/Central European or Democratic Corporatist Modelの輪読と議論（4）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
26	事前学習	テキスト7章The North Atlantic or Liberal Modelの精読（1）（30分以上）
	授業内容	7章The North Atlantic or Liberal Modelの輪読と議論（1）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
27	事前学習	テキスト7章The North Atlantic or Liberal Modelの精読（2）（30分以上）
	授業内容	7章The North Atlantic or Liberal Modelの輪読と議論（2）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
28	事前学習	テキスト7章The North Atlantic or Liberal Modelの精読（3）（30分以上）
	授業内容	7章The North Atlantic or Liberal Modelの輪読と議論（3）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）

29	事前学習	テキスト7章The North Atlantic or Liberal Modelの精読（4）（30分以上）
	授業内容	7章The North Atlantic or Liberal Modelの輪読と議論（4）
	事後学習	リアクションペーパーの作成（30分以上）
30	事前学習	三つのモデルの特徴比較（復習）（30分以上）
	授業内容	Comparing Media Systemsの総括的評価
	事後学習	授業総括リアクションペーパーの作成（30分以上）

科目名	ジャーナリズム史特殊研究(思想)	担当者	小林 義寛	期間	通年	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	近代以降の社会にとって、ジャーナリズムおよびメディアをめぐる思考は、思想史においても重要な焦点となる。そこで、社会様式、メディア環境、情報環境の変容とともに、それらをめぐる思考をたどりながら、近代思想を捉え直す。			
授業目的・到達目標	社会体の編成のなかにジャーナリズムやメディアをめぐる思考を位置づけ、その変容を捉えられるようになる。単に思想の変化を単純な反映論や決定論ではなく、ディスクールの編成として捉え、それをもとに現代を考えられるようになる。			
履修条件	とくにない。			
授業方法	受講生と相談しながらテキストを選定し、講読……レジュメを作成し、議論を通して理解する形式をとる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常のテキスト講読、毎回のレジュメ作成と報告、議論とそれらのまとめとしてのレポート作成による。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	授業内容に記したように、受講生の目的にあわせて相談して決定する。		
参考書	授業時に適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜5限、研究室にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと。(30分以上)
	授業内容	ガイダンス授業 授業の目的、スケジュール、今後の計画など
	事後学習	講読すべきテキストの下調べ。(30分以上)
2	事前学習	前期のテキスト候補をいくつか選定しておく。(30分以上)
	授業内容	テキストの決定と概要理解、参考資料などの概説
	事後学習	テキストの理解とレジュメ作成。(30分以上)
3	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
4	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)

5	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
6	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
7	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
8	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
9	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
10	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
11	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
12	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
13	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
14	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日までの議論の確認と前期のまとめのレジュメ作成。(30分以上)
15	事前学習	前期のまとめとしての議論のポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	前期のまとめと議論。レポート作成指示。
	事後学習	レポート作成。(30分以上)
16	事前学習	後期のテキスト候補をいくつか選定しておく。(30分以上)
	授業内容	テキストの決定と概要理解、参考資料などの概説
	事後学習	テキストの理解とレジュメ作成。(30分以上)



29	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日までの議論の確認と後期のまとめのレジュメ作成。(30分以上)
30	事前学習	後期のまとめとしての議論のポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	後期のまとめと議論。レポート作成指示。
	事後学習	レポート作成。(30分以上)

科目名	ジャーナリズム史特殊演習(思想)	担当者	小林 義寛	期間	通年	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	近代以降の社会にとって、ジャーナリズムおよびメディアをめぐる思考は、思想史においても重要な焦点となる。そこで、社会様式、メディア環境、情報環境の変容とともに、それらをめぐる思考をたどりながら、現代へのアプローチを考える。			
授業目的・到達目標	社会体の編成のなかにジャーナリズムやメディアをめぐる思考を位置づけ、その変容を捉えられるようになる。単に思想の変化を単純な反映論や決定論ではなく、ディスクールの編成として捉え、それをもとに現代を考えられるようになる。			
履修条件	とくにない。			
授業方法	受講生と相談しながらテキストを選定し、講読……レジュメを作成し、議論を通して理解する形式をとる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常のテキスト講読、毎回のレジュメ作成と報告、議論とそれらのまとめとしてのレポート作成による。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	授業内容に記したように、受講生の目的にあわせて相談して決定する。		
参考書	授業時に適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜5限、研究室にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと。(30分以上)
	授業内容	ガイダンス授業 授業の目的、スケジュール、今後の計画など
	事後学習	講読すべきテキストの下調べ。(30分以上)
2	事前学習	前期のテキスト候補をいくつか選定しておく。(30分以上)
	授業内容	テキストの決定と概要理解、参考資料などの概説
	事後学習	テキストの理解とレジュメ作成。(30分以上)
3	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
4	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)

5	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジюме作成。(30分以上)
6	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジюме作成。(30分以上)
7	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジюме作成。(30分以上)
8	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジюме作成。(30分以上)
9	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジюме作成。(30分以上)
10	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジюме作成。(30分以上)
11	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジюме作成。(30分以上)
12	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジюме作成。(30分以上)
13	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジюме作成。(30分以上)
14	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日までの議論の確認と前期のまとめのレジюме作成。(30分以上)
15	事前学習	前期のまとめとしての議論のポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	前期のまとめと議論。レポート作成指示。
	事後学習	レポート作成(30分以上)
16	事前学習	後期のテキスト候補をいくつか選定しておく。(30分以上)
	授業内容	テキストの決定と概要理解、参考資料などの概説
	事後学習	テキストの理解とレジюме作成。(30分以上)



29	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日までの議論の確認と後期のまとめのレジュメ作成。(30分以上)
30	事前学習	後期のまとめとしての議論のポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	後期のまとめと議論。レポート作成指示。
	事後学習	レポート作成。(30分以上)

科目名	研究指導	担当者	小林 義寛	期間	通年	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	博士學位論文作成のため、アプローチ、テーマ設定、先行研究のレビュー、論文構成、などの重要な手続や方法を指導する。その際、テーマに関わる資料の収集はもとより、資料・文献の読み込み方、関連する先行研究の整理など、具体的に学術論文を作成する手続や技法を指導する。						
授業目的・到達目標	論文作成の諸過程において、研究の進捗状況に関する報告を義務づけ、過程に応じた指導を行う。その結果として、博士論文を完成すること。						
履修条件	社会学、文化理論、メディア理論の基礎知識を修得済みの者。						
授業方法	講義と演習を併用した形式で行う。履修者の学問関心を優先し、当該関心を社会科学における論文とする方途を指示する。科学性と論理性を常に問う。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	平生の発表内容と最終論文の成果内容				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考	とくにない。					
参考書	適宜指示する。						
オフィスアワー	水曜5限、研究室にて						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	研究テーマを明確にしておく。
	授業内容	ガイダンス。年度ごとの年間スケジュール、最終目標などの確認。今年度の計画。
	事後学習	年間スケジュールのなかで、研究の進行過程を位置づける。
2～10	事前学習	研究テーマ、問題意識、方法を確認する。
	授業内容	研究の目的の設定 方法論の検討 先行研究の検討
	事後学習	研究テーマに即して方法論の検討、先行研究の探索をおこなう。
11～20	事前学習	問題意識を明確にしておく。
	授業内容	仮説ないしは問題意識の再確認 研究テーマの決定 論文概要の中間報告
	事後学習	中間報告での問題点、不足点などを確認し、修正や深化へむけて展開する。
21～30	事前学習	今年度の論文作成のための問題等の明確化。投稿先の検索及び投稿条件などの確認。
	授業内容	論文指導
	事後学習	投稿条件にあわせて論文作成。

31	事前学習	今年度の目標設定。論文テーマ策定。
	授業内容	年間スケジュールの確認。論文投稿へ向けての準備。
	事後学習	今年度のテーマの明確化。
32～40	事前学習	今年度の論文作成のための問題等の明確化。投稿先の検索及び投稿条件などの確認。
	授業内容	仮説ないしは問題意識の再確認 今年度投稿論文の研究テーマの決定
	事後学習	投稿論文のための章立て
41～50	事前学習	投稿論文のための章立て
	授業内容	論文指導
	事後学習	投稿条件にあわせて論文作成。
51～60	事前学習	年度末～夏までの投稿論文へ向けての準備。投稿先及び条件の確認。
	授業内容	年度末～夏までの投稿論文のテーマ策定。
	事後学習	投稿論文のための章立て
61	事前学習	投稿論文のための章立て
	授業内容	年間スケジュールの確認。最終目標としての博士論文テーマの確認など。
	事後学習	研究テーマ、方法論、章立てなどを明確にする。
62～70	事前学習	研究テーマ、方法論、章立てなどを明確にする。
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。
71～80	事前学習	研究テーマ、方法論、章立てなどを明確にする。
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。
81～90	事前学習	研究テーマ、方法論、章立てなどを明確にする
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。博士論文完成。

科目名	研究指導	担当者	福田 充	期間	通年	単位数	2
-----	------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	博士後期過程におけるジャーナリズムとメディア研究において、研究計画を作成し、研究を実践する過程、そしてその研究成果を学術論文としてまとめる過程を学び、その能力を身につけるための研究活動全体を指導する。国際的な研究水準にかなう研究テーマと研究計画を確立し、その計画に基づいた研究を実践することで、グローバルに教育・研究の場を獲得しうる能力を養成することを目的とする。			
授業目的・到達目標	【授業目的】 受講生である博士後期過程の大学院生が、自らの個人研究テーマを確立し、そのテーマに沿って研究計画を構築し、その計画に沿って研究を実施する能力を養成することを目的とする。 【到達目標】 受講生が、自らの個人研究テーマを確立し、そのテーマに沿った研究計画に基づいて自主的な研究活動を実施できるようになること。			
履修条件	特になし。			
授業方法	ジャーナリズムとメディアに関して、毎回のテーマに沿って受講生が研究発表を行い、研究指導を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	毎回の研究指導において、受講生が行う研究発表を採点・評価し、平常評価とする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	北樹出版	『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』	福田充
	2010	慶應義塾大学出版会	『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』	福田充
	2012	北樹出版	『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』	福田充編
備考				
参考書	講義中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜日 1 限、研究室にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	指定の教科書の事前読解。(120分)
	授業内容	研究指導ガイダンス。
	事後学習	研究テーマの検討。(120分)
2～10	事前学習	指定の教科書・参考書・先行論文の収集と事前読解。(120分)
	授業内容	研究テーマと問題意識を構築する。
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
11～20	事前学習	指定の教科書・参考書・先行論文の収集と事前読解。(120分)
	授業内容	研究対象を設定し、先行研究を学ぶ。
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)
21～30	事前学習	指定の教科書・参考書・先行論文の収集と事前読解。(120分)
	授業内容	研究方法を確立し、仮説を構築する。
	事後学習	研究発表レジュメの作成。(120分)

31	事前学習	指定の教科書・参考書・先行論文の収集と事前読解。(120分)
	授業内容	研究指導ガイダンス。
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
32～40	事前学習	指定の教科書・参考書・先行論文の収集と事前読解。(120分)
	授業内容	研究の実施と研究データの分析。
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
41～50	事前学習	指定の教科書・参考書・先行論文の収集と事前読解。(120分)
	授業内容	研究成果の発表と論文の執筆。
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
51～60	事前学習	指定の教科書・参考書・先行論文の収集と事前読解。(120分)
	授業内容	論文の完成と研究発表。
	事後学習	研究発表レジユメの作成。(120分)
61	事前学習	指定の教科書・参考書・先行論文の収集と事前読解。(120分)
	授業内容	研究指導ガイダンス。
	事後学習	博士論文の執筆。(120分)
62～70	事前学習	指定の教科書・参考書・先行論文の収集と事前読解。(120分)
	授業内容	博士論文の作成① 学会論文の作成
	事後学習	博士論文の執筆。(120分)
71～80	事前学習	指定の教科書・参考書・先行論文の収集と事前読解。(120分)
	授業内容	博士論文の作成② 学会発表の実施準備
	事後学習	博士論文の執筆。(120分)
81～90	事前学習	指定の教科書・参考書・先行論文の収集と事前読解。(120分)
	授業内容	博士論文の作成③ 博士論文の完成
	事後学習	博士論文の執筆。(120分)

科目名	ジャーナリズム制度特殊演習(政策)	担当者	小川 浩一	期間	通年	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムと政治の内容についての多様な可能性の実証研究を示し、政策との関係についての錯綜した議論を修得することを通じて自己の研究に反映させるようにする。			
授業目的・到達目標	授業目的：政策に対するジャーナリズムの社会的機能を批判的に把握できるようにする。 到達目標：政権政党の政策に対するジャーナリズムの批判的機能の有効性を提示できるようにする。			
履修条件	ジャーナリズムと政治に関して、客観報道主義と議題設定機能の知識を修得していること。			
授業方法	基礎知識の確認を行った後に、テーマを決めて当該課題に関する討論、発表、レポート提示を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業時における討論準備、討論内容、発表内容、レポート内容の総合評価	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	授業時に必要な史資料、参考書を配布、指示する。		
参考書				
オフィスアワー	非常勤なので、質問がある場合には事前に申し出て日程を調整してください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	メディアと政治に関する知識の確認 (1時間)
	授業内容	メディアの効果①
	事後学習	知識の確実化と復習 (1時間)
2	事前学習	メディアと政治に関する知識の確認 (1時間)
	授業内容	メディアの効果②
	事後学習	知識の確実化と復習 (1時間)
3	事前学習	メディアと政治に関する知識の確認 (1時間)
	授業内容	メディアの効果③
	事後学習	知識の確実化と復習 (1時間)
4	事前学習	自己の研究と政策研究との関係の考察提示① (1時間)
	授業内容	研究方法の説明と予測される成果①
	事後学習	提示内容の再検討① (1時間)

5	事前学習	自己の研究と政策研究との関係の考察提示② (1時間)
	授業内容	研究方法の説明と予測される成果②
	事後学習	提示内容の再検討② (1時間)
6	事前学習	自己の研究と政策研究との関係の考察③ (1時間)
	授業内容	研究方法の説明と予測される成果③
	事後学習	提示内容の再検討③ (1時間)
7	事前学習	自己の研究と政策研究の関係の考察④ (1時間)
	授業内容	研究方法の説明と予測される成果④
	事後学習	提示内容の再検討④ (1時間)
8	事前学習	自己の研究と政策研究との関係の考察⑤ (1時間)
	授業内容	研究方法の説明と予測される成果⑤
	事後学習	提示内容の再検討⑤ (1時間)
9	事前学習	自己の研究と政策研究との関係の考察⑥ (1時間)
	授業内容	研究方法の説明と予測される成果⑥
	事後学習	提示内容の再検討⑥ (1時間)
10	事前学習	自己の研究と政策研究との関係の考察⑦ (1時間)
	授業内容	研究方法の説明と予測される成果⑦
	事後学習	提示内容の再検討⑦ (1時間)
11	事前学習	自己の研究と政策研究との関係の考察⑧ (1時間)
	授業内容	研究方法の説明と予測される成果⑧
	事後学習	提示内容の再検討⑧ (1時間)
12	事前学習	提示内容の再構築① (1時間)
	授業内容	研究内容の再検討①
	事後学習	提示内容の再検討と再構築① (1時間)
13	事前学習	提示内容の再構築② (1時間)
	授業内容	研究内容の再検討②
	事後学習	提示内容の再検討と再構築② (1時間)
14	事前学習	提示内容の再構築③ (1時間)
	授業内容	研究内容の再検討③
	事後学習	提示内容の再検討と再構築③ (1時間)
15	事前学習	提示内容の再構築④ (1時間)
	授業内容	研究内容の再検討④
	事後学習	提示内容の再検討と再構築④ (1時間)
16	事前学習	論文作成に向けてのメディアと政策の具体例の検討① (1時間)
	授業内容	論文の整合性の検討①
	事後学習	具体例の検討と再構築① (1時間)

17	事前学習	論文作成に向けてのメディアと政策の具体例の検討② (1時間)
	授業内容	論文御整合性の検討②
	事後学習	具体例の検討と再構築② (1時間)
18	事前学習	論文作成に向けてのメディアと政策の具体例の検討③ (1時間)
	授業内容	論文の具体例の整合性の検討③
	事後学習	具体例の検討と再構築③ (1時間)
19	事前学習	論文作成に向けてのメディアと政策の具体例の検討④ (1時間)
	授業内容	論文の整合性の検討④
	事後学習	具体例の検討と再構築④ (1時間)
20	事前学習	論文作成に向けてのメディアと政策の具体例の検討⑤ (1時間)
	授業内容	論文の整合性の検討⑤
	事後学習	具体例の検討と再構築⑤ (1時間)
21	事前学習	論文作成に向けてのメディアと政策の具体例の検討⑥ (1時間)
	授業内容	論文の整合性の検討⑥
	事後学習	具体例の検討と再構築⑥ (1時間)
22	事前学習	論文作成に向けてのメディアと政策の具体例の検討⑦ (1時間)
	授業内容	論文の整合性の検討⑦
	事後学習	具体例の検討と再構築⑦ (1時間)
23	事前学習	論文作成に向けてのメディアと政策の具体例の検討⑧ (1時間)
	授業内容	論文の整合性の検討⑧
	事後学習	具体例の検討と再構築⑧ (1時間)
24	事前学習	発表会資料作成準備① (1時間)
	授業内容	発表資料検討①
	事後学習	資料再構成① (1時間)
25	事前学習	発表会資料作成準備② (1時間)
	授業内容	発表資料検討②
	事後学習	資料再構成② (1時間)
26	事前学習	発表会資料作成準備③ (1時間)
	授業内容	発表資料検討③
	事後学習	資料再構成③ (1時間)
27	事前学習	発表会資料作成準備④ (1時間)
	授業内容	発表資料検討④
	事後学習	資料再構成④ (1時間)
28	事前学習	発表会資料作成準備⑤ (1時間)
	授業内容	発表資料検討⑤
	事後学習	資料再構成⑤ (1時間)

29	事前学習	発表会資料の最終案提示準備 (1時間)
	授業内容	最終案の批判的検討
	事後学習	最終案再検討 (1時間)
30	事前学習	最終案作成 (1時間)
	授業内容	細部の検討
	事後学習	細部の検討 (1時間)